

黃海
朝鮮海峽
日本海
同哥德斯克海
太平洋
第三條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁業獎勵金ヲ受クヘキ船舶乗組員ハ左ノ如シ
汽船

登簿噸數	百 以上	乘組定員	三十五名以下
同	二百噸以上	同	四十四名以下
同	二百五十噸以上	同	四十七名以下
同	三百噸以上	同	五十二名以下
同	三百五十噸以上	同	五十三名以下
帆船			
登簿噸數	六十噸以上	乘組定員	二十六名以下
同	八十 以上	同	二十八名以下
同	百噸以上	同	二十九名以下
同	百四十 以上	同	三十一名以下
同	百六十噸以上	同	三十二名以下
同	百八十噸以上	同	三十四名以下

同 二百噸以上 同 三十七名以下

◎遠洋漁業船舶裝規程 (明治三十年六月農商務省令第九號)

遠洋漁業船舶裝規程左ノ通相定メ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス
遠洋漁業船舶裝規程

- 第一條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁業獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ其船體ノ構造遠洋漁業ニ適シ明沿二十九法律第六十七號船舶検査法ニ依リ遠洋航船又ハ近海航船タルヘキ検査證書ヲ有スルモノニシテ本規程ニ合格シタルモノニ限ル
- 第二條 遠洋漁業船ノ船體ハ總甲板ヲ有シ適度ノ荷足ヲ搭載シ得ヘキ構造ナルヲ要ス
- 第三條 遠洋漁業船ハ漁艇ノ搭載捕獲物ノ處理及貯藏ニ必要ナル場所ヲ設クヘシ
- 第四條 遠洋漁業船ニシテ火藥室ヲ設クルノ必要アルモノハ安全ノ場處ニ構造スルヲ要ス
- 第五條 遠洋漁業船ハ漁艇及捕獲物等ノ揚卸ヲ便ニスル爲メ之ニ適スル支柱、索具、又ハ擇重器ヲ備フヘシ
- 第六條 遠洋漁業船ハ乗組員ニ對シ一人ニ付一日少クモ二升ノ割合ヲ以テ三箇月分ヨリ少ナカラサル飲用水ヲ貯藏シ得ヘキ水箱又ハ水樽ヲ備フヘシ但天水貯溜ノ裝置若クハ蒸溜器ノ備ヘアルモノ又ハ漁業ノ種類ニ依リ當該官吏ニ於テ本條ノ水量ヲ貯藏スルノ必要ナシト認メタルトキハ該水箱又ハ水樽ノ容積ヲ遞減スルコトヲ得
- 第七條 遠洋漁業船ニシテ其漁獵ノ方法船艇ヲ要スルモノハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ設備スヘシ
一 臘虎獵船 漁艇三隻以上

二 臘胸獸獵船 同 四隻以上

三 鯨獵船 同 二隻以上

四 右ノ外各種ノ獵船 同 二隻以上

前各號ノ漁艇ニハ每隻航海用具羅針盤信號喇叭及水樽ヲ備フルヲ要ス

第八條 遠洋漁業船ニ於テ使用スル漁獵具ハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ設備スヘシ

第一 臘虎、臘胸獸獵船

一 銃獵殺法ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付獵銃二挺以上及之ニ要スル彈丸、火藥、雷管等ヲ設備スルヲ要ス

二 投括獵法ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付網及竿ノ全備セル銃二艇以上トス

第二 鯨獵法

一 銃獵殺法ヲ爲スモノハ本船ニ銃砲二挺以上漁艇ニハ各二挺ニシテ之ニ要スル爆裂矢ハ銃砲一挺ニ付各二十發以上トシ火藥雷管等ハ其割合ヲ以テ之ヲ設備スヘシ

二 投括獵法ヲ爲スモノハ漁艇每隻銃四挺又ハ爆裂銃三挺以上トス

三 函捕鯨網ハ銃砲一挺又ハ漁艇一隻ニ付麻網三百尋以上トス

第三 右ノ外各種ノ漁船

一 釣漁ヲ爲スモノハ左ノ割合ヲ以テスヘシ

延繩漁ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付延繩千五百尋以上トス

手釣漁ヲ爲スモノハ漁夫一人ニ付手釣三具以上トス

二 網漁ヲ爲スモノハ左ノ割合ヲ以テスヘシ

刺網漁ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付刺網百尋以上トス

其他網漁ヲ爲スモノハ網及附屬具ノ全備セルモノ一統以上及其修覆ニ要スル原料ヲ備フルモノトス

三 釣漁、網漁ヲ爲スモノニシテ餌料ヲ要スルモノハ其採取又ハ貯藏ニ必要ナル器具ヲ備フルモノトス

狩獵及漁業終

第十六類 商事

●商業會議所條例

(明治二十三年九月法律第八十一號)

朕商業會議所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
商業會議所條例

第一條 此條例ニ商業者ト稱スルハ左ニ掲ケル者ヲ謂フ (明治二十八年法律第二十三號ヲ以テ本條各項トモ改正)

- 一 商法第四條ノ商取引及同第五條第一號第三號第四號第六號ニ掲ケタル取引ヲ營業トスル者
- 二 第一項ニ掲ケタル取引ヲ營業トスル合資會社株式會社及取引所
- 三 第一項ニ掲ケタル取引ヲ營業トスル合名會社ノ社員合資會社ノ業務擔當社員無限責任社員株式會社ノ取締役及取引所ノ理事長理事

第二條 商業會議所ヲ設立セントスルトキハ其地ノ商業者中此條例ニ依リ會員タルヲ得ヘキ者發起人ト爲リ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但發起人ノ數ハ定款ヲ以テ定ムヘキ會員ノ半數以上ナルコトヲ要ス

地方長官ハ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ郡若クハ市參事會ニ諮問シ其意見ヲ數シ倘ホ自己意見ヲ添ヘ農商務大臣ニ進達スヘシ

第三條 會議所設立地ノ境界ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但土地商業ノ情況ニ由リ數市町村ノ區域ヲ互ニ聯合シテ其地ニ一會議所ヲ設立スルコトヲ得 (明治二十六年農商務省訓令第二十號ヲ以テ數市町村聯合シテ會議所ヲ設立セントスルノ申請ヲ受ケタルトキハ其聯合スヘキ各市若クハ

各郡參事會ニ諮詢シ其意見ヲ徵スヘキコトト爲セリ

第四條 會議所ノ事務權限左ノ如シ(同上法令ヲ以テ本條第二項ヨリ第五項マテ改正ス)

一 商業ノ發達ヲ圖リ若クハ其衰退ヲ防クニ必要ノ方案ヲ議定スルコト

二 商業ニ關スル法律命令其他諸條規ノ制定改正廢止及施行方法ニ付意見ヲ行政廳ニ開申シ且商業上ノ利害ニ關スル意見ヲ行政廳其他ニ表示スルコト

三 商業ノ實況及其統計ヲ行政廳其他ニ報告スルコト

四 商業ニ關スル事項ニ付行政廳ノ諮問ニ應答スルコト

五 法律命令其他諸條規若クハ行政廳ノ委任ニ依リ其地ノ公設營業所、仲立人組合及商業ニ關スル諸營造物ヲ管理スルコト

六 仲立人ノ資格員數及手数料ヲ審査スルコト

七 關係人ノ請求ニ依リ其地ノ商業ニ關スル紛議ヲ仲裁スルコト

第五條 會議所設立地ニ於テ第一條第一項ノ營業ヲ爲シ又ハ第一條第三項ノ社員役員トナリ其地ニ於テ所得稅ヲ納ムル商業者並會議所設立地ニ於テ營業スル第一條第二項ノ會社及取引所ハ其會議所會員ノ選舉權ヲ有ス(同上法令ヲ以テ本條改正)

第六條 會員ノ選舉權ヲ有スル會社及取引所並三箇年以上繼續シテ會員ノ選舉權ヲ有スル年齡滿三十歲以上ノ男子ハ會員ノ被選舉權ヲ有ス(同上)

會社及取引所代表スヘキ者ハ第一條第三項ニ該當スル其社員役員ニシテ年齡滿三十歲以上ノ男子一人ニ限ル

第七條 第五條及第六條ニ掲ケタル會員ノ選舉權及被選舉權ニ關スル財産上ノ資格ニ付テハ農商務大臣ハ地方ノ情況ニ依リ所得稅又ハ會社取引所ノ資本額ニ基キ特ニ之ヲ規定スルコトヲ得(同上)

所得稅法第二十九條但書ニ掲ケタル地方ニ在テハ農商務大臣ハ所得稅ニ代フルニ他ノ稅ヲ以テシ且其稅額ニ基キ財産上ノ資格ヲ定ムルコトヲ得(同上)

第八條 左ニ掲ケル者ハ會員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セス

一 瘋癲白癡ノ者

二 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪、財産ニ對スル罪、風俗ヲ害スル罪、及信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期後又ハ赦免後三箇年ヲ經サル者

三 公權剝奪若クハ停止中ノ者

第九條 會員ノ數ハ十五名以上五十名以下各會議所ノ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十條 會員ハ無給トス其任期ハ四箇年トシ毎二年其半數ヲ改選ス初回ノ解任者ハ抽籤ヲ以テ定ムヘシ

第十一條 會員當選者ハ左ニ掲ケル者ヲ除クノ外會議所ノ議決ヲ經スシテ其就職ヲ辭シ又ハ任期中辭職スルコトヲ得ス

一 疾病若クハ老衰ニ依リ職務ニ堪ヘサルコトヲ證明スル者

二 營業ノ爲メ常ニ會議所設立地ニ住居スル能ハサルコトヲ證明スル者

第十二條 前條ノ規定ニ依ルニ非スシテ會員ノ職ヲ辭スル者ハ會議所ノ議決ヲ以テ二百圓以下ノ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十三條 會員ノ選舉ハ郡長若クハ市長委員ヲ命シ日時及場所ヲ定メテ施行セシム其費用ハ織

所ノ負擔トス

第十四條 第四條第七項ノ事件ニ係ル會議所ノ會議ハ公開スルコトヲ得ス(同上)

第十五條 會議所ハ第四條第七項ノ場合ニ於テ其關係人ヨリ相當ノ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第十六條 會議所ハ法人トシテ財産ヲ所有スルモノトス

第十七條 會議所ハ其議決ニ依リ會員定數ノ五分一ヨリ多ラサル特別會員ヲ置キ會議ニ參列セシムルコトヲ得但特別會員ハ其議決ニ加フルコトヲ得ス

特別會員ノ資格ハ學術技藝者クハ商業上ノ經驗アル者タルヘシ

第十八條 會議所經費ノ豫算ハ地方長官ヲ經由シ農務商大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 會議所ノ經費ハ會員ノ選舉權ヲ有スル者ヨリ徵收ス其徵收方法ハ會議所ノ議決ヲ以テ

地方長官ヲ經由シ農務商大臣ノ認可ヲ受ヘシ

經費ヲ納期ニ納メサル者アルトキハ其地ノ地方稅收入役ニ囑託シテ之ヲ徵收スルコトヲ得

收入役ノ督促ヲ受クルモ經費ヲ納メサル者ハ會員ノ選舉權及被選舉權ヲ四箇年以上八箇年以下

停止シ尙ホ二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十條 會議所ノ定款ハ會議所ノ議決ヲ以テ左ノ事項ヲ規定シ地方長官ヲ經由シ農務商大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 會員選舉規則

二 議事規則

三 庶務規程

四 役員職務權限

五 仲裁規則

六 會計規則

七 公設ノ營造物若クハ其營業所ノ管理規則

第二十一條 農商務大臣ハ會議所其權限ヲ犯シ又ハ商業上有害ノ行爲アリト認メタルトキハ會議

ヲ停止シ尙ホ其情況ニ依リ役員若クハ會員ノ幾部又ハ全部ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條 農商務大臣ハ此條例施行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令ヲ發スヘシ

附則 第二十三條 會議所會員ハ此條例ノ改正ニ依リ被選ノ資格ニ異動シ生スルモ任期中ハ其職ヲ失ハサルモノトス(同上法令ヲ以テ本條追加)

商業會議所條例施行規則

(明治二十八年八月農商務省令第九號)

明治二十三年(九月)農商務省令第十九號商業會議所條例施行規則左ノ通改正ス

商業會議所條例施行規則

第一條 商業會議所設立ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人連署スヘシ

一 會議所ノ名稱、位置

二 設立地ノ區域

三 定款ヲ以テ定ムヘキ會員ノ定數

設立地ノ區域數市町村ニ互ルトキハ各市町村ニ於テ發起人アルコトヲ要ス

第二條 地方長官會議所設立ノ認可申請書ヲ農商務大臣ニ進達スルトキハ發起人ノ職業年齡、所得稅納額ノ調書及會議所設立地ノ商業者中會員ノ選舉權ヲ有スル者、被選舉權ヲ有スル者ノ人員調書ヲ添附スヘシ

第三條 發起人會議所設立ノ認可ヲ得タルトキハ其旨ヲ設立地ノ商業者ニ公告シ認可ノ日ヨリ三十日以内ニ初回會員選舉規則及創立費豫算ヲ編製シ農商務大臣ノ認可ヲ申請スヘシ

第四條 發起人初回會員選舉規則及創立豫算ノ認可ヲ得タルトキハ認可ノ日ヨリ六十日以内ニ第七條ニ依リ會員選舉ノ施行ヲ請求スヘシ

第五條 發起人ハ會議所初回ノ會議ニ際シ其執行シタル事務ノ報告ヲ爲シ一切ノ書類物件ヲ會議所ニ引繼ケヘシ

第六條 會議所ハ前項ノ引繼ヲ受ケタル後六箇月以内ニ創立費決算報告書ヲ農商務大臣ニ進達スヘシ

第七條 會議所ハ會員ノ選舉ヲ爲ストキハ會員選舉人及被選舉人ノ名簿其他必要ノ書類ヲ添ヘ其地ノ郡長若クハ市長ニ選舉ノ施行ヲ請求スヘシ但會議所設立地ノ區域數市町村ニ互ルトキハ會議所ヲ設置スル地ノ郡長若クハ市長ニ請求スヘシ

第八條 郡長若クハ市長會議所又ハ發起人ヨリ會員選舉施行ノ請求ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ選舉委員五名ヲ命シ少クトモ十五日以上ノ豫告ヲ爲シ其選舉ヲ施行セシムヘシ

第九條 郡長若クハ市長會員ノ選舉ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 當選者ニ當選ノ通知ヲ爲シ會社、取引所ニハ通知ヲ爲スト同時ニ其代表人ノ氏名届出ヲ命スヘシ

二 選舉ニ關スル書類ハ會議所ニ引繼ケヘシ

三 會議所創立ノ場合ニハ選舉ヲ終リタル日ヨリ十五日以内ニ場所日時ヲ定メ會員ヲ召集シテ初回ノ會議ヲ開カシムヘシ

第十條 郡市町村長ハ會員選舉人被選舉人名簿ノ調製及會議所經費ノ賦課ニ關シテ必要ナル會員選舉權被選舉權ノ要件、所得稅納額及其他ノ納稅額調査ヲ爲メ會議所又ハ發起人ヨリ請求アルトキハ其書類ヲ開示スヘシ

第十一條 會議所ハ會員役員ノ就任退任アルトキハ七日以内ニ農商務大臣ニ届出ヘシ特別會員ヲ置キタルトキ亦同シ

第十二條 會議所ハ經費豫算ノ認可申請書ヲ會計年度二箇月以前ニ進達スヘシ但創立ノ場合ニ於テハ定款認可後二箇月以内ニ進達スヘシ

第十三條 會議所ハ財産目錄ヲ添ヘ會計年度經過後六箇月以内ニ進達スヘシ

第十四條 會議所ハ毎月執行シタル事務ノ要領ヲ翌月中ニ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十五條 地方長官會議所其權限ヲ犯シ又ハ商業上有害ノ虞アリト認めタルトキハ速ニ其事狀ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

◎商業會議所條例中東京市ニ於ケル所得
税ノ等級 (明治二十三年十月農商務省令第十七號)

東京市ニ於テハ商業會議所條例第五條及第六條中所得税ノ等級ヲ明治二十年(三月)勅令第五號所得税法第四條ノ第四等以上トス

◎商業會議所條例中大阪市ニ於ケル所得
税ノ等級 (明治二十八年二月農商務省令第二號)

大阪市ニ於テハ商業會議所條例第五條及第六條中所得税ノ等級ヲ明治二十年(三月)勅令第五號所得税法第四條ノ第四等以上トス但此規定ハ現ニ商業會議所ノ會員タル者ニ對シテハ任期滿了ノ時及退職ノ時ヨリ之ヲ施行ス

◎商業會議所條例中橫濱市ニ於ケル所得
税ノ等級 (明治二十八年八月農商務省令第十號)

橫濱商業會議所設立地ニ於テハ商業會議所條例第五條及第六條中所得税ノ等級ヲ明治二十年(三月)勅令第五號所得税法第四條ノ第四等以上トス

◎會社及取引所ノ會議所會員選舉權被選舉
權ニ關スル財産資格

(明治二十八年四月農商務省令第五號)

商業會議所條例第七條ニ依リ會社及取引所ノ會議所會員選舉權被選舉權ニ關スル財産ノ資格ヲ東京橫濱及大阪商業會議所設立地ハ資本金額一萬圓以上其他ノ商業會議所設立地ハ資本金額三千圓以上ト定ム(明治二十八年農商務省令第十四條ヲ以テ「東京」ノ下ニ「橫濱」ノ二字ヲ加フ)

◎北海道商業會議所會員選舉權被選舉權ニ
關スル財産資格方 (明治二十八年七月農商務省令第七號)

商業會議所條例第七條第二項ニ依リ北海道ニ設立スル商業會議所會員選舉權被選舉權ニ關スル財産上ノ資格ハ所得税ニ代フルニ地方税ヲ以テシ且其納額三圓以上ト定ム

◎取引所法 (明治二十六年三月法律第五號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル取引所法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 取引所ノ設立

第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若クハ數種ノ物件ノ取引所

ヲ設立スルコトヲ得

第二條 同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限リ設立スルコトヲ得但其ノ地區ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第四條 株式會社ノ取引所ハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

第二章 取引所ノ組織

第五條 取引所ハ土地商業ノ情況及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其取引所ノ仲買人及會員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得

取引所ノ責任ハ其ノ財産ニ限ルモノトス

第八條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ營業部類ニ屬スル商品ノ倉庫ヲ設置シ及指圖式ノ倉荷證書ヲ發行スルコトヲ得

取引所ハ其倉荷證書ニ對シ前貸ヲ爲シ又ハ買受クルコトヲ得ス

第九條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受ケヘシ

第三章 取引所ノ會員、株主及仲買人

第十條 一箇年以上取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ハ定款ノ規程ニ從ヒ其ノ取

引所ノ會員トナルコトヲ得

二箇年以上其ノ取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ニシテ年齢二十五歳以上ノ者ハ政府ノ免許ヲ受ケ其取引所ノ仲買人トナルコトヲ得

一種ノ商業ニ付前項ノ資格ヲ有スル者ハ土地商業ノ情況ニ依リ二種以上ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ノ仲買人タル免許ヲ受クルコトヲ得

第十一條 帝國臣民ニ非サレハ取引所ノ會員、株主又ハ仲買人トナルコトヲ得ス

婦女、未成年者、公權剝奪及停止中ノ者、復權セサル破産者及家資分散者並ニ取引所ニ於テ除名ノ處分ヲ受ケタル者ハ取引所ノ會員タルコトヲ得ス

重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用ヲ害スル罪、財産ニ對スル罪、商業及農工業ヲ妨害スル罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレ其ノ滿期若ハ赦免後二箇年ヲ經サル者及前項ニ該當スル者ハ取引所ノ仲買人タルコトヲ得ス

第十二條 取引所ノ會員ハ自己ノ計算ヲ以テスルノ外取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトト間ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引所ノ仲買人ハ其ノ免許ヲ受クルトキ免許料ヲ納ムヘシ
免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 取引所ノ會員及仲買人ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲定款ノ規定ニ依リ會員又ハ仲買人ノ營業ヲ停止シ五百圓以内ノ過怠金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ仲買人ヲ除名スルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選
舉シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ役員左ノ如シ

理事長 一人

理事 二人以上

監査役 若干人

理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ

第十一條第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

第十七條 取引所ノ役員及雇人ハ其ノ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス但監査役ハ此ノ限
ニ在ラス

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ハ直取引延取引及定期取引ノ三種トス

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ
損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 株式會社組織ノ取引所ハ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責ニ任スヘシ
前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求ス

ルコトヲ得

第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應シ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ
認可ヲ受クヘシ

第二十四條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十五條 取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコト
ヲ得ス

第二十六條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ハ公定相場トス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害
アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取引所ノ解散

二 取引所ノ停止

三 取引所一部ノ停止若ハ禁止

四 役員ノ解職

五 會員又ハ仲買人ノ營業停止若ハ除名

第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其ノ他一切
ノ物件及會員又ハ仲買人ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及
仲買人ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其ノ決議及處分ヲ

停止シ、禁止シ若ハ取消スコトヲ得

第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七章 罰則

第三十一條 第十二條第一項及第十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十五條ニ違背シタル者及公定相場ヲ偽リタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十三條 取引所ノ税則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料、及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲ササルモノハ此ノ限ニ在ラス

取引所法施行規則

(明治二十六年七月農商務省令第十三號)

取引所法施行規則左ノ通相定ム
取引所法施行規則

第一條 會員組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記載シタル發起認可申請書ニ假定款及發起人ノ履歷書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

一 取引所ノ組織名稱位置

二 資本金及發起人各自ノ引受クル釐金額

三 資本金使用ノ概算

四 賣買取引スヘキ物件

五 取引所ノ地區ト爲サント欲スル市町村名

六 設立ヲ要スル事由

七 賣買取引スヘキ物件ノ其市街内ニ於ル集散ノ沿革及現況

八 其市街内會員又ハ仲買人タルヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品毎ニ區別スヘシ

第二條 株式會社組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ商法第百五十九條ニ據リ提出スヘキ發起認可申請書ニ第一條第四號乃至第八條ノ事項ヲ記載シタル書面及發起人ノ履歷書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

第三條 農商務大臣取引所ノ地區ヲ定メタルトキハ隨時之ヲ告示スヘシ

第四條 取引所設立發起人ノ人員ハ賣買取引セントスル物件ノ各種類毎ニ二十五人以上タルヘシ

發起人ハ賣買取引セントスル物件ノ各種類ニ對シ人員ノ二分一以上ハ其種類ノ營業者ニシテ會員組織ノ取引所ニ於テハ會員又ハ仲買人株式會社組織ノ取引所ニ於テハ仲買人タルノ資格ヲ有スル者タルヘシ

第五條 取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ但其他必要ノ事項ハ之ヲ掲載スヘシ

- 一 取引所ノ名稱位置及地區
- 二 賣買取引スヘキ物件
- 三 資本金、株式ニ關スル事項
- 四 會員仲買人ノ入退、身元保證金、組合、代理人ニ關スル事項
- 五 役員ノ選舉及其職務ニ關スル事項
- 六 會議ニ關スル事項
- 七 取引所及手数料及仲買人口錢ニ關スル事項
- 八 仲買人ノ業務ニ關スル事項
- 九 市場ノ開閉及休業ニ關スル事項
- 十 賣買及受渡ニ關スル事項
- 十一 倉庫ニ關スル事項
- 十二 公定相場ニ關スル事項
- 十三 取引所ノ帳簿、記錄及會員、仲買人ノ帳簿ニ關スル事項
- 十四 取引所ノ出納決算ニ關スル事項
- 十五 準備ノ積立金保管及出納ニ關スル事項

十六 仲裁ニ關スル事項

十七 違約處分ニ關スル事項

十八 定款ノ變更及解散ニ關スル事項

第六條 會員組織ノ取引所ノ發起人ニ於テ發起ノ認可ヲ得タルトキハ少クトモ十四日間之ヲ公告シ會員募集スヘシ其公告中ニハ認可ノ年月日、第一條第一號乃至第四號ノ事項、取引所ノ地區及發起人ノ氏名ヲ掲載シ且各會員申込人ニ假定款ヲ展閱セシムル旨ヲ附記スヘシ

株式會社組織ノ取引所ニ於テ目論見書ヲ公告シ株主ヲ募集スルトキハ其公告中ニハ商法第百六十條規定ノ外第一條第四號ノ事項及取引所ノ地區ヲ掲載スヘシ

第七條 會員組織ノ取引所ノ發起人ハ會員ヲ募集シタル後創業總會ヲ開クヘシ其總會ニ於テ總會員申込人ノ半数以上ノ承諾ヲ得テ定款ヲ定メ役員ヲ選舉シ後ヲ設立免許申請書ニ會員申込簿ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出シ免許ヲ受クヘシ

株式會社組織ノ取引所ノ發起人ハ商法第百六十六條ニ據リ設立免許申請書ヲ農商務大臣ニ差出シ免許ヲ受クヘシ

取引所ノ發起人ハ設立免許申請ト同時ニ定款及役員認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ但役員ノ履歷書ヲ添付スヘシ

第八條 役員ノ認可ヲ得タルトキハ發起人其事務ヲ役員ニ引渡スヘシ

第九條 役員ニ於テ開業ノ準備ヲ整頓シタルトキハ開業ノ日ヲ定メ農商務大臣ニ届出ツヘシ但株式會社組織ノ取引所ニ於テハ開業届出前ニ營業保證金納入ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 取引所ハ設立ノ受許ヲ得タル日ヨリ六箇月以内ニ開業セサルトキハ其免許ノ效力ヲ失フ

モノトス

第十一條 取引所ノ仲買人ノ免許ヲ得ントスル者ハ其願書ニ履歷書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十二條 農商務大臣仲買人ノ免許ヲ與ヘタルトキハ地方長官ヲ經由シ免許狀ヲ取引所ニ送付シ取引所ハ免許料ノ金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シタル受書及身元保證金ヲ差出サシメタル上之ヲ本人ニ交付スヘシ

免許狀ノ受書ハ速ニ取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十三條 仲買人廢業シタルトキハ免許狀ヲ添ヘ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十四條 仲買人免許狀ヲ紛失シタルトキハ事由ヲ具シ農商務大臣ニ申出テ更ニ其交付ヲ請フヘシ

仲買人氏名ヲ變更シタルトキハ免許狀ヲ添ヘ農商務大臣ニ申出テ書換ヲ請フヘシ

第十五條 取引所ハ左ノ報告書ヲ調製シ各期限ニ從ヒ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 毎日公定相場表

二 毎月賣買高表

三 毎月商品集散及商況報告

以上翌月十五日限り發送

四 收支豫算表

以上議定後十五日限り發送

五 每半季財産目錄

六 每半季貸借對照表

七 每半季損益計算表

八 每半季末日現在會員株主仲買人氏名表

以上決算期後二十日限り發送

第十六條 取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ文書ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ハ前項書類ヲ接受シタルトキハ意見書ヲ添附シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但取引所設立人發起認可申請書ヲ接受シタルトキハ發起人ノ身元ヲ詳查スヘシ

第十七條 仲買人ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ文書ハ總テ之ヲ取引所ニ差出シ取引所ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

◎取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料、

積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程並仲

買人免許料金額ノ件 (明治二十六年七月勅令第七十四號)

朕取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料、積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程並仲買人免許料金額ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 株式會社組織ノ取引所ノ資本金ハ三萬圓以上トス

農商務大臣ハ賣買取引ノ狀況ニ因リ必要ト認ムルトキハ資本金額ヲ増加セシムルコトヲ得

第二條 會員組織ノ取引所ノ創設及維持ノ資本金ハ其會員ノ醵金ヲ以テ之ニ充ツヘシ解散ノ場合

モノトス

第十一條 取引所ノ仲買人ノ免許ヲ得ントスル者ハ其願書ニ履歷書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十二條 農商務大臣仲買人ノ免許ヲ與ヘタルトキハ地方長官ヲ經由シ免許狀ヲ取引所ニ送付シ取引所ハ免許料ノ金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シタル受書及身元保證金ヲ差出サシメタル上之ヲ本人ニ交付スヘシ

免許狀ノ受書ハ速ニ取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十三條 仲買人廢業シタルトキハ免許狀ヲ添ヘ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十四條 仲買人免許狀ヲ紛失シタルトキハ事由ヲ具シ農商務大臣ニ申出テ更ニ其交付ヲ請フヘシ

仲買人氏名ヲ變更シタルトキハ免許狀ヲ添ヘ農商務大臣ニ申出テ書換ヲ請フヘシ

第十五條 取引所ハ左ノ報告書ヲ調製シ各期限ニ從ヒ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 毎日公定相場表

二 毎月賣買高表

三 毎月商品集散及商況報告

以上翌月十五日限り發送

四 收支豫算表

以上議定後十五日限り發送

五 每半季財産目錄

六 每半季貸借對照表

七 每半季損益計算表

八 每半季末日現在會員株主仲買人氏名表

以上決算期後二十日限り發送

第十六條 取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ文書ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ハ前項書類ヲ接受シタルトキハ意見書ヲ添附シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但取引所設立人發起認可申請書ヲ接受シタルトキハ發起人ノ身元ヲ詳查スヘシ

第十七條 仲買人ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ文書ハ總テ之ヲ取引所ニ差出シ取引所ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料、

積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程並仲

買人免許料金額ノ件 (明治二十六年七月勅令第七十四號)

朕取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料、積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程並仲買人免許料金額ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 株式會社組織ノ取引所ノ資本金ハ三萬圓以上トス

農商務大臣ハ賣買取引ノ狀況ニ因リ必要ト認ムルトキハ資本金額ヲ増加セシムルコトヲ得

第二條 會員組織ノ取引所ノ創設及維持ノ資本金ハ其會員ノ醵金ヲ以テ之ニ充ツヘシ解散ノ場合

ニ於テ存留スル資本及其他ノ財産ハ一切ノ義務ヲ解除シタル後ニ於テ現時ノ各會員ニ平分スヘシ

第三條 取引所ニシテ倉庫ヲ設置スルトキハ其倉庫ニ關スル資本金ハ第一條及第二條ノ資本金以外ニ之ヲ増加スヘシ

第四條 株式會社組織ノ取引所ノ營業保證金額ハ其資本金額ノ三分ノ一トス但倉庫ノ爲メ増加シタル資本金ハ之ヲ算入セス

營業保證金ハ營業開始前大藏省「預金局」預金ノ證書若クハ國債地方債證券ヲ以テ其金額ヲ地方廳ニ納ムヘシ但國債地方債證券ヲ以テ納入スル場合ニ於テハ其價格ハ農商務大臣ノ指定スル所ニ依ルヘシ

資本金増額ノ場合ニ於テ増納スヘキ營業保證金ハ農商務大臣ノ指定スル日限マテニ其手續ヲ爲スヘシ

第五條 取引所ノ資本金ノ各株式ハ其株金ノ半額以上拂込前ニ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 會員組織ノ取所所ニ於テハ利益ヲ會員ニ分配スルノ目的ヲ以テ手数料ヲ徵收スルコトヲ得ス

第七條 取引所ニ於テ賣買雙方ヨリ徵收スル手数料ハ取引所ノ組織賣買ノ物件賣買ノ方法及賣買ノ狀況ニ應ジ賣買約定代金ノ千分ノ八ヲ超過スルコトヲ得ス

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ定限以内ニ於テ取引所ノ手数料ノ率ヲ改定セシムルコトヲ得

第八條 會員組織ノ取引所ハ毎年其總收入金ノ二十分ノ一二相當スル金額ヲ準備ノ積立金トシテ

積置クヘシ但準備ノ積立金額資本金額ノ四分ノ一以上ニ達シタルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ其積立ヲ停止シ若クハ其積立金額ノ率ヲ減少スルコトヲ得

第九條 取引所ノ準備ノ積立金ヲ支出セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第十條 取引所ハ毎日一定ノ時間ニ於テ直取引、延取引、及定期取引ノ市場ヲ開閉スヘシ但定款ヲ以テ定例及臨時休業ヲ爲スノ場合ヲ規定スルコトヲ得

第十一條 取引所ノ賣買取引ノ契約ハ現物、見本又ハ餘柄ニ依リ取結フヘシ

第十二條 取引所ノ賣買取引ノ契約履行ノ期限ハ當日ヨリ起算シ直取引ハ五日以内延取引ハ百五十日以内賣買雙方約定ノ日限ニ依リ定期取引ハ三箇月以内取引所指定ノ限月ニ依ルヘシ

第十三條 取引所ノ定期取引ニ限リ左ノ方法ヲ用ウルコトヲ得

一 單位ヲ定メテ賣買スルノ方法

二 競賣買ヲ爲スノ方法
三 米ニ限リ標準物ヲ以テ賣買契約ヲ爲シ取引所ニ於テ豫メ指定スル同種商品ノ格付ニ從ヒ代品ヲ以テ受渡ヲ爲スノ方法

四 契約期限内ニ於テ爲シタル轉賣買戻ヲ取引所ノ帳簿ニ記載スル所ニ依リ相殺スルノ方法

五 賣買雙方ヨリ證據金ヲ差出サシムルノ方法
取引所ハ特ニ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ直取引及延取引ニ於テモ亦賣買雙方ヨリ證據金ヲ差出サシムルノ方法ヲ用ウルコトヲ得

第十四條 取引所ニ於テ賣買取引ノ契約ヲ爲シタルトキハ賣買雙方ノ氏名賣買品ノ數量及其價格ヲ取引所ノ帳簿ニ記載スヘシ

第十五條 買賣取所ノ物件代金ノ受渡ハ取引所ノ役員立會ノ上執行スヘシ
第十六條 取引所ノ仲買人免許料金額ハ十圓トス

米又ハ有價證券ノ取引市場ノ設立ニ 關スル件 (明治二十九年三月農商務省令第一號)

米又ハ有價證券ヲ取引スル市場ハ爾今地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受ケルニアラサレハ
設立スルコトヲ得ス犯ス者ハ十圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以下ノ重禁
錮ニ處ス

日本銀行條例 (明治十五年六月第三十二號布告)

日本銀行條例左ノ通制定ス

日本銀行條例

第一條 日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモ
ノトス

第二條 日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ
又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀
行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルトキハ其事由ヲ「大藏卿」ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘ
シ又「大藏卿」ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスル時ハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトヲ

ルヘシ

第三條 日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ
請願スルコトヲ得

第四條 日本銀行ノ資本金ハ一千万圓ト定メ之ヲ五万株ニ分チ一株二百圓トス但株主總會ノ決議
ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルコトヲ得

第五條 日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條 日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 資本金總額五分ノ一即チ二百萬圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但資本金募集
ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス

第八條 營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタル時ハ其事由ヲ審明シ資本入
金殘額ヨリ其闕額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第九條 事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ増加ヲ要スル時ハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十條 純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クトモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立
金ト爲ス可シ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條 日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

- 第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事
- 第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬並諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但其金額及利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時時決議シ「大藏卿」ノ許可ヲ受ケヘシ

第十二條 日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲クル條件ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス

第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事

第十三條 政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ

第十四條 日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行券ヲ發行セシムル時ハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スル者トス

第十五條 日本銀行ハ諸手形及切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條 日本銀行ハ公債證書ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ「大藏卿」ノ許可ヲ受ケヘキモノトス

第十七條 日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル者トス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

人ヲ置クヘシ

第十八條 總裁副總裁ハ任期五箇年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ選舉シ大藏大臣之ヲ命シ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選舉ス(明治二十三年法律第六十一號ヲ以テ本項ヲ改正シ次項以下各項ヲ追加シ但此法律ハ商法實施ノ日ヨリ施行スヘキコトトセリ)

理事ノ任期ハ四年トシ監事ノ任期ハ三年トス

理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社ノ役員タルヲ許サス

第二十條 總裁ハ每中期ニ通常株主總會ヲ召集ス(同上)

總裁ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ必要ト認ムルトキハ臨時株主總會ヲ召集ス

總裁ハ監事ノ全員又ハ株主總會ノ會員タル者五十名以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求スルトキハ臨時株主總會ヲ召集セサルコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ開會ハ六十日前ヨリ引續キ十株以上ヲ所有スル者ニ限ル

株主總會ニ於テハ會員ニ代理ヲ委託スルノ外他人ヲ以テ代理人トナスコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ株數十箇ニ付投票一箇ノ權利ヲ有ス十一株以上ハ五十株毎ニ一箇ノ投票權ヲ增加ス但他人ノ代理委託ヲ受クル者ハ其代理ニ屬スル權利ハ十箇以上ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十一條 「大藏卿」ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條 日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ「大藏卿」ヘ報告ス可シ

第二十三條 日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘシ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受ク可シ
第二十四條 政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戾スル事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ル事件ハ之ヲ制止スヘシ
第二十五條 此條例ヲ改正増削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三箇月以前ニ之ヲ布告スヘシ

◎兌換銀行券條例 (明治十七年五月第十八號布告)

兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス但明治七年(九月)第百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一箇年ノ後廢止ス

(別紙)

兌換銀行券條例

第一條 兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ金貨ヲ以テ兌換スルモノトス(明治三十年三月法律第十八號ヲ以テ「銀貨」トアリシヲ「金貨」ト改ム)
第二條 日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置其引換準備ニ充ツヘシ但銀貨及地金ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス(明治二十一年勅令第五十九號ヲ以テ本項改正シ同三十年六月法律第十八號ヲ以テ但書ヲ加フ)
日本銀行ハ前項ノ外特ニ八千五百萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項八千五百萬圓ノ内二千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發行スルモノトス(同

上法令ヲ以テ本項追加明治二十三年法律第三十四號ヲ以テ七千萬圓ヲ八千五百萬圓ニ改ム)
日本銀行ハ市場ノ景況ニ由リ流通貨幣ノ増加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ政府公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時時大藏大臣之ヲ定ム(明治二十一年勅令第五十九號ヲ以テ本項追加ス)

日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲メ二千二百萬圓ヲ限リ無利子ヲ以テ政府ニ貸付スヘシ(同上法令ヲ以テ本項追加シ明治二十三年法律第三十四號ヲ以テ更ニ之ヲ改正ス)

前項貸付金ノ償還年限及毎年償還金額ハ大藏大臣之ヲ定ム(明治二十一年勅令第五十九號ヲ以テ本項追加)

第三條 兌換銀行券ノ種類ハ一圓五圓十圓二十圓五十圓百圓二百圓ノ七種トス但「大藏卿」ハ各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條 兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

第五條 兌換銀行券ハ「大藏卿」ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時時其製造高ヲ「大藏卿」ニ上申スヘシ但其見本ハ發行期日前「大藏卿」ヨリ告示スヘシ

第六條 兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ兌換スヘシ但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ得(明治十八年第九號布告ヲ以テ但書追加)

第七條 金貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換シコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ

於テ無手数料ニテ之ヲ交換スルモノトス (明治三十年六月法律第十八號ヲ以テ「金銀貨」トアリ
シテ「金貨」ト改ム)

第八條 日本銀行ハ兌換銀行券發行額及交換準備ニ關スル出納日表及每週平均高表ヲ製シ之ヲ大
藏大臣ヘ進達シ且每週平均高表ハ官報ニ廣告スヘシ (明治二十一年勅令第五十九號ヲ以テ本條
改正)

第九條 「大藏卿」ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理官ニ
於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及ヒ帳簿ヲ検査スルコトヲ得

第十條 兌換銀行券ノ汚染毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手数料
ニテ之ヲ引換フヘシ

第十一條 兌換銀行券ノ製造、損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ「大藏卿」之ヲ定ムヘシ

第十二條 兌換銀行券ノ偽造變造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

●兌換銀行ノ贋造描改ニ係ルモノ取扱方

(明治十九年九月大藏省令第二十八號)

日本銀行ニ於テ發行セシ兌換銀行券ノ贋造及描改ニ係ル分取扱方ノ儀ハ渾テ明治九年(四月)第五
十七號布告贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則同年(五月)當省甲第十二號布達ニ準據スヘシ但第五十七
號布告取扱規則第二條ノ場合ニ於テ日本銀行本支店ヘ引換ヲ請フヘシ

●日本勸業銀行法 (明治二十九年四月法律第八十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル日本勸業銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本勸業銀行法

第一章 總則

第一條 日本勸業銀行法ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニ
シテ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本勸業銀行ノ資本金ハ一千万圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金
ヲ增加スルコトヲ得

第三條 日本勸業銀行ノ各株式ノ金額ハ二百圓トス

第四條 日本勸業銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ百箇年トス但株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ
認可ヲ經テ存立時期ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 日本勸業銀行ニ總裁副總裁各一人理事監查役各三人以上ヲ置ク

第六條 總裁ハ日本勸業銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ處理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌ス

監查役ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監查ス

第七條 總裁副總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス但其ノ

任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ

之ヲ命シ任期ヲ五箇年トス但其ノ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得
監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其任期ヲ三箇年トス但其
任期滿限ノ後再選スルコトヲ得

總裁副總裁理事及監査役ハ任命若ハ選定ノ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有スル者ニ
限ル

第八條 總裁副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス
但大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 株主總會

第九條 通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ召集ス

第十條 臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ記載スル爲何時ニテモ總裁之ヲ召集スルコトヲ得

第十一條 監査役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ招
集ヲ總裁ニ請求スルコトヲ得總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ召集スヘシ

第十二條 株主議會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得ス但法定代
理人ハ此ノ限ニ在ラス

日本勸業銀行ノ役員及使用人ハ株主總會ニ於テ株主ノ代理人タルコトヲ得ス

第十三條 株主ノ議決權ハ十株ニ付キ一箇トス但十一株以上ヲ有スル株主ニ在リテハ五十株ヲ增
ス毎ニ一箇ヲ加フ

他人ノ代理ヲ爲ス者ハ五人以上ヲ代理スルコトヲ得ス又其ノ株數ハ總株數ノ十分ノ二以上ヲ超
過スルコトヲ得ス

第四章 營業

第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年間以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付
ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金總高ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ限リ不動産ヲ抵當トシ五箇年
以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本勸業銀行ハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ貸付ヲ爲ス場合ニ
於テ抵當ヲ徵セサルコトヲ得

第十六條 日本勸業銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但舊債ア
ル場合ニ於テ日本勸業銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當
トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノ
ニ限ル

日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但抵當物ノ外ニ貸付金高二倍
以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十八條 不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以
内トス

第十九條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ
前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ
此ノ限ニ在ラス

第二十七條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ扣除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十一條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但其ノ年間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 債務者年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遲延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第二十三條 年賦償還ノ法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ日本勸業銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第二十四條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第二十五條 日本勸業銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遲延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十六條 日本勸業銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十八條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應ゼサルトキハ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十七條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ啟用セララルル場合ニ於テ日本勸業銀行

ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但債者ニ於テ收用補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十八條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル府縣市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキハ日本勸業銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ日本勸業銀行ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金及第二十二條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十九條 日本勸業銀行ハ農工銀行法ニ依リ設立シタル各農工銀行ノ發行スル農工債券ヲ引受ケルコトヲ得

第三十條 日本勸業銀行ハ農工債券ヲ引受ケムトスル場合ニ於テ農工銀行ノ業務及財産ノ實況ヲ調査スルコトヲ得

第三十一條 日本勸業銀行ハ地金銀又ハ有價證券ノ保護預リヲ爲スコトヲ得

第三十二條 日本勸業銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券地方債證券ヲ買入レ又ハ日本銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

日本勸業銀行ハ前項ニ依ルノ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十三條 日本勸業銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第五章 勸業債券

第三十四條 日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得但年賦償還貸付金總高及其ノ引受ケタル農工債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十五條 勸業債券ハ券面金額ヲ五十圓以上トシ無記名利札附トス但應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第三十六條 日本勸業銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金及其ノ引受ケタル農工債券ノ償還高二應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ勸業債券ヲ償還スヘシ

日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ償還スル場合ニ於テハ割増金ヲ附與スルコトヲ得但其方法及金額ハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 日本勸業銀行ハ勸業債券借換ノ爲一時第三十四條ノ制限ニ依ラス低利ノ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ勸業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以內ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊勸業債券ヲ償還スヘシ

第三十八條 勸業債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

第三十九條 日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキ及其ノ引受ケタル農工債券ニシテ之ヲ發行シタル農工銀行解散ノ爲ニ金額ノ償還ヲ得ルコト能ハサルトキハ第三十六條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額又ハ償還ヲ得サル農工債券面金額ニ相當スル勸業債券ヲ還スヘシ

第四十條 勸業債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第四十一條 勸業債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第四十二條 勸業債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第六十號ヲ適用ス

第六章 準備金

第四十三條 日本勸業銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第七章 政府ノ監督及補助

第四十四條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監督ス

第四十五條 日本勸業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十六條 日本勸業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要用ナリトスルトキハ日本勸業銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第四十七條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第四十八條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害セル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十九條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ

差出スヘシ

第五十條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ日本勸業銀行ノ貸付金額方法ヲ制限スルコトヲ得

第五十一條 日本勸業銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

第五十二條 日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ發行セムトスルトキハ直接ニ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 大藏大臣ハ特ニ日本勸業銀行監理官ヲ置キ日本勸業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第五十四條 日本勸業銀行監理官ハ何時ニテモ日本勸業銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ日本勸業銀行ニ命ジ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第五十五條 日本勸業銀行ノ配當金年百分ノ五ニ達セサルトキハ政府ハ創立初季ヨリ十箇年ヲ限リ之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ其ノ額ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

第八章 罰則

第五十六條 日本勸業銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副

總裁ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯副總裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副總裁理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一 第十四條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第十六條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シテ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第三十二條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第三十三條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第三十四條ノ規程ニ反シ勸業債券ヲ發行シタルトキ但第三十七條第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十六條第二項第三十七條第二項及第三十九條ノ規程ニ反シ勸業債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

七 第四十三條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第五十七條 日本勸業銀行ノ總裁副總裁及理事第八條ノ規程ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十八條 第二條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但其ノ命令ニ對シ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

附 則

第五十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本勸業銀行設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第六十條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第六十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第六十二條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ日本勸業銀行總裁ニ引渡スヘシ

第六十三條 設立初度ノ總裁副總裁理事及監査役ノ第七條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ付テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第六十四條 設立初度ノ總裁副總裁及理事ノ任期ハ三箇年トス

設立初度ノ理事及監査役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命ス

農工銀行法 (明治二十九年四月法律八十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農工銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
農工銀行法

第一章 總則

第一條 農工銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其ノ資本金ヲ二十萬圓以上トシ各株式ノ金額ハ二十圓トス

第二條 農工銀行ハ北海道又ハ一府縣ヲ以テ一營業區域トス但土地ノ情況ニ依リ勅令ヲ以テ北海道又ハ一府縣ヲ二箇以上ノ營業區域ニ分割スルコトヲ得

第三條 農工銀行ノ設立ハ一營業區域ニ一行ヲ以テ限トス

第四條 農工銀行ノ營業區域内ニ原籍及住所ヲ有スル者ニ非サレハ其ノ株主トナルコトヲ得ス株主ニシテ農工銀行ノ營業區域外ニ原籍又ハ住所ヲ移轉スルコトアルモ株主タルノ資格ヲ失フ

コトナシ

第五條 農工銀行ノ營業區域内ノ府縣郡市町村モ亦其ノ株主タルコトヲ得

第二章 營業

第六條 農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一 三十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコト

二 年賦償還貸付金總高ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ限リ不動産ヲ抵當トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト

三 市町村又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ無抵當ニテ本條第一號第二號ノ貸付ヲ爲スコト

四 二十人以上ノ農業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出テタルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限リ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコト

第七條 前條ノ貸付ヲ爲スハ左ノ事項ニ使用スルヲ目的トスルモノニ限ル

一 開墾、排水、灌漑及耕地土質ノ改良

二 耕作道路ノ築造又ハ改良

三 殖林事業

四 種苗、肥料其ノ他農業工業用原料ノ購入

五 農業工業用ノ器具、機械、舟車、獸畜ノ購入

六 農業工業用建物ノ築造又ハ改良

七 前各項ノ外農業工業ノ改良

第八條 農工銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但舊債アル場合ニ於テ農工銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ其ノ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十條 不動産ヲ抵當トシテ貸付ケル金額ハ農工銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス第十一條 年賦金ハ元金ト利子ト併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ控除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 債務者年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遲延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第十五條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

得

第十六條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第十七條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遲延スル債務者ニ對シ償還期限ト雖モ貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十八條 農工銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ農工銀行ハ償還期限前ト雖モ貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十九條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラルル場合ニ於テ農工銀行ハ償還期限前ト雖モ貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但債務者ニ於テ收用ノ補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキハ農工銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

監督官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金及利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十一條 農工銀行ハ第六條ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者方貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ

使用スルトキハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十二條 農工銀行ハ定期預リ金ヲ爲シ又ハ地金銀有價證券ノ保護預リヲ爲スコトヲ得

第二十三條 農工銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券地方債證券及勸業債券ヲ買入レ又ハ他ノ銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

農工銀行ハ前項ニ依ルノ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十四條 農工銀行ハ日本勸業銀行ノ代理店タルコトヲ得

第二十五條 農工銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第三章 農工債券

第二十六條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ五倍ヲ限リ農工債券ヲ發行スルコトヲ得但年賦償還貸付金總高ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十七條 農工銀行ハ少ナクトモ年賦償還貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ農工債券ヲ償還スヘシ

第二十八條 農工銀行ハ農工債券借換ノ爲一時第二十六條ノ制限ニ依ラズ低利ノ農工債券ヲ發スルコトヲ得

低利ノ農工債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊農工債券ヲ償還スヘシ

第二十九條 農工債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

第三十條 農工銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ第二十七條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額ニ相當スル農工債券ヲ償還スヘシ

第三十一條 農工債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第三十二條 農工債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第三十三條 農工債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第六十號ヲ適用ス

第四章 準備金

第三十四條 農工銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第五章 政府ノ監督及補助

第三十五條 大藏大臣ハ農工銀行ノ業務ヲ監督ス

第三十六條 農工銀行ノ定款ハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

第三十七條 農工銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要用ナリトスルトキハ農工銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三十八條 農工銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 大藏大臣ハ農工銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十條 農工銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第四十一條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ農工銀行ノ貸付割引ノ金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第四十二條 農工銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ變更セムトスルトキモ亦同シ

第四十三條 政府ハ特ニ北海道廳府縣高等官中ヨリ農工銀行監理官ヲ命シ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケテ農工銀行ノ業務ヲ監視セシム

第四十四條 農工銀行監理官ハ何時ニテモ農工銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ檢査スルコトヲ得

農工銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ農工銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

農工銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第四十五條 農工銀行營業補助ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 罰則

第四十六條 農工銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第八條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第二十三條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第二十五條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第二十六條ノ規程ニ反シ農工債券ヲ發行シタルトキ但第二十八條第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第二十七條第二十八條第二項及第三十條ノ規程ニ反シ農工債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

七 第三十四條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第四十七條 前條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但其ノ命令ニ對シテ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ノ辨納ニ付キテハ取締役連帶シテ其ノ責任ヲ負フ

附則

第四十八條 府縣知事ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ設立委員ヲ置キ農工銀行設立ノ免許ヲ得ルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシムヘシ

第四十九條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第五十條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第五十一條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ農工銀行取締役ニ引渡スヘシ

第五十二條 農工銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第七十二號銀行條例ヲ適用ス

農工銀行補助法

(明治二十九年四月法律第八十四號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル農工銀行補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農工銀行補助法

第一條 農工銀行法ニ依リ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲政府ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ其ノ營業區域ヲ管轄スル府縣(沖繩縣ヲ除ク)ニ其ノ株式引受資金ヲ交付ス

前項ノ交付金額ハ該府縣ノ宅地礦泉地池沼ヲ除キ有租地段別百町ニ付七十圓以内トス但如何ナル場合ニ於テモ一府縣ニ交付スル總額三十萬圓ヲ超過シ又ハ農工銀行拂込資本金ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條 北海道及沖繩縣ニ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲其ノ創立初季ヨリ十箇年ヲ限リ政府ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ北海道ノ農工銀行ニ二萬五千圓以内沖繩縣ノ農工銀行ニ五千圓以内ヲ毎年交付ス但農工銀行ノ拂込資本金額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條 府縣ハ第一條ノ交付金ヲ農工銀行ノ株式引受ニ供スルノ外他ニ使用スルコトヲ得ス

第四條 此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シテハ農工銀行ハ其ノ創立初季ヨリ五箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

前項ノ期限經過後仍五箇年間ハ農工銀行ハ前項府縣引受ノ株式ニ對スル配當金ヲ悉皆準備金ニ繰入ルヘシ

第五條 農工銀行ハ前條ノ期限ヲ經過シタル後ハ此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シ他ノ株式ト同一ノ利益配當ヲ爲スヘシ

前項ノ配當金ハ府縣ノ收入ニ繰入ルルモノトス

第六條 府縣ハ此ノ法律ニ依リ其ノ引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ離權スルコトヲ得ス但第七條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 農工銀行創立初季ヨリ十箇年經過ノ後府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ得テ此ノ法律ニ依リ引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ市町村ニ交付スルコトヲ得

市町村ハ前項ニ依リ交付セラレタル農工銀行ノ株式ヲ基本財産ト爲スヘシ

● 橫濱正金銀行條例 (明治二十七年七月勅令第二十九號)

朕橫濱正金銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

橫濱正金銀行條例

第一條 橫濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負債ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條 橫濱正金銀行ハ本店ヲ橫濱ニ設置ス又内外國ニ於テ貿易上要用ナル地ニ支店又ハ出張所ヲ設置シ又他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置若クハ廢止シ又ハ外國銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約若クハ解約スルトキハ其事由ヲ大藏大臣ニ具狀シテ許可ヲ受クヘシ

第三條 橫濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日即チ明治十三年二月二十八日ヨリ滿二十箇年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條 橫濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定メ之ヲ六萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増減ヲ請願スルコトヲ得

第五條 橫濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス

第六條 橫濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ定款ニ從ヒ買賣讓與スルコトヲ得

第七條 橫濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 外國ノ爲替及荷爲替

第二 內國ノ爲替及荷爲替

第三 貸付

第四 諸預金及保護預

第五 爲替手形約束手形其他諸證券ノ割引又ハ其代金取立

第六 貨幣ノ交換

第八條 橫濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證書地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ賣拂フコトヲ得

第九條 橫濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

第十條 橫濱正金銀行ハ第七條第八條第九條ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ許サス

第十一條 橫濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除クノ外不動産株券其他ノ物件ヲ買取り又ハ引受クルコトヲ得ス

第一 銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルトキ

第二 貸金返済ノ爲メ負債者ヨリ之ヲ引渡シ又ハ賣却スルトキ

第三 貸金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付シタルトキ

第十二條 橫濱正金銀行ハ本行ノ株券ヲ抵當ニ取り又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負債者其辨償ヲ怠リテ他ニ相當ノ抵當ナク若クハ返済ノ道ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取り又ハ引受クルハ此限ニ

アラス

第十三條 第十一條第二項第三項及第十二條ノ場合ニ於テ不動産株券其他ノ物件ヲ引受ケシトキハ必ス十箇月以内ニ之ヲ賣却スヘシ但賣却代價不相當ト認メタルトキハ其事實ヲ大藏大臣ニ具申シ延期ヲ請フコトヲ得

第十四條 橫濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ支拂フヘキ諸預金ニ對シ其四分ノ一以上ニ當ル準備金ヲ備ヘ置クヘシ

第十五條 橫濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ其任期チ一箇年トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ定メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選舉シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ其滿期ニ當リ復選セラルル者モ亦同シ(明治二十二年勅令第十號ヲ以テ本條改正)

第十六條 頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ橫濱正金銀行頭取ヲ兼テシメ又ハ橫濱正金銀行頭取ヲシテ日本銀行理事ヲ兼テシムルコトアルヘシ

銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ副頭取一人ヲ互選スルコトヲ得但其職權ハ頭取事故アルトキ之ヲ代理スルニ止マルモノトス

頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十七條 橫濱正金銀行ハ毎年二回株式總會ヲ開キ定款ニ定メタル事項ヲ決定スヘシ又臨時ノ事件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會ヲ開クコトヲ得

株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ

第十八條 毎半季利益金ヲ配當スルトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シ認可ヲ受クヘシ

第十九條 每半季純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フコト

第二 配當金ノ不足ヲ補フコト

第二十條 貸金返済ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルトキハ其損失下見積リタル金額ニ準備金ヲ積立ツヘシ

第二十一條 橫濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金ノ半額以上ヲ減少シタルトキ又ハ此條例ニ背戾シタル所爲アリテ大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ解散ヲ命スルコトヲ得

又株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ於テハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得但此總會ニ於テハ株主總會二分ノ一以上ニシテ總株主二分ノ一以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ三分ノ二以上ニ依テ決スルモノトス

第二十二條 橫濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戾スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ危險ナル所爲ト認ムル事件アルトキハ大藏大臣ハ之ヲ制止シ又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得(同上)

第二十三條 大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ派遣シテ橫濱正金銀行諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ(同上)

第二十四條 橫濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十五條 橫濱正金銀行本支店及出張所ニ於テハ重要ノ文書ニ其本支店若クハ出張所ノ印ヲ捺捺スヘシ但横文ヲ以テ發スル文書ニハ之ヲ押捺スルコトヲ要セス

第二十六條 橫濱正金銀行ハ明治二十年七月十日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議ヲ以テ更ニ定款ヲ制定シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款ノ改正増補ヲ要スルトキハ亦本條ニ準ス

第二十七條 橫濱正金銀行ノ頭取取締役其他ノ役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓

以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ三箇月以前ニ之ヲ公布スヘシ

臺灣銀行法 (明治三十年三月法律第三十八號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣銀行法

第一條 臺灣銀行ハ株式會社トス

臺灣銀行ハ本店ヲ臺灣ニ設置ス

第二條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ク要地ニ支店代理店ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレ」ニホンデンスニテ締約スルコトヲ得

主務大臣ニ於テ支店代理店ヲ必要ナリトスルトキハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三條 臺灣銀行ノ存立期間ハ設置免許ノ日ヨリ滿二十箇年トス但株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ期限ヲ延長スルコトヲ得

第四條 臺灣銀行ノ資本金ハ五百萬圓以上トス

第五條 臺灣銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

第一 爲換手形其ノ他商業手形ノ割引

第二 爲換及荷爲換

第三 平常取引スル諸會社又ハ商人ノ爲手形金ノ取立

第四 確實ナル不動産ヲ抵當トシ又ハ動産ヲ質トスル貸付

第五 諸預リ金及當坐貸越勘定

第六 金銀貨、貴金屬及諸證券ノ保護預リ

第七 地金銀ノ賣買

第八 他銀行ノ業務代理

右ノ外營業ノ都合ニ由リ國債證券、地方債券又ハ勸業債券、農工債券ヲ買入ルルコトヲ得

第六條 臺灣銀行ハ此ノ法律ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 政府ハ臺灣銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第八條 臺灣銀行ハ五圓以上ノ無記名式一覽拂ノ手形ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ無記名式一覽拂ノ手形ノ所有者ハ臺灣銀行ノ財産ニ就キ先取特權ヲ有ス但其ノ順位ハ公ノ課ノ次トス

第九條 臺灣銀行ハ無記名式一覽拂ノ手形發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其ノ仕拂準備ニ充ツヘシ

前項準備ニ依レル外無記名式一覽拂ノ手形ヲ發行セムトスルトキハ五百萬圓ヲ限度トシ政府發行ノ紙幣、證券、兌換銀行券又ハ其ノ他確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得但其ノ發行額ハ前項準備ニ依レル發行額ニ超過スルコトヲ得ス

市場ノ狀況ニ由リ前二項ノ外更ニ無記名式一覽拂ノ手形ノ發行ヲ必要トスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政府發行ノ紙幣、證券、兌換銀行券又ハ確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ

發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ノ定ムル所ニ依リ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ

第十條 臺灣銀行ヨリ發行スル無記名式一覽拂ノ手形ハ臺灣總督府管轄地方内ニ於テハ政府ノ收納ニ充ルコトヲ得

第十一條 臺灣銀行ハ營業ノ爲必要ナル物件ヲ買入レ又ハ債務辨濟ノ爲引受ケタル物件ヲ所有スルノ外動産、不動産ヲ買取ルコトヲ得ス

第十二條 臺灣銀行ニ頭取、副頭取各一人理事四人以上監查役三人以上ヲ置ク

第十三條 頭取、副頭取ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス但任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ四箇年トス但其ノ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得

監查役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任期ヲ三箇年トス但其ノ任期滿限ノ後再選スルコトヲ得

第十四條 頭取、副頭取及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス

第十五條 頭取ハ臺灣銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副頭取ハ頭取事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ頭取缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副頭取及理事ハ頭取ヲ補助シ臺灣銀行ノ業務ヲ分掌ス

監查役ハ臺灣銀行ノ業務ヲ監查ス
第十六條 株主總會ヲ通常臨時ノ二種トス

通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時刻ニ於テ頭取之ヲ招集ス

臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ頭取之ヲ招集スルコトヲ得

監查役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ招集ヲ頭取

ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ頭取ハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ

第十七條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得但法律上

ノ代理人ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 主務大臣ハ臺灣銀行監理官ヲ置キ臺灣銀行ノ業務ヲ監視セシム

第十九條 臺灣銀行監理官ハ何時ニテモ臺灣銀行ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

臺灣銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ臺灣銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計

算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

臺灣銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得但議決ノ數ニ加

ハルコトヲ得ス

第二十條 臺灣銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益

配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第二十一條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 臺灣銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 主務大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ臺灣銀行ノ貸付金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ臺灣銀行ノ營業上此ノ法律又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリ

ト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出

スヘシ

臺灣銀行ハ無記名式一覽拂手形ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方

法ヲ以テ公告スヘシ

第二十六條 臺灣銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ頭取若ハ頭取ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副頭取

ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處シ其ノ事犯ニシテ副頭取理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副頭取理

事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一 第六條ノ規定ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

二 第九條ノ規定ニ反シ手形ヲ發行シタルトキ

三 第二十條ノ規定ニ反シ準備金ヲ積立テサルトキ

附則

第二十七條 政府ハ臺灣銀行創立委員ヲ置キ其ノ設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切

ノ事務ヲ處理セシム

第二十八條 創立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第二十九條 創立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ臺灣銀行設立ノ

免許ヲ申請スヘシ

第三十條 創立委員ハ前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ臺灣銀行頭取ニ引渡スヘシ

第三十一條 設立初度ノ理事及監査役ノ第十三條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ就テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

國立銀行條例 (明治九年八月布告第百六號)

明治五年(十一月)第三百四十九號布告國立銀行條例ノ儀證議ノ次第有之別冊ノ通改正致シ舊條例ハ自今相廢シ候條新ニ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ勿論從來舊條例ヲ遵奉シテ創立シタル者ト雖モ右改定條例ニ準據シ大藏省ヘ願出ノ上其免許ヲ受候儀可致此旨布告候事 (別冊)

國立銀行條例

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債證書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨリ銀行紙幣ヲ受取リ引換ノ準備金ヲ設ケ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモノナリ今之ヲ創立スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條條左ノ如シ

第一章 銀行創立ノ方法、創立證書、銀行定款ノ差出方及ヒ開業免狀ノ下附並ニ諸役員選任方法等ノ事ヲ明カニス

第一條 此條例ヲ遵奉シ國立銀行ヲ創立セント欲スル者ハ何人ヲ論セス(外國人ヲ除クノ外)五人以上結合シタル人ハ成規第一條ニ掲グル所ノ手續ヲ以テ其創立願書ヲ大藏省ノ紙幣寮ヘ差出スヘシ紙幣頭之ヲ檢按シ相當ト思慮スルニ於テハ之ヲ大藏卿ニ稟議シテ其銀行創立證書及ヒ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第二條 右紙幣頭ノ命ヲ受ケタル人ハ各其姓名ヲ創立證書ニ記入シ諸般ノ手續ヲ經テ其創立證書ニ紙幣頭ノ承認許可ヲ受ルニ於テハ此條例ニ規定セル箇條ヲ遵奉シ以テ國立銀行ヲ創立スルコトヲ得ヘシ而シテ其創立證書ニ掲載スヘキ條件ハ左ノ如シ

第一 銀行ノ名號

但此名號ハ紙幣頭ノ承認許可ヲ得テ之ヲ公稱スヘシ

第二 銀行ノ本店及ヒ支店(若シ之アラハ)ヲ置クヘキ場所

第三 銀行資本金額及ヒ株數

第四 銀行營業ノ年限

第五 株主ノ姓名、住所、屬族、職業(若シ之アラハ)及ヒ其引受タル株式ノ番號、箇數

第六 此創立證書ハ此條例ヲ遵奉シ銀行事業ヲ營ナミ株主一同ノ利益ヲ謀ル爲取極メタル旨ヲ受タルモノタルヘシ斯ク從事シタル創立證書ハ當人ハ勿論其相續人後見人タル者ニ於テモ右創立證書ノ箇條ヲ遵守シ此條例成規ノ旨趣ヲ遵奉スル者トスヘシ

第四條 右創立證書ノ箇條ヲ更正スルニハ其社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認許可ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルコトヲ得ヘシ但其事件ハ則チ資本金ノ増減及ヒ本店移轉或ハ支店開設等ノ如キ是ナリ而シテ右ノ如ク更正シタル箇條ハ最初右創立證書中ニ記載セシ箇條ト同シク遵守スヘシ且右ノ外創立證書ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

但右ノ外創立證書中ノ箇條ヲ更正スルコトヲ得サルヘシ

第五條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ右創立證書ニ必ス銀行定款ヲ添フヘシ而シテ此定款ハ則チ成規第六條ニ掲グル所ノ雛形ニ準據シ其箇條ヲ皆悉(又ハ若干)記載シ創立證書ト同様株主一同

之ニ記名調印シ壹錢ノ印紙ヲ貼用シタルモノタルヘシ

但此定款ハ唯紙幣頭ノ承認ヲ得紙幣察ノ官印ヲ受クルノミニシテ其管轄地方長官ノ與書鈴印ヲ乞フニ及ハサルヘシ

第六條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ銀行定款中ニ掲ケタル諸款ヲ更正増補シ及之レヲ廢止スルコトヲ得ヘシ而シテ右ノ如ク更正増補シタル箇條ハ最初右定款中ニ掲載セシ箇條ト同シク確守スヘシ

且右ノ箇條ハ其定款ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

第七條 創立證書並銀行定款ハ本紙壹通正寫ニ通都合三通ヲ製シ而シテ創立證書ハ其管轄地方長官與書鈴印ヲ受ケ銀行定款ト共ニ之ヲ紙幣頭ハ差出スヘシ

第八條 紙幣頭ハ右創立證書及ヒ銀行定款ヲ受領シ其銀行株主等此條例第三十條ニ規定スル所割合ヲ以テ資本金ノ入金ヲナセシヤ否ヤノ狀實ヲ検査シ且株主等ノ不正其他百般ノ事務ヲ視察シ不都合アルニ非サレハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ開業免狀ヲ下附スヘシ

但シ創立證書銀行定款共本紙ハ記録寮ニ納メ正寫壹通ハ紙幣察ノ簿冊ニ綴込ミ壹通ハ紙幣察ノ官印ヲ鈴シテ開業免狀ト共ニ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ

第九條 銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ始テ一團ノ會社トナリ何何國立銀行ト公稱シ此條例成規ニ規定シタル箇條ヲ履行シテ國立銀行ノ事業ヲ經營スルヲ得ヘシ

第十條 此條例ニ從ヒ紙幣頭ノ記名調印シタル開業免狀、創立證書、銀行定款ハ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ之ヲ正確ナル證據トシテ採用セラレルヲ得ヘシ

第十一條 創立證書、銀行定款ノ寫又ハ版本等(用意分配ノ手續了ルノ後)各株主ヨリノ要請アル

ニ於テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ代價ヲ以テ之ヲ付與スヘシ若シ銀行右付與ノ事ヲ怠慢スルニ於テハ銀行ハ其怠慢時間一日ニ付五圓ニ踰ヘサル罰金ヲ納ムヘシ

第十二條 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ鑛店其他ノ事故アルニ非サレハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十年ノ間其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ右期限後ハ更ニ私立銀行ノ資格ヲ以テ大藏卿ノ許可ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ然レトモ紙幣發行ノ特許ヲ有シ國立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ許サス(明治十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正)

第十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ開業免狀ヲ得ルノ日ヨリ社印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省ノ紙幣寮國債寮出納寮ノ三寮ヘ差出スヘシ而シテ銀行ノ諸出願ヲ始メ訴訟、約定、保證及ヒ報告、往復其他一切ノ文書ニ至ルマテ都テ其社號ヲ用井社印ヲ鈴スヘシ

第十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ頭取取締役ヲ始メ支配人、書記方、出納方、計算方、簿記方其他適宜ノ役員ヲ選任シ其職制權限進退及ヒ頭取、取締役交代ノ手續等諸般ノ規約ヲ取極メ之ヲ銀行定款中ニ掲載スヘシ

第十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ取締役ハ必ス自力ヲ以テ成規第五十一條ニ規定スル所ノ株數ヲ所持シタル者ニシテ其總員ハ五人以上(内一人ハ頭取タルヘシ)而シテ其ノ四分ノ三ハ其銀行創立ノ地ニ於テ上在前一箇年以上在任シタル者ニ限ルヘシ

第十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役ハ上任ノ節ニ其地方長官ノ面前ニ於テ誓詞ヲ爲シ其事務ヲ施行スルニ忠實公平ヲ以テシ且此條例中ノ要旨ニ決シテ背戾セサル旨ヲ認メ其管轄地方長官ノ與書鈴印ヲ受ケ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ紙幣頭ハ之ヲ領受シテ寮中ノ簿冊ニ綴込ヘシ

第二章

銀行資本金ノ制限、公債證書銀行紙幣交收ノ割合並ニ其手數及ヒ引換準備金等ノ事ヲ明カニス

第十七條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ資本金額ハ十萬圓ヨリ下ル可ラス尤人口十萬人以上ノ地ニ於テハ二十萬圓未滿ノ資本金ヲ以テ創立スルヲ許サス但時宜ニヨリ紙幣頭差支ナシト思考シテ大藏卿ヘノ稟議ヲ經ルニ於テハ五萬圓以上十萬圓未滿ノ資本金ニテ創立ヲ許スコトアルヘシ第十八條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル紙幣ハ資本金十分ノ八タルヘシ然レトモ大藏卿ハ全國ニ發行スヘキ銀行紙幣ノ總額ヲ制限スルコトアルヘシ故ニ新タニ創立ヲ願フ者アルトキハ其資本金額ヲ節減シ或ハ其創立ヲ許可セサルコトアルヘシ尤モ發起人ノ請願ニ依テハ特ニ其發行紙幣ノ割合ヲ節減シテ其創立ヲ許可スルコトアルヘシ而シテ各銀行ハ其發行紙幣ノ高ニ應ジ四半以上利付ノ公債證書ヲ時價(時相場ヲ斟酌シ大藏省ニ於テ定ムル所ノ價格)ヲ以テ右紙幣ノ抵當下シ之ヲ出納局ニ預クヘシ(明治十一年第五號布告ヲ以テ但書共改正)
但公債證書ノ時價低下スルトキハ其銀行ニ命ジテ更ニ他ノ公債證書ヲ納メシメ其發行紙幣ノ額ニ充タシムヘシ

第十九條 右公債證書ハ此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル紙幣ノ抵當ナルヲ以テ出納頭ハ其銀行永續中ハ正ニ之ヲ預リ置クヘシ而シテ若シ此公債證書ノ內國債察ニ於テ施行スル所ノ公債支消ノ抽籤ニ當ル者アレハ銀行ハ他ノ公債證書ヲ納メテ之ヲ引換フヘシ

第二十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其紙幣下付高四分ノ一ニ相當スル通貨ヲ以テ發行紙幣引換ノ準備ニ充ツヘシ(明治十八年第十四號布告ヲ以テ全條改正)

第二十一條 此條例第四十條第四十二條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ資本金額ヲ増減スルコトアルニ

於テハ前條ニ掲クル所ノ公債證書並銀行紙幣ノ引換ノ準備金モ亦其割合ニ從テ之ヲ増減スヘシ
第二十二條 (明治十六年第十四號布告ヲ以テ本條削除)

第二十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取支配人ハ公債證書ヲ出納察ヘ納メ其受取證書ヲ領受シタル後同額ノ銀行紙幣ヲ各種ノ種類ニテ紙幣察ヨリ受取り之ニ頭取支配人等ノ名印ヲ加用シ以テ銀行營業ノ資本トナスヘシ

第二十四條 右公債證書ノ請取證書ハ紙幣頭出納頭ノ連署調印シタル者タルヘシ尤此公債證書ノ勘査ニ付テハ該兩察頭互ニ其簿冊ヲ開ラキ須ラク注意ヲ盡シ詳明ニ之ヲ記入シ又互ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

第二十五條 此條例第十八條ニ掲クル所ノ出納頭ニ預ケタル公債證書ハ毎年一度(又ハ數度)銀行ノ役員出納察ニ至リテ之ヲ點檢シ其銀行ノ元帳ニ照シテ其種類員額等相違ナキニ於テハ改入ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ之ヲ出納頭ヘ差出スヘシ

但右改入出納察ヘ出ル時ハ其銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ
第二十六條 右公債證書ハ銀行ノ都合ニヨリ四半以上利付ノ他ノ公債證書ヲ以テ之カ引換ヲ申請シ紙幣頭ノ考案ニ於テ差支ナシトセハ其趣ヲ出納頭ヘ通知シ之ヲ交換下附スヘシ

但其引換ヘタル趣並ニ其公債證書ノ種類金額等ハ紙幣出納兩察ノ簿冊ニ詳記スヘシ
第二十七條 右公債證書ヨリ生スル年年ノ利息ハ其銀行之ヲ受取り毎年銀行ノ利益精勘定ノ內ニ加ヘテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ(明治十六年第十四號布告ヲ以テ但書ヲ削除ス)

第三章 株式ノ分割、資本金入金ノ割合、株式没入、株主牒ノ記入、株式ノ賣買及ヒ資本金増減等ノ事ヲ明カニス

第二十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ資本金ハ之ヲ株式ニ分割シ百圓又ハ五十圓又ハ二十五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ尤一株百圓ニ分配シタル銀行ノ株式ハ悉皆百圓ノ金高タルヘシ五十圓二十五圓ノ株式モ亦之ニ準スヘシ

但十萬圓以上ノ資本金ヲ以テ創立スル銀行ナレハ百圓又ハ五十圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ又十萬圓未満五萬圓マテノ資本金ヲ以テ創立スル者ナレハ五十圓又ハ二十五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ

第二十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ各自ノ望ニ任セ幾株ニテモ之ヲ所持スルヲ得ヘシ而シテ其株主ハ何レノ屬族何レノ職務アルニ拘ハラズ總テ其所持株高相當ノ權利ヲ有シ其銀行營業ニ付テノ損益ハ株高ニシテ之ヲ負擔スヘシ

但大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係アル者ハ株主トナルヲ許サズ

第三十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等ハ開業免狀ヲ得其業ヲ始ムル前ニ於テ少ナクトモ資本金總額ノ十分ノ五ハ必ス之ヲ銀行ニ入金スヘシ而シテ他ノ十分ノ五ハ資本金總額ノ十分ノ一ヲ以テ月賦ト定メ開業免狀ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

第三十一條 右資本金ノ月賦入金毎ニ其銀行ノ頭取支配人ハ成規第十三條ニ準據シ資本金集合高屆書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第三十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等株金ノ月賦入金ヲ怠ル時ハ之ヲ頭取取締役等ニ於テ其株ヲ沒入シ競賣其他ノ手續ヲ以テ三十日以内ニ之ヲ賣拂ヒ而シテ其入用ヲ差引キ尙ホ過金アレハ之ヲ元株主ヘ返還スヘシ尤此競賣ニ於テ右株式ヲ買取リタル株主モ他ノ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

第三十三條 右競賣ニ於テ其株ヲ買フ者アラサル時ハ是迄入金シタル金高ハ銀行ニ没入シテ其株

ヲ消スヘシ尤此消株ニヨリ資本金額此條例第十七條ニ規定スル所ノ制限ヨリ減少スルトキハ頭取取締役等ハ三十日間ニ之ヲ補ヒ定限ノ高ニ滿タシムヘシ若シ頭取取締役等之ヲ怠ルトキハ紙幣頭ハ其銀行ニ領店ヲ申渡シ更ニ跡引受人ヲ命スヘシ

第三十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株主牒ヲ製シ左ノ要件ヲ記載スヘシ

第一 各株主ノ姓名、住所、屬族、職業、(若シ之アラハ)

第二 各株主ノ所持セル株式ノ番號、箇數

第三 入社ノ年月日

第四 退社ノ年月日

第三十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ創立證書ニ記名スル者ハ即チ其銀行ノ株主タルカ故ニ前條ニ規定セル株主牒ニ各其姓名ヲ登記スヘシ且其他何人ニテモ(外國人ヲ除クノ外)爾後其銀行ノ株主トランコトナ同意シ隨テ其姓名ヲ株主牒ニ登記シタルモノハ又同シク其銀行ノ株主タルノ權利アルヘシ

第三十六條 右株主牒ハ銀行其開業免狀ヲ領受スルノ即日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘシ而シテ此株主牒ハ營業時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閲スルヲ得ヘシ若シ銀行其檢閲ヲ拒ミタルトキハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官吏ヲ派遣シ其本店ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

但銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一箇年中日數三十日ニ過キサルコトナレバ何時ニテモ右檢閲ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

第三十七條 右株主限ニ何人カ放ナク姓名ヲ記入セラレ又ハ妄リニ除名セラレ又或ハ退社セシ所以ノ記載ヲ放ナク遷延セラレタル等ノ事アリテ其人ノカ爲メ妨碍ヲ受クルニ於テハ其事由ヲ書面ニ認メ其管轄地方官廳へ差出シ紙幣頭へノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ銀行ニ命シテ之ヲ修正セシムヘシ
第三十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株式ハ成規第二十七條第三十條ニ規定スル所ノ手續ヲ以テ之ヲ賣買讓與スルコトヲ得ヘシ
但銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一箇年中日數三十日ニ過キサルハ何時ニテモ其株式ノ賣買讓與ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

第三十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去スルノ際名代人ヲ以テ株式ヲ賣却讓與スル等ノ事アルトキハ假令ヒ此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非スト雖モ記名調印等ノ事ニ至リテハ猶ホ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ
第四十條 此條例ヲ遵守スル銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承諾ヲ得ルニ於テハ其資本金額ヲ増加スルコトヲ得ヘシ而シテ右増加スヘキ資本金額ノ制限ハ大藏卿へノ稟議ヲ經テ紙幣頭之ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ増加スルニハ紙幣頭ニ申請シ其承諾ヲ得テ之ニ從事スヘシ尤全ク入金濟ノ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其増加證書ヲ差出スヘシ
第四十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行前條ニ掲グル如ク資本金ヲ増加セシニヨリ公債證書ヲ納メ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ハ現ニ其株主タル者ヨリ増加ノ總額ヲ全ク入金シタル後ニ非サルハ之ヲ施行スルヲ許サス
第四十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ格段決議ヲ經テ

紙幣頭ノ承諾ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ得ヘシ尤其減少ノ高ハ此條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サス但紙幣頭ノ承諾ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナクトモ三箇月以前ニ於テ資本金ノ減少員額ト其残り資本金額トヲ記載シタル報告ヲ製シ適宜ノ手續ヲ以テ之ヲ其預リ金アル得意先へ送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其銀行所在ノ地ニ行ハルル三種以上ノ新聞紙ヲ以テ三箇月以上毎日之ヲ公告スヘシ

第四十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ減少セントスル際シ其銀行へ資金、預ケ金アル者ハ未タ其仕拂期日至ラスト雖モ右減少ヲ施行スヘキ日限前一箇月ノ間ナレハ何時ニテモ其ノ定則ニ準據シ之カ償却ヲ乞フノ權利アルヘシ
第一 凡ソ定期預ケ金アル者ハ其元金並ニ當日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリトス
第二 其他期限未滿タリトモ凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノミヲ受取ルノ權利アリトス

第四十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條第四十三條ニ掲クル所ノ諸般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少證書ヲ紙幣頭へ差出スヘシ若シ右第四十二條第四十三條ノ規定ニ背戾シ資本金減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ及ヒ期限未滿ノ勘定仕拂ヲ拒ムコトアルトキハ紙幣頭ハ右資本金減少證書ニ許可ヲ與ヘサルヘシ
第四章 銀行紙幣ノ製造及ヒ種類、其通用ノ能力、引換場所及ヒ燒捨等ノ事ヲ明カニ

第四十五條 此條例ヲ遵奉シテ發行スル所ノ銀行紙幣ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ紙幣頭其製造ノ事務ヲ董括シ極メテ紙質ノ堅牢ト影紋ノ精緻ヲ要シ深ク質模ノ常ヲ豫防スルノ術ヲ盡シテ以テ之ニ從

事スヘシ但右銀行紙幣製造ノ入費ハ其現行ヨリ現費ヲ以テ紙幣寮ヘ納ムヘシ

第四十六條 右銀行紙幣ノ種類ハ一圓、二圓、五圓、十圓、二十圓、五十圓、百圓、五百圓、ノ八種ト定メ銀行ノ望ニ應シテ製造下附スヘシ但五圓以下ノ銀行紙幣ハ其銀行發行數額十分ノ五ヨリ多カラサルヘシ

第四十七條 右銀行紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債證書ヲ抵當トシテ發行スルノ旨趣及ヒ其他ノ要件ヲ摘載シ大藏卿並ニ出納頭記録頭ノ印ヲ鈴シ且大藏省並ニ銀行ノ記號、番號ヲ押捺シテ紙幣頭之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ而シテ銀行ニ於テハ之ニ其頭取支配人ノ名印ヲ加用スヘシ

第四十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ諸官廳又ハ銀行會社其他ヲ論セス日本全國何レノ地ニ於テモ租稅、運上、貸借ノ取引、俸給其他一切公私ノ取引ニ於テテ都テ政府發行ノ貨幣同様通用スヘシ但公債證書ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用ウルヲ許サス

第四十九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ紙幣ヲ通貨ト引換ヘンコトヲ請求スルモノアル時ハ日本銀行ニ於テ之ヲ引換フヘシ(明治十六年第十四號布告ヲ以テ本條改正)

第五十條 此條例ヲ遵奉スル所ノ銀行紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲ヲナス者アルニ於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第五十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル紙幣通用中敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルニ於テハ其所持人ハ銀行ニ持參シテ之ヲ引換フヘシ而シテ銀行ハ之ヲ紙幣頭ヘ差出シ其代リ銀行紙幣ヲ受取ルヘシ○尤右引換銀行紙幣ノ種類、記號、番號、金額等ハ之ヲ紙幣寮ノ公書及ヒ銀行ノ簿冊ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ大藏卿ヨリノ立會ヲ得テ紙幣頭ハ其主任ノ官員ヲシテ銀

行役員ノ立會ヲ要シ之ヲ燒捨ニ付スヘシ而シテ其趣ハ尙ホ右簿冊ニ登記シ各記名調印スヘシ但右燒捨ノ後ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

第五章 銀行營業ノ本務、公債證書其他ノ賣買並ニ貸附金ノ制限、利息ノ制限、銀行紙幣並ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明カニス

第五十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ(引受貨シ抵當貨シノ別ナク)貸附ク又ハ當座並ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲換ヲ取組ミ又ハ爲換手形、約束手形、代金取立手形其他ノ證書ヲ割引シ又ハ公債證書、外國貨幣並ニ金、銀、銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保護預リ又ハ兩替等ノ事ヲ以テ營業ノ本務トナスヘシ

第五十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ本務タルヤ前條ニ掲グル所ノ種類ナルヲ以テ公債證書ノ賣買ヲナスヲ得ルト雖モ貸附金、預リ金、爲換等ノ如キハ殊ニ銀行ノ主トシテ爲スヘキ營業ノ目的タルニヨリ此等ノ事業ヲ經營セスシテ唯公債證書ノ賣買ヲ專ラニスルヲ許サス

第五十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ前第五十二條ニ掲グル所ノ營業本務ノ外地所家屋其他物例ノ賣買ヲナスヘカラス又職工作业ノ功ヲ與シ及ヒ此等ノ功ヲ與ス會社ノ株主トナルヲ許サス尤左ニ掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買シ又ハ之ヲ引取リ又ハ之ヲ所持スル等ノ事ハ此條件ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ但銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フヘシ

第一 銀行ノ業ヲ營ムヘキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ之ヲ買取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第二 滞貸金ノ抵當トシテ賣物ニ取りタル地所物件ハ之ヲ引取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第三 貸金返済ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金ノ代リトシテ引渡サレタル地所物件ハ之ヲ
之ヲ引取り所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第四 銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノニシテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒトナリタル
モノカ又ハ之ヲ引取りタルモノ又ハ右質入ノ流込ミトナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ
返済スル爲メニ賣物ニ出シタル地所物件ハ之ヲ買取リ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ
得ヘシ

第五十五條 前條ニ掲ケル所ノ款項中銀行營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外銀行ニ於テ引
取り又ハ買取リタル地所物件ハ遲クトモ十箇月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ貸附ケル所ノ金額ノ制限ハ一口ニ付資本金總額ノ十分一
ヲ限リトナスヘシ

第五十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ貸附利息ハ政府ニ於テ定メタル一般ノ利息制限法ニ準據
スヘシ若シ其制限ニ超過スルモノアル時ハ大藏卿ハ其銀行ヲ督責シテ之ヲ其制限ノ割合ニ引直
サシムヘシ(明治十一年第三十一號布告ヲ以テ全條改正)

第五十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其銀行紙幣ヲ抵當又ハ質物トシテ借金ヲナスヘカラス又其
銀行ノ株式ヲ抵當ニ取りテ貸付金ヲナスヘカラス又其株ノ買主トナリ又ハ其株主トナルヘカラ
ス然レトモ貸付金ノ滞リニテ銀行ノ損失トナルコトアレハ止ムヲ得ス其株ヲ引當ニ取り又ハ買
取ルコトヲ得ヘシ尤其株ハ遲クトモ六箇月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ諸方ヨリノ預リ金ヲ他ヘ運轉流用スルニハ須ラク之カ制限
ヲ立テ其預リ金總額ノ内少クトモ十分ノ二、五(即チ四分ノ一)ヲ引殘シ之ヲ返却ノ準備トシ

テ銀行ノ金庫中ニ積立置クヘシ尤内十分一ノ員額ハ政府ノ公債證書ヲ買價ヲ以テ積立ルヲ得ヘ
シ但此準備金ハ銀行紙幣引換ノ準備金ト混同スヘカラス

第六十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノ爲メ銀行紙幣ヲ發行スルニハ此條例第二十條ニ規
定シタル準備金ノ割合ヲ超過スヘカラス若シ此割合ヲ超過シテ發行スルトキハ紙幣頭ハ之ヲ督
責シテ速カニ其準備金ヲ增加シ規定ノ割合ニ滿タシムヘキ旨ヲ命スヘシ若シ銀行ニ於テ此命ヲ
受クシ日ヨリ三十日ヲ過キテ尙ホ增加スルトキハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上ケ
跡引受人ヲ命スヘシ

第六十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ預リ金ノ返済又ハ爲替手形約束手形等ノ仕拂ヲナスニ
當リ兼テ積置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償フコト能ハサルトキハ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株
數ニ應ジ別ニ出金シテ一時之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ但此出金ハ全ク一時辨償ノ爲メニシテ
其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之レヲ各株主ヘ返辨スヘシ(明治十六年第十九號布告ヲ
以テ全條改正)

第六章 銀行名號ノ掲牌、社印ノ書體並ニ諸手形ニ於ケル銀行ノ負債、所有物ノ明細
帳及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス

第六十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ讀易キ書體ヲ以テ其名號ヲ掲牌ニ記載シ之ヲ其銀行ノ店前
最モ見易キ所ニ掲クヘシ而シテ其社印ノ彫刻ヨリ諸報告並ニ諸公告、諸證書、諸手形、諸切手
ノ類ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用ウル所ノ者ハ亦同シク讀易キ書體ヲ用ウヘシ

第六十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲ケサルトキハ銀行ハ其時間一日ニ
付五圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配人タルモノ知テ之ヲ爲サシメ或

ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ若シ又銀行ノ頭取取締役支配人其
他ノ役員又ハ何人ニテモ前條ノ如ク彫刻セサル社印ヲ用ヒ或ハ人ヲシテ之ヲ用ヒシメ又ハ前條
ノ規定ニ悖リタル社號ヲ以テ報告書ヲ出シ或ハ之ヲ出サシメ又ハ爲換手形、約束手形、切手、
證書、注文書、受取證書、受合狀等ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用ウル者前條ノ規定ニ悖リテ記名調
印シ又ハ記名調印セシムルトキハ十圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納メシメ且
右等爲換手形、約束手形、切手、注文書等ニ記載スル所ノ金額ヲ銀行ヨリ拂渡ササルトキハ其
規定ニ悖リタル役員等ハ自費ヲ以テ右持主ヘ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第六十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行其名號ヲ以テ爲換手形、約束手形ヲ振出し又ハ之ヲ引受ケ又
或ハ之ニ裏書シタルモノノ如キハ假令ヒ右等ノ取扱ヒ何人ノ手ニ出ルト雖モ此人苟モ其銀行ノ
命任ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之ヲ其銀行ノ爲メニ取扱ヒシモノト見做スヘシ

第六十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其所有財產（動產、不動產ノ別ナク）ノ種類員數ハ勿論其
授受買賣及ヒ質入書入委託其他ニ於ケル一切ノ事件ヲ記載セル簿冊ヲ製シ右等ノ擧アル毎トニ
其事由竝ニ其種類員數及ヒ質預リ人又ハ受託人等ヲ遺漏ナク記載シ其時時頭取取締役等ニ檢
印シ常ニ其銀行ニ備置キ以テ債主及ヒ株主等ノ檢閱ニ供スヘシ

若シ前段ノ記載ナクシテ銀行其所有財產ヲ質入書入シ又ハ之ヲ委託スル等ノ事アルニ當テ其銀
行ノ頭取取締役支配人等知テ之ヲ捨置キ又ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ右役員ハ五十圓ヲ踰
エサル罰金ヲ納ムヘシ但右所有財產ノ簿冊ハ即チ其事件ノ正確ナル證據トシテ何レノ裁判所何
レノ官廳ニ於テモ採用セララルルヲ得ヘシ

第六十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業時間ハ其本店支店共定式（又ハ臨時）休曜日ヲ除クノ外

毎日午前第九時ヨリ午後三時マテタルヘシ尤銀行ノ都合ニヨリ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ
其營業時間ヲ變更スルヲ得ヘシ而シテ其趣ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ但
爲換並ニ預リ金等ノ仕拂期日若シ定式（又ハ臨時）休曜日ニ當ルモノハ其翌日之ヲ仕拂フヘシ

第七章 株主總會ノ定規竝ニ格段決議ノ順序、諸簿冊ノ點檢及ヒ検査ノ手續、諸報告差
出方等ノ事ヲ明カニス

第六十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總會ハ每年少クトモ兩度宛之ヲ執行スヘシ尤モ臨時ノ事件
ヲ議決センカ爲メ執行スル所ノ臨時總會ハ此限ニアラス

第六十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ總會ニ於テ次條ニ掲載セル方法ヲ以テ執行セシ格段
決議ニ於テハ其銀行定款中ニ記載シタル事件箇條ヲ變更訂正スルコトヲ得ヘシ

第六十九條 凡ソ社中議決スヘキ事件アリテ其議案ヲ出シ其銀行株主臨席ノ職員（本人代人ヲ論
セス）四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一旦其大體ヲ決定シ隨テ其旨趣ヲ詳述シテ之ヲ報告ナシ後
チ十四日以外一箇月以内ノ時日ニ於テ更ニ執行スル所ノ總會ニ於テ其臨席シタル株主職員ノ同
意セル發言投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル者之ヲ格段決議ト稱スヘシ

第七十條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ハ其旨趣願末ヲ記載シタル書附ヲ刊行シ又ハ謄
寫シテ右確定ノ日ヨリ日數十五日（郵便遞送日數ヲ除ク）ノ内ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出シテ其承認ヲ
受クヘシ○若シ銀行前段ノ書附ヲ右期日内ニ差出スコトヲ怠ルニ於テハ右ノ日數以後（即チ十
六日目ヨリ）ハ怠慢時間一日ニ付十圓ヲ超エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲ
ナサシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシトキハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

第七十一條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ニシテ（此條例第四條第六條ニ準據シ）現ニ之

クノ外其返済期限ヲ過クルコト六箇月以上ニ及フモノハ都テ之ヲ滯資金ト看做スヘシ

第八十條 (同上法令ニテ削除)

第九章 銀行ハ官廳ノ爲換方ニ從事スルコト及ヒ外國銀行ト聯合スヘカラサル事ヲ明
ラカニス

第八十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其通常營業事務ノ外大藏卿ノ命令ニ依リ大藏省又ハ各地方
官廳其他ノ爲換方ヲ勤ムルコトヲ得ヘシ尤其勤方ノ手續ハ爾時大藏卿ノ考按ニヨリ其筋ヨリ命
スル所ノ規定ヲ奉シテ之ニ從事スヘシ

第八十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ大藏卿ノ命令ヲ奉スルカ或ハ其免許ヲ得ルカニ非レハ内外
地ニ設置スル所ノ外國ノ銀行ハ勿論本邦ノ銀行(又ハ交換所等)ト雖モ凡ソ海外ニアルモノト相
共ニ聯合シテ以テ爲換ヲ取組又ハ其他ノ營業ニ從事スルコトヲ得サルヘシ

第十章 銀行役員職務上一般ノ制禁及ヒ其負責ノ事ヲ明カニス

第八十三條 國立銀行ノ役員タル者諸相場ニ關シ投機ノ商業ニ從事シ危險ナリト認ムルトキハ大
藏卿ハ銀行ニ命シ其役員ヲ退職セシムルコトアルヘシ(同上法令ニテ同條改正)

第八十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等若シ此條例ニ背戾スルコトアリテ夫レカ爲メ
株主又ハ其他ノ人ハ損失ヲ受ケシムル時ハ其損失ハ頭取取締役等之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ
第八十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ銀行所有ノ金額及ヒ
諸證書預リ品等ヲ私用シ又ハ竊掠シ又ハ之ヲ妄用スヘカラス又頭取取締役ノ承認ヲ得シテ銀
行紙幣及ヒ預リ證書ヲ發行シ又ハ諸貸附ヲシ爲換手形ヲ振出し又ハ證書及ヒ切手ノ引受ヲナ
シ約束手形、爲換手形、諸證書實物及ヒ公裁ニテ引取りタルモノヲ賣渡スヘカラス又銀行ノ諸

簿冊、計表、報告書其他ノ要書ニ詐偽ヲ記載スヘカラス○若右ノ箇條ヲ犯シテ其銀行又ハ他ノ
銀行、會社其他ノ者ヲ損害欺騙シ又ハ其銀行ノ役員或ハ検査官員ヲ欺カント謀ル者ハ皆ナ國法
ニ從ヒテ之ヲ罰スヘシ

第八十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ社中申合規則ノ規定ニ從ヒ
尋常借リ得ヘキ金額ノ外ハ自身又ハ仲人等ヲ以テ一切銀行ヨリ借受クヘカラス又其銀行ヨリ借
財ヲナス者ノ爲メ其證人又ハ受人トナルヘカラス○若シ右等ノ役員右ノ規定ニ背戾シテ借財ヲ
ナシ又ハ證人受人トナリ又ハ人ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ承諾スル等ノ事アルトキハ此等ノ
役員ハ十圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其借財ノ金額ハ其規定ニ背
戾セシ者ヨリ速ニ銀行ヘ返済スヘシ

第八十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ其銀行ノ名ヲ假リ以
テ自己ノ利益ヲ謀ルハ勿論總テ私用ヲ辨スヘカラス若シ此等ノ役員之ヲ犯シ又ハ人ヲシテ犯サ
シメ又ハ知テ之ヲ見逃ス者ハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第十一章 紙幣及ヒ諸手形類ノ發行並ニ銀行紙幣ノ質造描改及ヒ其版彫刻等禁止ノ
事ヲ明カニス

第八十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヲ除クノ外何人又ハ何會社ヲ論セス凡テ紙幣
又ハ望次第持參人ヘ仕拂フベキ約束手形又ハ右類似ノ證書其他政府發行ノ貨幣同様ニ通用スヘ
キ諸手形又ハ切手ヲ振出し其引受ヲナシ之ヲ製シ之ヲ發行スルヲ禁ス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者
アルニ於テハ何人ヲ論セス皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十九條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル銀行紙幣ハ何人ヲ論セス之ヲ質造スヘカラ

ス質造セシムヘカラス質造スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス質造ト知リテ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス又其文字畫圖ヲ描改スヘカラス描改セシムヘカラス描改スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス描改セシ紙幣ト知リテ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス

第九十條 右銀行紙幣ヲ印刷スルニ用ウル所ノ版板又ハ之ニ類似スル者ハ之ヲ私ニ彫刻スヘカラス又ハ私ニ彫刻ヲ命スヘカラス又右銀行紙幣ニ用ウル所ノ紙品又ハ之ニ類似スル紙品ハ之ヲ私ニ製スヘカラス又ハ人ヲシテ之ヲ製セシムヘカラス又ハ之ヲ私ニ所持スヘカラス若シ前第八十九條及ヒ本條ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第九十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣又ハ爲換手形、約束手形、其他證書ノ類ハ何人ニ限ラス之ヲ切抜キ又ハ切裂キ又ハ剥去リ又ハ塗抹シ又ハ孔ヲ穿チ又ハ糊付ニスル等ノコトヲナスヘカラス又人ヲシテ此等ノ事ヲナサシムヘカラス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルトキハ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ償金ヲ銀行ヘ拂ハシムヘシ

第十二章 官命銀店ノ場合特例監督役跡引受人等ノ取扱方並ニ公債證書ノ没入及ヒ紙幣引換等ノ手續ヲ明カニス(同上法令ニテ改正)

第九十二條 (同上法令ニテ本條削除)

第九十三條 國立銀行ニ於テ左ニ掲クル事實アルトキハ大藏卿ハ銀店ヲ命スルコトアルヘシ(同ニテ全條改正)

第一 國立銀行條例ノ旨趣又ハ箇條ニ背戾シ大藏卿其銀行ヲ銀店セシムルヲ相當ナリト思考

スルトキ

第二 國立銀行ニ於テ負債辨償ノ義務ヲ盡ス能ハサル證據アルトキ

第三 國立銀行ニ於テ其資本金總額十分ノ五以上ノ損失ヲ生スルトキ

第九十四條 前條ニ記載スル事實アリト認ムルトキハ大藏卿ハ検査ノ官員ヲ派遣シ其事實ヲ推糺セシメ若シ相違ナキニ於テハ都テ其銀行ノ營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スヘシ

第九十五條 前條ノ如ク營業ヲ差止メラレタル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ諸手形、諸證書類又ハ抵當物地所等ヲ他人ヘ譲リ渡シ又ハ賣渡スヘカラス又他人ヨリ金銀其他ノ物件ヲ預ルヘカラス若シ頭取取締役支配人其他ノ役員等此箇條ニ背キ或ハ譲リ渡シ又ハ賣渡シ又ハ預リ又ハ拂方ノ引受ヲナスコトアルニ於テハ紙幣頭ハ督促シテ其金額ヲ償ハシメ之ヲ其元ニ復セシムヘシ

第九十六條 紙幣頭ハ更ニ大藏卿ヘ稟議シ特例ノ監督役ヲ命遣シ其銀行ノ實際諸般ノ取扱ヲ推究シテ其事實ヲ詳明ニ報知セシムヘシ而シテ其背戾ノ事實相違ナキニ於テハ紙幣頭ハ其銀行ヨリ出納ニ預ケ置キタル公債證書ヲ没入スヘキ旨ヲ(右報知ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ)申渡シ其公債證書ヲ取上クヘシ

第九十七條 右諸般ノ手續了リシ後紙幣頭ハ大藏卿ヘ稟議ヲ經テ凡ソ此銀行ノ紙幣ヲ所持スル者ハ都テ之ヲ大藏省ニ出シテ其引換ヲ乞フヘキ旨ヲ公告シ相當ノ時日ヲ以テ之ヲ引換遣ハスヘシ而シテ其引換タル紙幣ハ總テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其趣ヲ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第九十八條 此條例第九十六條ニ據リ其銀行ヨリ没入シタル公債證書ハ大藏省ノ便宜ニ從ヒ之ヲ

公債若クハ私債シテ其銀行ノ發行紙幣引換ノ資ニ充ツルモノトス但右公債證書ノ賣却代價紙幣下付高ニ對シ不足アルトキハ大藏卿ハ他ノ債主ニ先チ之ヲ其銀行ノ資産ヨリ徵收シ若シ下付高ニ對シ過剩アルトキハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ(同上)

第九十九條 此條例第九十六條ニ掲クル所ノ特例監督役ノ報知ヲ得之カ處分ヲナスニ於テハ紙幣頭ハ即チ右銀行ノ跡引受人ヲ命ジ其銀行ノ諸簿冊及ヒ各種ノ資産等ヲ取押ヘ諸貸付金、立替金ヲ取立タル上ニテ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ謀リテ滯リ貸金類及ヒ銀行ノ所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ其銀行ノ諸借財又ハ預リ金其外ヲ償却シ過金アレハ株高ニ應シ之ヲ株主ヘ割返シ不足アレハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所有物ヲ限リテ相當ノ分散ヲササシムヘシ

第一百條 右借財又ハ預リ金等ヲ償却スルニハ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ三箇月間世上ニ公告シ其銀行ニ貸金預ケ金等アル者ハ右期限中ニ申出テシメ其事由ト證書類トヲ檢按シ紙幣頭ハ厚ク之ニ注意シ適正ノ處分ヲ以テ貸方ニ賦當償却スヘシ

第一百一條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ株主等ハ假令其銀行ニ損失又ハ其他ノ事故アリテ其銀行鎖店分散スルコトアルトモ其株主等ハ其創立證書ニ於テ掲載シタル株式金額ノミヲ損失スルノ外其鎖店分散ニ付テ別ニ賦當出金ヲ受クルノ責メ勿カルヘシ

第一百二條 紙幣頭ハ此條例第九十六條ニ掲クル所ノ處分ヲナスニ際シ其銀行ヨリ尙ホ請願スルコトアリテ其狀實ヲ具陳スル時ハ監督役ヲ出セシ日ヨリ三十日以内(郵便遞送日數ヲ除ク)ナラハ其地方官廳ニ謀リ更ニ其實況ヲ詳悉シテ全ク其背戻セサルノ實證アルニ於テハ紙幣頭ハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ而シテ之ヲ宥恕スヘシ尤右ノ請願書ニハ必ス其地方官廳ヲ經テ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ但此宥恕ヲナス時ハ紙幣頭ハ速カニ其趣ヲ出張ノ監督役ニ達シテ暫ラク其處置ニ取掛ル

コトヲ見合セシムヘシ

第一百三條 此條例ヲ遵奉スル銀行鎖店ノ場合ニ於テ跡引受人ノ入費等ハ總テ相當ノ處分ヲ以テ大藏卿之ヲ取極メ他ノ債主ニ先チ其銀行ノ資産ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ(同上)

第十三章 銀行平穩鎖店ノ手續及ヒ其紙幣及引換方等ノ事ヲ明カニス

第一百四條 此條例ヲ遵奉スル銀行三分二以上ノ株主等ノ協議ニ從テ平穩ニ分散又ハ鎖店セントスルニハ其銀行ノ頭取支配人ヨリ其銀行ノ名印ヲ以テ其決議ノ旨趣ヲ紙幣頭ニ申牒シ其承認ヲ得テ後チ三箇月間新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方其他銀行ニ屬スル取引ノ清算ヲ詳載シタル報吾ヲ製シテ世上ニ公告スヘシ

第一百五條 右ノ公告ヲナシタル日ヨリ其銀行ハ其引換ヘタル銀行紙幣ヲ以テ豫テ出納寮ニ預ケ置キタル公債證書ノ内ヲ取戻スコトヲ得ヘシ尤其公告ノ日ヨリ半箇年ヲ過キ其銀行ノ簿冊上ニ於テ世上ニ殘在スル銀行紙幣アルニ於テハ其負債丈ケノ銀貨ヲ出納頭ニ差出シ右預ケ置キタル公債證書ノ全額ヲ取戻スコトヲ得ヘシ然ル上ハ其銀行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ大藏省ニ於テ之ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ一切其引換ノ責ニ任セサルヘシ

第一百六條 右鎖店シタル銀行ヨリ殘在銀行紙幣引換ノタメ通貨ヲ差出スニ於テハ出納頭ハ之ヲ領受シ其趣ヲ詳記シタル受取證書ヲ製シ之ヲ銀行ヘ下付スヘシ但出納頭ハ右受取證書ノ外ニ預リ證書ヲ製シテ之ヲ紙幣頭ヘ回附シ置キ其殘在銀行紙幣引換ノ爲メ右通貨ノ受取方ヲ要スルニ於テハ何時ニテモ之ヲ紙幣頭ヘ渡スヘシ

第一百七條 右預リ證書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ大藏卿ノ稟議ヲ經テ相當ノ期限ヲ定メ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告シ其殘在額銀行紙幣ノ引換方ニ從事スヘシ

第八八條 右ノ手續ヲ以テ引換タル銀行紙幣ハ此條例第五十一條ノ規定ニ從テ之ヲ燒捨テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ尤右ニ屬スル諸計算其外トモ紙幣頭國債頭出納頭ハ各其簿冊ニ詳記シ置クヘシ

第十四章 銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス

第九九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行若シ他ノ會社又ハ一般ノ人民ヲ相手取り訴訟スルガ又ハ他ヨリ此銀行ヲ相手取り訴訟セラルルカノトキハ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其裁判所(又ハ府縣ノ廳斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ

第一百條 此條例ニ於テ規定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ罪科ニ付テハ裁判所(又ハ府縣ノ廳斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ但此條例中現ニ罰金ノ明文無キ箇條ヲ犯スコトアルトキハ其時ニ當リ其裁判所(又ハ府縣ノ廳斷主任官員)ニ於テ相當ト思考スル罰金(三圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル額數)ヲ右犯罪ノ銀行又ハ頭取取締役其他ノ役員ニ命スヘシ

第十五章 銀行納稅ノ事ヲ明カニス

第一百一條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ相當ノ稅金ヲ納ムヘシ

第十六章 銀行紙幣ノ消却ノ方法ヲ明カニス(明治十六年第十四號布告ニテ追加)

第一百十二條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ハ左ニ掲クル方法ヲ以テ其營業年限内ニ悉皆消却スヘキモノトス但其取扱手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ之ニ從事セシムヘシ

一 各國立銀行ノ紙幣引換準備金ハ大藏卿ノ指定スル期限迄ニ日本銀行ニ納付シ營業年限内之

ヲ定期預ケトナシ紙幣消却ノ元資ニ充ツヘシ

一 各國立銀行ハ每半季利益金ノ多少ニ拘ラス其銀行紙幣下付高ニ對シ年二分五厘(即チ半季一分二厘五毛)ニ當ル金額ヲ引去リ之ヲ日本銀行ニ預ケテ紙幣消却等ノ資ニ充ツヘシ

一 日本銀行ハ前二項ニ掲クル金額ヲ預リ各國立銀行ト別段約定ヲ結ビ之ヲ發行紙幣ヲ消却シテ大藏省ニ上納スルモノトス但其約定書ハ大藏卿ニ呈シテ之ヲ與書證印ヲ受クヘシ

一 日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ上納シタルトキハ大藏省ニ於テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其都度之ヲ公告スヘシ

一 日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ大藏省ニ上納シタルトキハ豫テ出納局ニ差出シ置キタル紙幣抵當公債證書ノ内右消却高ニ相當スル員額ヲ大藏省ヨリ直チニ其銀行ニ還付スヘシ

第十七章 條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カニス(同上布告ヲ以テ第十六章第十七章ト改ム)

第一百十三條 此國立銀行條例ハ政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ何時ニテモ之ヲ增補シ又ハ更正シ又或ハ之ヲ廢止スルコトアルヘシ若シ右增補其他ノ節ハ直チニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ(同上布告ヲ以テ「第一百十二條」ヲ「第一百十三條ト」改ム)

國立銀行稅額ヲ定ム(明治十一年九月布告第二十九號)

明治九年(八月)第百六號布告國立銀行條例第十五章稅額ノ儀ハ銀行紙幣下付高ノ千分ノ七ト相定メ本年七月ヨリ年徵收候條此旨布告候事但納期ノ儀ハ一箇年兩度ニ割合前半年分ハ七月三十一日限リ後半年分ハ一月三十一日限リ其管轄廳ヘ可相納事

銀行紙幣贋造描改處分

(明治十四年十月大藏省達乙第四十號)

銀行紙幣贋造札描改札處分方ノ儀ハ明治九年(四月)第五十七號布告及ヒ同年(五月)當省甲第十二號布達同年(五月)當省乙第四十號達ニ準據候儀勿論ニ候得共右處分方結了ノ上ハ該札相添ヘ銀行局ヘ可届出儀ト可相心得且又右第五十七條布告規則第二條等ニ據リ引換フヘキ正紙幣ヲ改人ヨリ差出候トキハ其接近ノ地ニ設立スル國立銀行本支店(其紙幣ヲ發行セシ銀行ニアラサルモ)ヘ下付シテ交換セシメ代リ金ハ該銀行ヨリ直チニ其改人ヘ交付可爲致此旨相達候事

銀行紙幣合同消却方法 (明治十六年五月大藏省番外達)

國立銀行條例追加第一百十二條ニ據リ日本銀行ニ於テ各國立銀行紙幣ヲ消却スルニ付テハ別冊ノ通合同消却方法相定候條右ニ準據シ不都合無之様處分可致此旨相達候事

(別冊)

銀行紙幣合同消却方法

第一條 日本銀行ニ於テ各國立銀行ノ紙幣ヲ消却スルハ毎季紙幣消却元資金ヨリ生スル金子ノ金額ヲ進據トシ總體ノ發行高チ合同シテ便宜之レヲ消却處分スルモノトス故ニ其年ノ都合ニヨリテハ一銀行ノ計算ニ於テ或ハ紙幣發行高ト其實際ノ消却高トニ過不足ヲ生スル事アルヘシト云トモ終期ニ至リテ悉皆其消却ヲ完了スヘキモノトス

第二條 日本銀行ハ毎季紙幣消却元資金ノ利子ヲ管轄廳ヨリ受取ルトキハ其金額ヲ各銀行紙幣發

行高ニ對比シテ一行毎ニ其季ノ消却割付高チ算定シ其一覽表ヲ製シテ(六月十五日十二月十五日)迄ニ之レヲ大藏省ニ上呈シ各國立銀行ヘハ右期限迄ニ其計算書ヲ發付シテ當季ニ消却スヘキ銀行紙幣ノ割付高チ通知スヘシ

第三條 日本銀行ハ前第二條ニ掲クル利子金ヲ以テ消却シタル各銀行紙幣ノ金高チ取纏メ其發行店毎ニ之レヲ區別シ其種類員額及記號番號ノ内譯書ヲ添ヘテ之ヲ大藏省ヘ納付シ大藏省ヨリ請取書ヲ領收スヘシ

第四條 右ノ受取證書ヲ領受セハ日本銀行ハ各銀行紙幣消却證書(各行ノ紙幣實際ノ消却多寡ニ拘ハラズ第二條ノ割付高ニ從フヘシ)及實際消却シタル紙幣ノ種類及員額記號番號ノ内譯書ヲ各國立銀行ヘ送付スヘシ

第五條 各國立銀行ハ右ノ消却證書ヲ得タルトキハ紙幣消却ノ旨ヲ大藏省ヘ届出テ紙幣下付高ノ内ヨリ該金額ヲ控除シ元高消却ノ書面ヲ作り之レヲ日本銀行ヘ送付スヘシ

第六條 各國立銀行ヨリ紙幣消却ノ旨ヲ大藏省ヘ届出タルトキハ大藏省ハ各銀行紙幣實際消却高ノ多寡ニ拘ハラズ第二條ノ割付消却高ニ從ヒ紙幣抵當公債證書ヲ直チニ各國立銀行ニ下付スルモノトス

第七條 各國立銀行中營業滿期ニ至リ發行紙幣尙殘存スルモノハ日本銀行ニ於テ命令書第三條ニ掲クル公債證書ヲ賣拂ヒ其代金ヲ以テ之ヲ消却シ尙殘額アレハ命令書第二條ニ掲クル公債證書ヲ賣拂其代金ヲ日本銀行ニ預リ置キ以テ右殘存紙幣消却ノ資ニ充ツルモノトス

第八條 各國立銀行中紙幣消却未タ完了セサル場合ニ於テ鎖店スルモノアルトキハ日本銀行ハ其銀行ヨリ預リタル紙幣消却元資ヲ還付シ而シテ其銀行ニ係ル實際消却高ト割付消却高ト比較シ

割付消却高ノ方多額ナルトキハ大藏省ニ於テ割付消却高ノ殘額ヲ引換消却シ實際消却高ト割付消却高トノ差額ハ日本銀行ヨリ他ノ消却元資ヲ上納セシメ大藏省ニ於テ消却處分スルモノトス若又之ニ反シ實際消却高ノ方多額ナルトキハ大藏省ニ於テ實際消却高ノ殘額ヲ引換消却シ實際消却高ト割付消却高トノ差額ハ紙幣抵當公債證書ヲ賣却シ其代金ヲ日本銀行ヘ下付シ他ノ消却元資ニ充テシムヘシ

●國立銀行損傷紙幣交換各國立銀行本支店

ニ於テ取扱方 (明治十二年二月大藏省乙第九號)

國立銀行損傷紙幣交換方ノ儀ニ付テハ兼テ相違置候趣モ有之候處今般各國立銀行ヘ別紙ノ通相違候條自今交換不及候此旨相違候事但本文ノ趣明治八年當省乙第七十四號達ニ準シ管下人民ヘ普ク諭達可致候事

(別紙)

各國立銀行

國立銀行損傷紙幣交換ノ儀自今他店ノ發行紙幣タリトモ其所持主請求次第各國立銀行本支店ニ於テ無差支互ニ交換可取計此旨相違候事但本文交換セシ他店ノ紙幣ハ適宜取繼メ其發行銀行ヘ相送り其代リ金並右遞送ニ關スル費用ハ勿論更ニ手数料トシテ交換金高千圓ニ付貳圓ツツ該銀行ヨリ償還可爲致就テハ交換請求人ヨリ別段手数料切實等一切受取候儀不相成候事

●鎖店國立銀行ノ貸金其他ノ證書ヲ有スル債主ノ權利ヲ定ムル件

(明治十七年十二月大藏省令第四百十號告示)

鎖店國立銀行ノ貸金其他ノ證書中跡引受人ヲシテ左ノ書式ノ裏書又ハ繼書ヲナシ處分爲致候モノハ爾後裏書又ハ繼書ノ記名主之カ債主タルヘシ依テ右證書ニ對スル負債ハ該負債者ヨリ右記名主ニ向ヒ濟方可致者トス (裏書繼書書式略之)

●營業滿期國立銀行處分法 (明治二十九年三月法律第七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル營業滿期國立銀行處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業滿期國立銀行處分法
第一條 國立銀行ニシテ營業滿期後國立銀行條例第十二條ニ依リ私立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續セムトスルモノハ營業滿期ノ日ヨリ三箇月以前ニ營業繼續及定款改正ノ決議ヲ爲シ其ノ改正定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ營業繼續ノ許可ヲ請フヘシ

第二條 前條ノ國立銀行ニシテ資本金額ヲ減少シテ營業ヲ繼續セムトスルモノハ國立銀行條例第四十二條、第四十三條及第四十四條ノ手續ヲ了シタル上前條ニ依リ營業繼續ノ許可ヲ請フヘシ但同條第十七條ノ制限ヲ適用スル限ニ在ラス

第三條 營業繼續及定款改正ノ決議ハ國立銀行條例第六十九條格段決議ノ方法ニ依ル

第四條 營業滿期ニ至リ營業ヲ繼續セサル國立銀行ノ解散手續ニ關シテハ商法株式會社解散及精算ノ條項ヲ適用ス

第五條 國立銀行ハ營業滿期日ニ於テ其ノ發行紙幣ヲ悉皆消却シ能ハサルトキハ消却殘高ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スヘシ

私立銀行トナリテ營業ヲ繼續セムトスル國立銀行ニ於テ前項ニ依リ政府ニ納付スヘキ金額ノ借入ヲ必要トスルトキハ大藏大臣ハ無利子貸付ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第六條 前條第一項ノ金額ヲ收納シタルトキハ政府ハ其ノ預リタル紙幣抵當公債證書ヲ還付スヘシ

第七條 政府ハ國立銀行ヨリ納付シタル金額ヲ以テ紙幣消却ノ基金ト爲シ其ノ發行紙幣ヲ交換スヘシ

國立銀行其ノ紙幣消却殘高ニ相當スル金額ヲ納付セサルトキハ政府ハ其ノ預リタル紙幣抵當公債證書ヲ賣却シ紙幣消却ノ基金ニ充ツヘシ

營業滿期國立銀行處分法施行細則

(明治二十九年四月大藏省令第八號)

明治二十九年法律第七號營業滿期國立銀行處分法施行細則左ノ通相定ム

營業滿期國立銀行處分法施行細則
第一條 國立銀行ニシテ營業滿期國立銀行處分法第一條ニ依リ營業繼續及定款改正ノ決議ヲ爲シタルトキハ左ノ書類及改正定款ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ營業繼續ノ許可ヲ請フヘシ

一 國立銀行條例第七十條ノ書類

二 財産目錄及貸借對照表但本支店各自ノ分並ニ本支店ヲ合シタル分各一通ヲ調製スヘシ

第二條 前條第二號財産目錄及貸借對照表ヲ作ルニハ總テノ債權及其他總テノ財産ニ當時ノ相場又ハ市場價直ヲ附シ辨償ヲ得ルコトノ確ナラサル債權ニ付テハ其推知シ得ヘキ損失額ヲ控除シテ之ヲ記載シ又到底損失ニ歸スヘキ債權ハ全ク之ヲ記載セサルモノトス

第三條 國立銀行ハ第一條ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ其旨ヲ日本銀行ニ通知シ且ツ本支店所在地ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ但其公告ニハ本支店ヲ合シタル財産目錄及貸借對照表ヲ記載スヘシ

第四條 國立銀行ニ於テ日本銀行ヨリ借入金ヲ爲ストキハ其契約書ノ謄本ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

第五條 紙幣消却元資公債證書並紙幣消却ニ關スル計算ヲ爲ス場合ニ於テ元資公債證書ハ時價ヲ以テ算定シ紙幣消却高ハ合同消却高ニ依ルヘシ

第六條 國立銀行ニ於テ營業滿期國立銀行處分法第五條第一項ニ依リ紙幣消却殘高ニ相當スル通貨ヲ納付シタルトキハ直ニ抵當公債證書ノ下戻ヲ請求スヘシ

第七條 營業滿期ノ際新舊取締役ノ事務引繼ヲ了リタルトキハ其旨ヲ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ届出ツヘシ但該届書ニハ新舊取締役連署シ監查役之二副署スヘシ

前項ノ届出ト同時ニ國立銀行ノ開業免狀ヲ還納スヘシ

第八條 國立銀行ハ營業滿期ノ當日一旦諸帳簿ヲ締上ケ半季決算ノ例ニ倣ヒ國立銀行成規第六十六條ニ規定スル諸報告計表ヲ調製シ滿期ノ日ヨリ十日以内ニ大藏大臣ニ差出スヘシ

第九條 營業滿期ニ至リ營業ヲ繼續セサル國立銀行ハ其決議ヲ爲シタルトキ直ニ其旨ヲ大藏大臣ニ届出ツルト同時ニ日本銀行ニ通知スヘシ
第十條 前條ノ國立銀行ハ營業滿期ノ日マテニ營業滿期國立銀行處分法第五條第一項ノ手續ヲ了スヘシ若シ其手續ヲ了セサルトキハ大藏大臣ハ同法第七條第二項ニ依リ處分スヘシ
第十一條 本規則ハ國立銀行營業滿期前特別處分法ニ依リ私立銀行トナリテ營業ヲ繼續スル國立銀行ニモ之ヲ適用ス

國立銀行營業滿期前特別處分法

(明治二十九年三月法律第十一號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國立銀行營業滿期前特別處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國立銀行營業滿期前特別處分法

第一條 國立銀行ハ營業滿期前ト雖私立銀行トナリテ營業ヲ繼續スルコトヲ得
第二條 前條ノ國立銀行ハ營業滿期前ニ私立銀行トナリテ營業ヲ繼續スルコト及改正定款ノ決議ヲ爲シ其ノ改正定款ヲ添ヘ大藏大臣ノ許可ヲ請フヘシ
第三條 前條營業繼續及定款改正ノ決議ハ國立銀行條例第六十九條格段決議ノ方法ニ依ル
第四條 第二條ノ許可ヲ得タルトキハ國立銀行ハ其ノ旨ヲ總テノ債權ニ通知シ同時ニ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告シ異議アル者ハ三箇月内ニ申出ツヘキ申ヲ催告スルコトヲ要ス
前項ノ期間ヲ過クルトキハ債權者ハ異議申出ノ權利ヲ失フモノトス
第五條 債權者第四條ノ期間ニ異議ヲ申出タルトキハ國立銀行ハ其ノ債務金額及支拂當日マテノ

利子ヲ辨償スヘシ

第六條 國立銀行ハ第五條ノ規程ニ從ヒ辨償了了ヘ且ツ第四條ノ期間ヲ經過シタル後ニ非サレハ私立銀行トナルコトヲ得ス
第七條 過愈ナキ不知ノ爲第四條ノ期間ニ異議ヲ申出サル債權者ヨリ債務ノ辨償ヲ要求シタルトキハ銀行ハ約定期限前ト雖第五條ノ規程ニ從ヒ辨償スヘシ
第八條 營業滿期國立銀行處分法第二條及第五條ノ規程ハ營業滿期前ニ私立銀行トナル國立銀行ニモ之ヲ適用ス
第九條 營業滿期前ニ私立銀行トナル國立銀行ノ紙幣消却ニ付テハ政府ハ營業滿期國立銀行處分法第六條第七條ニ依リ之ヲ處分ス

銀行合併法 (明治二十九年四月法律第八十五號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル銀行合併法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

銀行合併法

第一條 同一ノ法律ニ依リテ設立シタル銀行營業ノ各株式會社ハ左ノ方法ニ依リ合併スルコトヲ得
第一 會社其ノ資産及負債ノ全部ヲ以テ他ノ會社ニ合併スルコト
第二 二箇以上ノ會社合併シテ更ニ一ノ會社ヲ設立スルコト
第二條 前條第一ノ方法ニ依リ合併セムトスル會社ハ各其ノ株主總會ニ於テ合併ニ關スル事項ヲ決議シ地方長官ヲ經由シテ主務省ノ認可ヲ受クヘシ

前項株主總會ノ招集ハ少クとも會日ノ三十日前ニ之ヲ爲スヘシ

第三條 第一條第二ノ方法ニ依リ合併セムトスル會社ハ各其ノ株主總會ノ決議ヲ取りタル後各會社株主ノ聯合總會ヲ開キ合併ノ決議ヲ爲シ更ニ設立スヘキ會社ノ定款ヲ議定シ各會社取締役ノ連署ヲ以テ地方長官ヲ經由シテ主務省ノ認可ヲ受クヘシ

聯合株主總會ニ於テハ更ニ設立スヘキ會社ノ取締役及監査役ヲ選定ス
前條第二項ノ規程ハ本條ノ株主總會ニモ亦之ヲ適用ス

第四條 株主總會及聯合株主總會ノ決議方法ハ商法第二百三條ノ規程ニ依ル

聯合株主總會ニ於ケル株主ノ議決權ハ一株毎ニ一箇トス但各會社ノ定款ニ於テ議決權ノ制限ヲ設ケタルトキハ其ノ制限ハ十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ニ對シテノミ之ヲ適用シ且各定款ノ制限同シカラサルトキハ株主ニ對シ最利益アル制限ノ規程ヲ適用ス

各會社ノ株式ノ金額相同シカラサルトキハ其ノ最少額ノ株式金額ヲ標準トシテ其ノ他ヲ改算シ議決權ノ數ヲ定メ每株主持株ノ總金額ニ於テ端數ヲ生スルトキハ之ヲ算入セス

第五條 株主總會ノ招集アリタルトキハ各會社ハ合併スヘキ他ノ會社ノ株主ノ求ニ應ジ商法第二百二十二條ニ掲ケタル書類ノ展閱ヲ許ス義務アリ

第六條 株主總會ノ招集アリタルトキハ各會社營業所ノ裁判所ハ合併スヘキ一方ノ會社ノ總株金ノ少クとも五分ノ一ニ當ル株主ノ申立ニ因リテ一人又ハ數人ノ官吏ニ他ノ一方ノ會社ノ業務ノ實況及財産ノ檢査ヲ命スルコトヲ得

商法第二百五條及第二百二十六條ノ規程ハ本條ノ檢査ニモ亦之ヲ適用ス

第七條 聯合株主總會若ハ第二條ノ株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ取締役ヨリ之ヲ

裁判所ニ届出ヘシ

第八條 主務省及裁判所ハ合併ノ實況ヲ監視スル權アリ

第九條 聯合株主總會若ハ第二條ノ株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ合併ニ因リ消滅スヘキ會社ハ既ニ始メタル取引ヲ完結シ又ハ現ニ存在スル會社義務ヲ履行スル外其ノ業務ヲ止メ且少クとも三同之ヲ公告スヘシ取締役之ニ拘ラスシテ營業ヲ續行スルトキハ此カ爲其ノ全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第十條 合併セムトスル會社ハ公告ヲ爲シテ聯合株主總會若ハ第二條ノ株主總會ノ會日前一箇月ヲ踰エサル期間株式ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得

第十一條 第一條第二ノ方法ニ依リ合併セムトスル場合ニ在テハ聯合株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタル日ヨリ第十四條ニ依リ登記ヲ受クルマテノ間ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ無効タリ

第十二條 合併ノ認可アリタルトキハ取締役ハ合併ノ旨ヲ總テノ債權者ニ通知シ且合併ニ對シ異議アル者ハ或ル期間内ニ會社ニ申出ツヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其ノ期間ハ三十日ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ通知ニハ合併セムトスル各會社ノ財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十三條 前條ニ掲ケタル期間内ニ異議ノ申出アラサルトキハ異議ナキモノト看做ス
期間内ニ異議ヲ申出タル債權者アルトキハ會社ハ直ニ其ノ債務ヲ辨償シ若ハ之ニ擔保ヲ供シテ其ノ異議ヲ取除クコトヲ要ス

第十四條 會社ハ第十一條ノ期間ヲ經過シ且有效ニ申出タル債權者ノ異議ヲ取除キ又訴訟中ノ債務額ハ之ヲ辨償シ若ハ供託シタル後ニ非サレハ合併ヲ執行スルコトヲ得ス但總テノ債權者ニ於

テ異議ナキコトヲ明示シタルトキハ該期間内ト雖合併ヲ決行スルコトヲ得
 第十四條 合併ヲ決行シタルトキハ十四日以内ニ登記ヲ受ケ同時ニ之ヲ株主ニ通知シ且地方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ヘシ

登記及公告スヘキ事項ハ左ノ如シ

第一 合併後存留スル會社ニ在テハ

一 合併認可及合併決行ノ年月日

二 既ニ登記ヲ受ケタル事項ニ變更ヲ生シタルモノ

三 合併ニ因リ消滅シタル會社ノ社名

第二 合併ニ因リ更ニ設立セル會社ニ在テハ商法第六十八條第二項(第八號ヲ除ク)ニ掲ケタル事項ノ外仍左ノ二項

一 合併認可及合併決行ノ年月日

二 合併ニ因リ消滅シタル會社ノ社名

第十五條 會社支店アルトキハ其ノ所在地ニ於テモ亦登記ヲ受ケヘシ

第十六條 第十四條ノ期間内ニ登記ヲ受ケサルトキハ此カ爲會社又ハ第三者ニ生シタル損害ニ付

キ取締役ハ其ノ全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第十七條 合併後存留シ若ハ合併ニ因リ更ニ設立セル會社ハ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼ス

第十八條 國立銀行ハ第一條第二ノ方法ニ依リ合併スルコトヲ得ス

第十九條 第二條第一項ノ決議方法ハ國立銀行ニ在テハ國立銀行條例第十九條ノ規程ニ依ル

第二十條 合併ニ因リ消滅シタル國立銀行ニ於テ發行シタル紙幣ハ合併後存留スル國立銀行ニ於テ自己ノ發行シタル紙幣ト俱ニ國立銀行條例第一百十二條ノ方法ニ依リ其ノ營業年限内ニ悉皆消却スヘシ

第二十一條 合併ノ認可アリタルトキハ合併ニ因リ消滅スヘキ會社ノ訴訟ハ合併後存留シ若ハ合併ニ因リ更ニ設立セル會社ニ於テ訴訟手續ヲ受繼クマテ之ヲ中斷ス
 民事訴訟法第一編第三章第五節當事者ノ死亡ニ因レル訴訟手續ノ中斷ニ關スル規程ハ前項ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス

第二十二條 取締役第十四條ノ登記ヲ受クルコトヲ怠リタルトキハ商法第二百五十六條ノ例ニ依リ第十一條ノ通知及催告ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ商法第二百五十九條ノ例ニ依リテ處分ス

◎ 銀行合併法施行細則 (明治二十九年四月大藏省令第九號)

明治二十九年法律第八十五號銀行合併法施行細則左ノ通相定ム
 銀行合併法施行細則

第一條 銀行合併法第二條及第三條ニ依リ差出スヘキ合併ノ認可申請書ニハ各會社ノ取締役連署ヲ爲シ左ノ書類ヲ之ニ添付スヘシ

- 一 合併ニ關スル契約書
- 二 銀行合併法第十一條ニ規定スル各會社ノ財産目錄及貸借對照表
- 三 合併後存留スル會社若クハ更ニ設立スル會社ノ定款
- 四 右ノ外決議ノ要項ヲ記載セルモノ

第二條 合併ヲ決行シタルトキハ銀行合併法第十四條ノ届出ト同時ニ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ設立免許書ヲ還納スヘシ

第三條 合併ニ因リ消滅スル國立銀行ニ於テ大藏省ヘ預ケ入レタル紙幣抵當公債證書ハ合併後存留スル國立銀行ヨリ保管證書ノ名義書替ヲ大藏省ニ請求スヘシ
大藏省ヨリ前項書替ノ通知ヲ受ケタルトキハ大藏省ノ預リ證書ヲ差出シテ其書替ヲ請求スヘシ

銀行條例 (明治二十三年八月法律第七十二號)

朕銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

銀行條例

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用井ルニ拘ラス總テ銀行トス

第二條 銀行ノ事業ヲ營マントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第三條 銀行ハ毎半年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條 銀行ハ毎半年財産目錄貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第五條 (明治二十八年法律第一號ヲ以テ本條削除)

第六條 銀行ノ營業時間ハ午前第九時ヨリ午後第三時マテトス(同上法令ヲ以テ「十時」ヲ「九時」「三時」ヲ「四時」ニ改正ス)但營業ノ都合ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日祝日日曜日及銀行營業地ニ行ハルル定例ノ休日トス但止ヲ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務ノ實況及財産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ得

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ營ミタル者ハ商法第二百五十六條ノ例ニ依テ處分ス

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中若ハ公告中ニ詐偽ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ商法第二百六十二條ノ例ニ依テ處分ス

第八條ノ検査ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ商法第二百五十八條ノ例ニ依テ處分ス

第十一條 此條例ハ日本銀行橫濱正金銀行國立銀行ニ適用セス

銀行條例施行細則 (明治二十六年五月大藏省令第七號)

明治二十三年法律七十二號銀行條例施行細則左ノ通相定ム

銀行條例施行細則

第一章 銀行ノ設立

第一節 合名會社及ヒ合資會社

第一條 合名會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ營業科目、資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ會社契約及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受ケヘシ

第一 會社ノ社名及ヒ營業所

第二 各社員ノ氏名

第三 開業セントスル年月日

第四 業務擔當社員ヲ特定メタルトキハ其氏名及ヒ住所

第五 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第二條 合資會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ營業科目、資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ會社契約及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一 各社員ノ出資額

第二 會社ノ社名及ヒ營業所

第三 各社員ノ氏名

第四 開業セントスル年月日

第五 無限責任社員アルトキハ其氏名

第六 業務擔當社員ノ氏名及住所

第七 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第三條 合名會社合資會社ハ大藏大臣ノ認可ヲ得テ設立シタルトキハ事業著手前ニ商法第七十九條又ハ同法第三百三十八條ノ事項ヲ登記スルノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 合名會社合資會社營業科目、資本金額並ニ存立時期ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

會社契約及ヒ參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ヘシ

第五條 前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ商法第八十條ノ登記ヲ要スルトキハ認可ヲ得タル後七日以内ニ其登記ヲ受クヘシ

第六條 合名會社合資會社ハ認可並ニ登記ヲ要スル事項ニツキテハ大藏大臣ノ認可ヲ得ルモ商法第七十八條又ハ同法第八十條ノ登記ヲ受ケサルカ若クハ同法第八十二條ニ依リ登記ノ効ヲ失ヒタルトキハ其認可ノ効力ヲ生セサルモノトス

第二節 株式會社

第七條 株式會社ノ組織ヲ以テ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ四人以上ノ發起人連署捺印シテ目論見書及ヒ假定款ヲ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ發起人ノ認可ヲ請フヘシ

第八條 創業總會ノ終リシ後發起人ハ營業科目、資本金額並ニ存立時期ヲ定メタルトキハ其時期ヲ記載シタル願書ニ目論見書、定款、株式申込簿、發起ノ認可證及ヒ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一 會社ノ社名及ヒ營業所

第二 取締役ノ氏名及ヒ住所

第三 開業セントスル年月日

第四 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第九條 株式會社設立ノ認可ヲ得テ發起人ヨリ事務ノ引渡シヲ爲シタルトキハ取締役ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ株主ヲシテ株金ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

前項ノ拂込金額各株式ノ四分ノ一以上ニ達スルトキハ事業著手前ニ商法第百六十八條ニ依リ登記ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 株式會社營業科目、資本金額及ヒ存立時期ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

會社定款及ヒ參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十一條 株式會社ハ前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ商法第二百十條ノ登記ヲ要スルトキハ認可ヲ得タル後直ニ其登記ヲ受クヘシ

第十二條 株式會社ハ認可並ニ登記ヲ要スル事項ニツキテハ大藏大臣ノ認可ヲ得ルモ商法第百六十八條又ハ同法第二百十條ノ登記ヲ受ケサルカ若クハ同法第百七十條及ヒ第八十二條ニ依リ登記ノ效力失ヒタルトキハ其認可ノ效力ヲ生セサルモノトス

第三節 各人

第十三條 各人ニ於テ銀行ノ事業ヲ營メントスルトキハ營業科目並ニ資本金額ヲ記載シタル願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル參考書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第一 營業所

第二 開業セントスル年月日

第三 支店ヲ置クトキハ其場所及ヒ名稱

第十四條 營業科目及ヒ資本金額ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ更ニ願書ヲ大藏大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

參考書ニ掲ケタル事項ニ變動アルトキハ地方長官ヲ經由シ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第二章 營業

第十五條 銀行ハ營業上一切ノ取引ニ使用スル印章ヲ定メ其印鑑ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ改印スルトキモ亦同シ

第十六條 本店及支店ニ於テ營業開始スル時ハ地方長官ヲ經由シ其期日ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十七條 銀行ハ其名稱ヲ掲牌ニ記載シ營業時間中ハ之ヲ其銀行ノ店前公衆ノ目ニ觸レ易キ所ニ掲ケヘシ

第十八條 銀行ニシテ支拂ヲ停止スル時ハ地方長官其事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第十九條 各人ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノハ其事業ヲ廢止スルカ又ハ破産ヲ宣告セラレタルモノアルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第二十條 合名會社合資會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノ其營業ヲ廢止スルカ又ハ解散スルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第二十一條 株式會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノハ其營業ヲ廢止スルカ又ハ破産ヲ宣告セラレタルモノアルトキハ地方長官ハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第二十二條 地方長官ハ銀行ニシテ法令ニ違反スルモノアリト認ムルトキハ其事狀ヲ具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ報告シ其指揮ヲ請フヘシ

第三章 報告及ヒ公告

第二十三條 銀行條例第三條及第四條ノ中箇年ハ毎年一月ヨリ六月マテ及ヒ七月ヨリ十二月マテトシ之ヲ銀行ノ營業年度トス

第二十四條 銀行條例第三條ノ營業報告書ハ附屬雛形ニ準シテ調製シ毎營業年度經過後一箇月以内ニ之ヲ發送スヘシ但遠隔ノ地ニ支店ヲ有シ本條ノ期日内ニ報告書ヲ發送スル能ハサルモノハ地方長官ヲ經由シ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ其期日ヲ定ムルコトヲ得

第二十五條 銀行ハ前條ノ報告書ヲ發送スルト同時ニ銀行條例第四條ノ公告ヲ爲スヘシ

第二十六條 銀行ノ營業所アル地方ニ於テ刊行スル新聞紙アルトキハ他地方ノ新聞紙ニ公告スルト否トニ拘ラス所在地方ノ新聞紙ニ公告スルヲ要ス

銀行ノ營業所アル地方ニ刊行ノ新聞紙ナキトキハ最寄地方又ハ取引先多キ地方ノ新聞紙ニ公告シ尙ホ營業所ノ店前ニ掲示シテ公告スヘシ

第二十七條 銀行條例第七條但書ニ依リ休業セントスルモノハ少ナクトモ三日以前地方長官ニ届出テ同時ニ銀行ノ營業所アル地方ニ於テ刊行スル新聞紙ニ公告スヘシ

銀行ノ營業所アル地方ニ刊行ノ新聞紙ナキトキハ營業所ノ店前其他公衆ノ目ニ觸レ易キ場所ニ少ナクトモ三日以前ヨリ公告スヘシ

第二十八條 銀行ヨリ大藏大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ
地方長官ハ前項ノ書類ヲ調査シ意見アルトキハ之ヲ添付シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 検査

第二十九條 銀行條例第八條ニ依リ検査ヲ爲ストキハ其検査ヲ命セテレタル官吏ハ検査官タル證票ヲ携帯スヘシ

第三十條 銀行ハ検査官ニ於テ検査上必要トスル營業用ノ金匱、財産現在高、帳簿及ヒ總テノ書類ハ其要求ニ應シテ之ヲ示シ又ハ説明ヲ爲スヘシ

第三十一條 検査官検査ヲ終了シタルトキハ其検査ノ願末ヲ速ニ大藏大臣ニ報告スヘシ

第五章 補則

第三十二條 銀行條例實施前ヨリ既ニ設立シタル株式會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノノ銀行條例施行後ニ其事業ヲ繼續セントスルトキハ商法施行條例第十條ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 銀行條例實施前ヨリ既ニ設立シタル合名會社合資會社又ハ各人ニシテ銀行ノ事業ヲ營ムモノノ銀行條例施行後ニ其事業ヲ繼續セントスルトキハ本規則第一條第二條又ハ第十三條出願ノ手續ニ準據シ本年六月三十日マテニ地方長官ヲ經由シ大藏大臣ニ届出ツヘシ
前項届出ヲ爲ササルモノハ總テ新ニ其事業ヲ開始スルモノト見做スヘキヲ以テ本規則第一章ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

(報告雛形ハ之ヲ略ス)

貯蓄銀行條例

(明治二十三年八月法律第七十三號)

朕貯蓄銀行ノ條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

貯蓄銀行條例

第一條 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス

銀行ニ於テ新ニ一口五圓未満ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リトシテ引受ルトキハ貯蓄銀行ノ業

ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム

第二條 資本金三万圓以上ノ株式會社ニアラサレハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 貯蓄銀行ノ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス但
其責任ハ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス(明治二十八年法律第十七號ヲ以テ改正ス)

第四條 貯蓄銀行ハ貯蓄預金拂戻ノ擔保トシテ預金總高ノ四分ノ一ヨリ少ナカラサル金額ヲ利付
國債證券又ハ地方債證券ニテ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ(同上法令ヲ以テ但書トモ改
正ス)但擔保金額ヲ資本金半額以上ニ及フトキハ商業手形及確實ナル會社ノ債券又ハ株券等ヲ
用井ルコトヲ得

第五條 前條ノ金額ハ每半箇年末日現在ノ預金高ニ依リ之ヲ定ム(同上法令ヲ以テ本條改正)

第六條 預ケ人ハ第四條ノ供託諸證券ニ就キ優先權ヲ有ス(同上)

第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定款ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受
クヘシ

第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ
受クヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ罰
金ニ處ス

貯蓄銀行ニアラスシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若ハ取締
役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル

◎貯蓄銀行條例施行細則

(明治二十八年三月大藏省令第一號)

明治二十六年大藏省令第八號貯蓄銀行條例施行細則左ノ通改正ス

貯蓄銀行條例施行細則

第一條 貯蓄銀行條例第四條ノ利付國債證券、地方債證券、商業手形、會社ノ債券又ハ株券ハ明

治二十六年大藏省令第二十一號供託物取扱規程第二條ノ手續ニ依リ之ヲ本店所在地ノ供託所ニ

預ケ入ルヘシ

第二條 諸證券ノ擔保價格ハ每半箇年末日ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三條 第一條ニ依リ證券供託ノ手續ヲ了シタルトキハ供託所受領證ノ寫ヲ添付シ每半箇年末日
ヨリ三十日以内ニ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ届出ツヘシ

臨時ニ供託ヲ爲シタル場合ニ於テハ其都度直ニ前項ニ依リ届出ヲ爲スヘシ

第四條 既ニ供託シタル證券ノ全部又ハ一部ノ返戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ返戻ヲ求メント
スル證券ノ種類記號番號券面ノ金額枚數及ヒ擔保金額ヲ記載シテ地方長官ニ出願シ其承認ノ證
憑ヲ提出シ供託物取扱規程第十條ノ手續ニ依リ供託所ニ請求スヘシ

地方長官ハ前項ノ承認ヲ與ヘタルトキハ直ニ書類ノ寫ヲ添付シ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 大藏大臣ハ會社ノ債券又ハ株券等ニシテ貯蓄預金ノ擔保ニ供スヘカラサルモノト認ムル
トキハ其供託ヲ制止スルコトアルヘシ

第六條 供託諸證券ニハ其銀行ノ所有ニ屬スルコトヲ證明スヘキ證書ヲ添付スヘシ(明治二十八
年大藏省令第二號ヲ以テ本條改正)

第七條 貯蓄銀行ノ營業報告書ハ附屬雜形ニ準シ調製スヘシ
 第八條 本規則ニ規定セサルモノハ總テ銀行條例施行細則ニ依ル

重要輸出品同業組合法 (明治三十年四月法律第四十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル重要輸出品同業組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 重要輸出品同業組合法

第一條 重要輸出品ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得

重要輸出品及密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル
 第二條 同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ以テ目的ト爲スヘシ

第三條 同業組合ヲ設置セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ノ同業者五分ノ四以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但二種以上ノ營業者相集リ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業毎ニ五分ノ四以上ノ同意ヲ要ス
 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ地區ノ範圍及組合ニ加入スヘキ營業ノ種類ヲ指定シ若ハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第四條 同業組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但營業上特別ノ情況ニ依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 同業組合ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及訴訟上原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

同業組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 同業組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得
 同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 同業組合及同業組合聯合會ノ定款ノ變更ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 同業組合及同業組合聯合會ハ諸般ノ事務ヲ處理スル爲左ノ役員ヲ置クヘシ

- 一 組長 一名
- 一 副組長 一名
- 一 評議員 若干名

役員ハ組合員中ヨリ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 同業組合又ハ同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ検査規程ヲ設ケ組合員ノ營業品ヲ検査スルコトヲ得

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキ検査規程ヲ設ケシムルコトヲ得

第十條 同業組合又ハ同業組合聯合會ニ於テ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵スルノ必要アルトキハ定款ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十一條 同業組合及同業組合聯合會ノ經費ノ豫算並ニ徵收法ハ各其ノ定款ノ規程ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ決算貸借對照表及業務成績ハ每年少クトモ一回組合員ニ公示シ農商務大臣ニ報告スヘシ
第十二條 同業組合及同業組合聯合會ハ其ノ業務ニ關シ行政應ニ建議スルコトヲ得又主務官廳ノ
諮問アルトキハ調査報告ヲ爲スヘシ

第十三條 同業組合及同業組合聯合會ハ農商務大臣ノ命シタル官吏ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得又其
ノ質問ニ對シ確實ニ答辯スヘキモノトス

第十四條 農商務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ同業組合及同業組合聯合會ヲ設ケシムルコト
ヲ得

第十五條 農商務大臣ハ同業組合及同業組合聯合會又ハ其ノ役員ノ行爲若ハ同業組合會議及同業
組合聯合會會議ノ決議ニシテ法律命令ニ違背シタルトキ又ハ公益ヲ害シ若ハ同業組合及同業組
合聯合會ノ目的ニ違背スルモノト認ムルトキ又ハ此ノ法律ニ依リ農商務大臣ノ命スル事項ヲ執
行セサルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 同業組合及同業組合聯合會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止
- 二 役員ノ全部又ハ一部ノ改選
- 三 決議ノ取消

第十六條 同業組合及同業組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認
可ヲ受クヘシ

第十七條 第四條第十三條ノ規程ニ違背シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

過料ハ同業組合及同業組合聯合會ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但其ノ命
令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徵收ス其ノ徵收ニ付テハ民事訴訟法第六編ノ規程ヲ準用ス但此ノ
場合ニ於ケル檢事ノ命令ハ執行文ノ效力ヲ有ス

第十八條 同業組合若ハ同業組合聯合會ノ検査證ヲ營業品ニ偽リテ附シタル者又ハ偽造若ハ模造
ノ検査證ヲ營業品ニ附シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ
處ス

附則

第十九條 輸出ニ屬セサル物品ト雖同業者ニ於テ必要ト認ムルトキハ仍本法ヲ準用スルコトヲ得

重要輸出品同業組合法施行細則

(明治三十年九月農商務省令第十七號)

明治三十年法律第四十七號重要輸出品同業組合法施行細則左ノ通定ム

重要輸出品同業組合法施行細則

第一條 組合ノ名稱ニハ同業組合ナル文字ヲ附スヘシ

第二條 組合ノ地區ハ郡市以上ノ區域ニ依ルヲ通例トス

第三條 組合ノ設置ニ關スル事務ハ地方長官ノ認可ヲ得タル五名以上ノ發起人ニ於テ之ヲ處辦ス
ヘシ

重要輸出品同業組合法第十四條ニ依リ組合ノ設置ヲ命シタル場合ニ於テハ地方長官ハ創立委員
ヲ選定スヘシ

地方長官ハ發起人ヲ認可シ又ハ創立委員ヲ選定シタルトキハ其ノ氏名住所及組合ヲ組織スル營

業ノ種類並組合ノ地區ヲ管内ニ告示スヘシ

第四條 發起人ハ地方長官ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ組合創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ役員ヲ選舉シ左ノ書類ヲ添附シテ認可申請ノ手續ヲ爲スヘシ

一 組合ノ設置ヲ必要トスル理由

二 組合ノ目的トスル物品並其ノ最近五箇年間組合地區内ニ於ケル生産製造又ハ販賣ノ數量及價額

三 同業者五分ノ四以上ノ同意ヲ證明スヘキ書類

四 經費ノ概算並徵收法ノ見込

第五條 組合ノ設置ヲ命シタル場合ニ於テハ創立委員ハ直ニ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ役員ヲ選舉シ其認可ヲ申請スヘシ

第六條 組合創立總會ハ發起人又ハ創立委員ニ於テ其ノ期日ヲ定メ少ナクトモ十四日前ニ公告又ハ其他ノ方法ニ依リ地區内ノ同業者ニ通知シ且地方長官ニ届出ヘシ

組合創立總會ハ出席者三分ノ二以上ノ同意ニ依リ議決ヲ爲ス但創立總會ニ出席シ能ハサル者ハ同業者ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第七條 聯合會ノ設置ニ關スル事務ハ各組合ヨリ選出シタル委員ニ於テ之ヲ處辨スヘシ

第八條 組合又ハ聯合會ノ定款ニ掲グヘキ事項概テ左ノ如シ

一 名稱及其ノ事務所ノ位置

二 組合ヲ組織スル營業ノ種類及其ノ地區又ハ聯合會ヲ組織スル組合ノ名稱

三 目的及其ノ業務

四 加入及脱退ニ關スル規程

五 役員ノ資格權限及其ノ選舉ニ關スル規程

六 會議ニ關スル規程

七 會計ニ關スル規程

八 違約者處分ニ關スル規程

九 定款ノ變更ニ關スル規程

十 解散ニ關スル規程

十一 營業品ノ検査ヲ爲ストキハ其ノ規程

第九條 組合又ハ聯合會ノ役員認可申請書ニハ其ノ履歴書ヲ添附スヘシ

左ニ掲クル者ハ役員トシテ認可ヲ申請スルコトヲ得ス

一 地區内ニ於テ組合ヲ組織スル營業ニ從事シ一箇年ヲ經サル者

二 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪財產ニ對スル罪風俗ヲ害スル罪及信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免後二箇年ヲ經サル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ其ノ停止中ノ者

四 復權セサル破産者及家資分散者

第十條 組合又ハ聯合會經費ノ豫算並徵收法ノ認可申請書ハ創立ノ場合ヲ除クノ外毎會計年度ニ一箇月前ニ差出シ經費ノ決算貸借對照表及業務成績ハ毎會計年度後二箇月以内ニ報告スヘシ

第十一條 農商務大臣ニ差出スヘキ認可申請ニ關スル文書ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

商事終

第十七類 專賣特許意匠保護商標專用及版權

◎特許條例 (明治二十一年十二月勅令第八十四號)

朕特許條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
特許條例

第一條 新規有益ナル工術、機械、製造品及合成物ヲ發明シ又ハ工術、機械、製造品及合成物ノ新規有益ナル改良ヲ發明シタル者ハ此條例ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

特許トハ發明者ニ他人ヲシテ其承諾ヲ經スシテ前項ノ發明ヲ製作使用又ハ販賣セシメサル特權ヲ許スコトヲ謂フ

第二條 左ニ掲クル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

- 一 飲食物嗜好物
- 二 醫藥並其調合法

三 特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ但試験ノ爲メ公ニ知レタルコト二年以内ノモノハ此限ニ在ラス

第三條 特許ヲ受ケント欲スル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添へ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 特許ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其發明ヲ審査セシメ特許ヲ與フヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ特許原簿ニ登錄シ特許證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 特許證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 特許ノ年限ハ五年十年及十五年ノ三種ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條 公益ノ爲又普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若クハ祕密ヲ要スルモノト認メタル發明ニハ農商務大臣ハ特許ニ制限ヲ附シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若クハ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ相當ト認ムル報酬ヲ發明者又ハ特許證主ニ與フルモノトス

第八條 他人ノ特許發明ヲ改良シ其改良發明ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其特許證主ニ協議シ原發明ニ改良發明ヲ合セテ使用スルノ承諾ヲ經第三條ニ依リ出願スヘシ

特許證主其承諾ヲ拒ミタルトキハ其旨ヲ願書ニ記載シテ出願スルコトヲ得此場合ニ於テハ農商務大臣ハ原發明ヲ改良發明ニ合セテ使用スルノ特許ヲ改良發明者ニ與フルコトヲ得

改良發明者前項ノ特許ヲ受ケタルトキハ原特許證主ニ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ヲ與フル義務アルモノトス

第九條 特許ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 特許ヲ受ケタル發明ト雖トモ左ニ掲ケルモノハ其特許ヲ無効トス

一 新規又ハ有益ナラザリシコトヲ發見セラレタルモノ

二 第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ

三 發明ヲ實施スルニ必要ナル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セザリシコトヲ發見セラレタルモノ

四 發明ヲ實施スルニ必要ナラザル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セシコトヲ發見セラレタルモノ

第十一條 特許局審査官特許出願ノ發明ヲ審査シ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第十二條 前條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ

第十三條 特許局審査官特許出願ノ發明他人ノ特許出願中ノ發明ト牴觸シ又ハ他人ノ特許發明ト牴觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ牴觸ノ箇所ヲ關係人ニ告知シ其發明ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ

關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許局審査官ニ付シテ發明ノ先後ヲ審査セシメ其査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第十四條 前條ノ場合ニ於テ既ニ與ヘタル特許證ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキハ其特許年限ハ前特許證登錄ノ日ヨリ起算シ其年限ニ超ユルコトヲ得ス

第十五條 第十二條ノ再査定及第十三條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得第十六條 特許證主其權利ノ他特許證主ノ權利ト撞著スルコトヲ發見シタルトキハ其權利ヲ確定スル特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 特許ヲ受ケタル發明第十條ニ該ルコトヲ發見シタル者ハ其特許ヲ無効トスル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 二審判ヲ請求スル者アルトキハ特許局ニ於テ局長ハ審判長トナリ二人以上ノ審判官ト共

ニ之ヲ審判スヘシ

- 第十九條 特許局ノ審判ニ對シテハ不服ヲ申立又ハ裁判所ニ訴フルコトヲ得ス
- 第二十條 第十三條ノ審査及特許局ノ審判ニ關シ關係人ニ於テ證據ヲ要スルトキハ其請求ニ依リ特許局長ハ其集取ヲ「治安裁判所」ニ囑託スルコトヲ得
- 第三十一條 第十六條第十七條ニ係ル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス
- 第二十二條 特許ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣買讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受サル契約ハ第三者ニ對シ法律上其效ナキモノトス
- 第二十三條 特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ出願シ又ハ特許ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ特許ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス
- 第二十四條 特許ハ左ノ場合ニ於テ其效ヲ失フモノトス
 - 一 特許證主其相當ノ事故ナクシテ特許證日附ヨリ三年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セザルトキ
 - 二 特許證主相當ノ事故ナクシテ其發明ノ實施公行ヲ三年間中止シタルトキ
 - 三 特許證主其特許品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シ又ハ自己ノ權利ヲ侵スヘキ物品ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者アルコトヲ知リテ之ヲ默許シタルトキ
- 第二十五條 特許證主特許證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得
- 第二十六條 特許證主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ特許ノ效力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添へ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其發明ノ要部ニ變

更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 特許證主其明細書中ニ自己ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ自己ノ發明トシテ記載セシコトヲ發見シタルトキハ其削除ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 第二十六條第二十七條ニ依リ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ其願書ヲ特許局審査官ニ付シテ審査セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許局審査官ノ査定ニ服セサル者ハ第十二條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條 特許證主ハ其物品ニ農商務大臣ノ定メタル特許標記ヲ爲スヘシ

第三十條 特許ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 特許ヲ出願スルトキ 一發明毎ニ金五圓
- 二 (明治二十九年第二十七號ヲ以テ消滅)
- 三 特許證ノ再下付ヲ出願スルトキ 證書一枚毎ニ金一圓
- 四 特許證ノ改訂又ハ明細書中ノ削除ヲ出願スルトキ 一發明毎ニ金五圓
- 五 審判ヲ請求スルトキ 一事件毎ニ金七圓

第三十一條 (明治二十九年法律第二十七號ニ依リ全條消滅)

第三十二條 特許局ハ時時特許發明ノ明細書及特許公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第三十三條 特許ニ關スル書類ノ謄本又ハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第三十四條 特許ヲ侵シタル者ハ其特許證主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第三十五條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第三十六條 他人ノ特許品ヲ偽造シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知り偽造品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者又ハ他人ノ特許工術ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許證主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其輸入シタル物品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第三十七條 前條ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ特許證主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第三十八條 詐欺ノ所爲ヲ以テ特許證ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標記若クハ之ニ類似シタル標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知りテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第三十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ使用若クハ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第四十條 特許證主其特許品ニ第二十九條ノ特許標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要價ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條 被告人特許ノ無効タルコトヲ以テ答辯セント欲スルトキハ其旨ヲ裁判所ニ申告シ其日ヨリ三十日以内ニ特許局ニ第十七條ノ審判ヲ請求スヘシ此場合ニ於テ裁判所ハ特許局ノ審判

終結マテ其裁判ヲ中止スヘシ

第四十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十三條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四十四條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

第四十五條 明治十八年(四月)第七號布告專賣特許條例ハ此條例施行ノ日ヨリ廢止ス但專賣特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許ハ此條例ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ效アルモノトス
專賣特許出願ノ此條例施行ノ日ニ於テ處分ヲ終ラサルモノハ此條例ニ依リ處分ス

● 特許條例施行細則 (明治二十五年十一月農商務省令第十七號)

明治二十二年(一月)農商務省令第一號特許條例施行細則左ノ通改正シ明治二十五年十二月一日ヨリ施行ス

特許條例施行細則

第一章 總則

第一條 凡ソ特許局ニ差出ス書類ハ一事件毎ニ一通ヲ作り之ニ差出ノ年月日及ヒ差出人ノ氏名身分職業及ヒ住所ヲ記載シ明細書及ヒ圖面ニハ差出人ノ氏名ノミヲ記載シテ捺印スヘシ
審判請求書、始末書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辯書及ヒ訂正書ニハ正本ノ外關係人又ハ對手人ノ員數ニ應シ副本ヲ添フヘシ

第二條 書類ハ字體明瞭ニ認メ文字ヲ改竄スヘカラス若シ挿入削除又ハ欄外ヘ記入アルトキハ之ニ捺印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ字體ヲ存シ其數ヲ欄外ニ記載スヘシ

第三條 書類、圖面、雛形等ニ不完全又ハ不明瞭ノ廉アルトキ若クハ之ニ關シテ照會ヲ要スルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正改造若クハ回答ヲナサシムヘシ

第四條 差出人ニ於テ書類、圖面、雛形等ニ不完全又ハ不明瞭ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ其訂正若クハ改造ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ出願要部ニ變更ヲ生スルトキ又ハ特許局長(又ハ審判長)ニ於テ其必要ヲ認メタルトキハ之ヲ許可セス

第五條 審判請求書、始末書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辯書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ其訂正書ヲ關係人又ハ對手人ニ送付スヘシ

第六條 已ムヲ得サル事故ノ爲メニ此細則ニ定メタル期限内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲナシ難キトキハ其事由ヲ記載シ口頭審判ノ期日ニ係ルトキハ對手人ノ連署ヲ以テ期限内ニ延期請求書ヲ差出スヘシ

前項ノ請求ヲ相當ト認メタルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ更ニ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ差出人及關係人若クハ對手人ニ通知スヘシ(明治二十九年十一月農商務省令第八號ヲ以テ本項改正)

第七條 出願人此細則ニ定メタル期限又ハ特許局長(又ハ審判長)ノ定メタル期限内ニ成規若クハ指定ノ手續ヲ爲ササルトキハ其出願ヲ無効トス

審判請求書、始末書、延期請求書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辯書及ヒ訂正書ハ前項ノ期限内ニ差出スニアラザレハ之ヲ受理セス

第八條 審判請求書、始末書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辯書ニハ主張ノ事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添フヘシ

第九條 書類、圖面、雛形及ヒ見本ハ證據物トシテ差出シタルモノノ外其下戻ヲ求ムルコトヲ得

第十條 出願人、請求人、關係人又ハ對手人ニ於テ代人ヲ使用スルトキハ委任狀ヲ添ヘ其旨ヲ届出スヘシ

代人ヲ不適當ト認メタルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ農商務大臣ノ認可ヲ經更ニ代人ヲ選定セシムルコトヲ得

第十一條 特許年限ノ變更ハ特許ヲ與ヘタル後ニ於テ之ヲ許サス

第十二條 特許ノ登錄、改訂、取消、無效及ヒ削除其他特許ニ關スル必要ノ事項ハ特許局長ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經之ヲ官報及ヒ特許公報ニ公告スヘシ

第二章 特許出願

第十三條 特許願書ハ第一號乃至第三號書式ニ從ヒ之ヲ作り特許條例第三十號第一號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 出願人他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ特許證ヲ受ケントスルトキハ特許願書ニ其旨ヲ附記シ特許條例第八條ノ改良發明ニ係ルトキハ特許證主ノ承諾書若シ承諾ヲ得ル能ハサルトキハ其事由書ヲ添フヘシ

第十五條 特許願書ト同時ニ明細書又ハ圖面ヲ差出シ難キトキハ先ツ願書ノミヲ差出シ明細書圖面ハ願書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得

文字ヲ削除スルトキハ字體ヲ存シ其數ヲ欄外ニ記載スヘシ

第三條 書類、圖面、雛形等ニ不完全又ハ不明瞭ノ廉アルトキ若クハ之ニ關シテ照會ヲ要スルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正改造若クハ回答ヲナサシムヘシ

第四條 差出人ニ於テ書類、圖面、雛形等ニ不完全又ハ不明瞭ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ其訂正若クハ改造ヲ出願スルコトヲ得
前項ノ出願要部ニ變更ヲ生スルトキ又ハ特許局長(又ハ審判長)ニ於テ其必要ヲ認メタルトキハ之ヲ許可セス

第五條 審判請求書、始末書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辯書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ其訂正書ヲ關係人又ハ對手人ニ送付スヘシ

第六條 已ムヲ得サル事故ノ爲メニ此細則ニ定メタル期限内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲナシ難キトキハ其事由ヲ記載シ口頭審判ノ期日ニ係ルトキハ對手人ノ連署ヲ以テ期限内ニ延期請求書ヲ差出スヘシ

前項ノ請求ヲ相當ト認メタルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ更ニ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ差出人及關係人若クハ對手人ニ通知スヘシ(明治二十九年十一月農商務省令第八號ヲ以テ本項改正)

第七條 出願人此細則ニ定メタル期限又ハ特許局長(又ハ審判長)ノ定メタル期限内ニ成規若クハ指定ノ手續ヲ爲ササルトキハ其出願ヲ無効トス
審判請求書、始末書、延期請求書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辯書及ヒ訂正書ハ前項ノ期限内ニ差出スニアラサレハ之ヲ受理セス

第八條 審判請求書、始末書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辯書ニハ主張ノ事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添フヘシ

第九條 書類、圖面、雛形及ヒ見本ハ證據物トシテ差出シタルモノノ外其下戻ヲ求ムルコトヲ得ス

第十條 出願人、請求人、關係人又ハ對手人ニ於テ代人ヲ使用スルトキハ委任狀ヲ添ヘ其旨ヲ届出ツヘシ
代人ヲ不適當ト認メタルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ農商務大臣ノ認可ヲ經更ニ代人ヲ選定セシムルコトヲ得

第十一條 特許年限ノ變更ハ特許ヲ與ヘタル後ニ於テ之ヲ許サス
第十二條 特許ノ登録、改訂、取消、無效及ヒ削除其他特許ニ關スル必要ノ事項ハ特許局長ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經之ヲ官報及ヒ特許公報ニ公告スヘシ

第二章 特許出願

第十三條 特許願書ハ第一號乃至第三號書式ニ從ヒ之ヲ作り特許條例第三十號第一號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 出願人他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ特許證ヲ受ゲントスルトキハ特許願書ニ其旨ヲ附記シ特許條例第八條ノ改良發明ニ係ルトキハ特許證主ノ承諾書若シ承諾ヲ得ル能ハサルトキハ其事由書ヲ添フヘシ

第十五條 特許願書ト同時ニ明細書又ハ圖面ヲ差出シ難キトキハ先ツ願書ノミヲ差出シ明細書圖面ハ願書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得

願書ニ後レテ明細書又ハ圖面ヲ差出ストキハ何年何月何日附何發明ノ願書ニ添フヘキモノナル
ルコトヲ記載シタル書面ヲ添フヘシ

第十六條 特許願書及ヒ明細書、圖面ノ完備シタルトキハ特許局長ハ願書ニ順號ヲ附シ其順號ヲ
出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル後出願ニ關シ差出ス書類ニハ願書ノ順號ヲ記載スヘシ

第十七條 特許願書ヲ差出シタル後他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ特許證ヲ受ケントスル者ハ特
許原簿登錄以前ニ其旨ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ若シ其出願原簿登錄ノ後ニ係ルトキハ受
理セズ

第三章 明細書、圖面、雛形及ヒ見本

第十八條 明細書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一 發明ノ名稱

發明ノ性質及ヒ目的ニ從ヒ其種類ヲ表示スルニ足ルヘキ普通ノ名稱ヲ附スルヲ要ス

二 發明ノ性質及ヒ目的ノ要領

發明ノ構成作用及ヒ結果ヲ簡單ニ説明スルヲ要ス

三 圖面アルトキハ其略解

圖面ノ位置視點及ヒ符號ヲ以テ示シタル部分ヲ明記スルヲ要ス

四 發明ノ詳細ナル説明

普通ノ知能ヲ以テ發明ヲ實施スルニ妨ケナカラシムル爲メ發明及ヒ其實施ニ必要ナル事項
ヲ詳細ニ圖面アルトキハ之ニ對照シテ説明シ併セテ請求區域ニ用ユヘキ文字意義ヲ明確ニ

記載スルヲ要ス

五 改良發明ニ係ルトキハ其原發明トノ關係

原發明ト改良發明トノ區別、二者結合ノ要點及ヒ二者相須テ生スヘキ作用ヲ明確ニ記載ス
ルヲ要ス

六 特許ノ請求區域

發明ヲ構成スルニ關クヘカラサル事項ノミヲ明確ニ記載スルヲ要ス

第十九條 明細書中請求區域ヲ數項ニ分載スルハ左ノ場合ニ限ルヘシ

一 特許ノ權利ノ範圍ヲ明示スル爲メ發明ヲ構成スル新規ナル部分ヲ各別ニ記載スルトキ

二 特許權利ノ存スル所ヲ明確ナラシムル爲メ同一發明又ハ發明ヲ構成スル新規ナル部分ヲ數
種ニ記載スルトキ

第二十條 圖面ニハ發明ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル部分ヲ示シ改良發明ニ係ルトキハ更ニ原發
明ト改良發明トノ關係ヲ示スヘシ

第二十一條 雛形及ヒ見本ハ發明ニ必要ナル部分ノミニ付キ金屬又ハ木材等ヲ用ヒ堅牢ニ之ヲ造
リ其長サ幅及ヒ高サハ曲尺一尺以内トシ破損若クハ變化ヲ來スヘキモノハ差出人ニ於テ相當ノ
手當ヲナスヘシ但特許出願ノ發明物質ニ係ルトキ又ハ特許局長ノ認可ヲ經若クハ特ニ徵收シタ
場合ハ此限ニアラス

第二十二條 特許證主ハ特許局長ノ指圖ニ從ヒ陳列用ノ爲メ其發明ノ雛形又ハ見本ヲ差出スヘシ

第二十三條 雛形又ハ見本ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差
出人通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲササルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ

雛形又ハ見本ヲ亡失毀損スルモ特許局ハ辨償ノ責ニ任セス

第四章 審査

第二十四條 審査ハ左ニ記載スル願書ノ外發明ノ種類ニ依リ願書ノ順號ニ從テ之ニ著手スヘシ

一 特許條例第七條ニ該當スル特許願書

二 同條例第二十六條ノ改訂願書

三 同條例第二十七條ノ削除願書

第二十五條 左ニ記載スルモノハ新規有益ノ發明トナスコトヲ得ス

一 發明以前公ニ知ラレタルモノ

二 特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ但特許ニ依リ公ニ用ヒタルモノハ新規ナルコトヲ妨ケス

三 發明ノ目的ニ於テ新ナル好結果ヲ生シ得ヘカラサルモノ

第二十六條 左ニ記載スル出願ハ其發明、新規有益ナルモ特許ヲ與フヘカラサルモノトス

一 特許條例第二條第一號又ハ第二號ニ該當スルモノト認ムル出願

二 特許條例第十條第三號又ハ第四號ノ事實アルモノト認ムル出願

第二十七條 改良發明トシテ特許ヲ與フルハ特許發明ノ請求區域ヲ利用シテ更ニ發明ヲ加ヘ同一目的ニ於テ好結果ヲ生スヘキモノニ限ル

第二十八條 審査上發明ノ雛形若クハ見本ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ之ヲ差出サシムヘシ

第二十九條 審査上發明ノ試験ヲ必要トスルトキハ特許局長ハ相當ノ期限ヲ定メ出願人ヲシテ其

試験ヲナサシムルコトヲ得

第三十條 特許ヲ拒絶スル査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一 願書ノ順號

二 發明ノ名稱

三 出願人及ヒ其代人ノ氏名身分職業及ヒ住所

四 特許請求ノ要領再査定ニ係ルトキハ不服理由ノ要領

五 拒絶ノ理由

明細書ニ對照シ正確ナル證據ニ基キ適切ニ且明確ニ記載スヘシ若シ第十九條ニ依リ請求區域ヲ二項已上ニ分載シタルトキハ各項ニ付キ別別ニ其理由ヲ記載スルヲ要ス

再査定ニ係ルトキハ不服ノ理由ヲ反駁シ初査定ノ理由ヲ敷衍辯明スルヲ要ス

六 査定本文

七 年月日(明治二十六年農商務省令第二號ヲ以テ第七號ヲ削除シ第八號ヲ繰上ク)

第三十一條 再審査ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ不服理由書ヲ作り査定書ノ日附ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

一 願書ノ順號

二 發明ノ名稱

三 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所

四 不服ノ要旨

五 專業上ノ辯論

明細書ニ對照シ拒絕ノ理由ヲ反駁スルニ止ムルヲ...

六 專業上主張ノ證明

七 出願人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
八 年月日

第三十二條 不服理由書中拒絕ノ理由ヲ反駁セス又ハ單ニ明細書ニ記載セサル事項ニ基キ不服ヲ申立ツルトキハ不服理由書ヲ差出ササルモノト見做スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ特許局長ハ其事由ヲ出願人ニ通知スヘシ

第三十三條 不服理由書ニ對シ初査定書ニ示シタル理由ニ依ラス更ニ他ノ理由ニ依リ拒絕査定ヲナストキハ其査定ヲ以テ初査定トナシ前査定ヲ取消スヘキモノトス
前項ノ場合ニ於テハ特許局長ハ其事由ヲ出願人ニ通知スヘシ

第三十四條 特許條例第十五條ニ依リ審判ヲ請求シタル場合ニ於テ拒絕ノ理由ヲ不當ナリトスル審決アリタルトキハ特許局長更ニ審査ノ手續ヲナスヘシ
前項ニ依リ審査ヲナストキハ再ヒ同一ノ理由ヲ以テ其特許ヲ拒絕スル査定ヲナスコトヲ得ス

第五章 牴觸

第三十五條 發明ノ牴觸ハ左ノ區別ニ依リ特許ノ請求區域ニ同一ノ項目アルトキニ限り生スルモノトス但第十九條ニ依リ明細書ニ分載セサル部分及ヒ第六十條ニ依リ權利ノ放棄ト見做スヘキ部分ニ付テハ牴觸ヲ生セス

一 二箇以上ノ特許出願ニ係ル發明

二 特許出願ニ依ル發明及ヒ特許發明又ハ改訂出願ニ係ル發明

三 二箇以上ノ改訂出願ニ係ル發明

四 改訂出願ニ係ル發明及ヒ特許發明

第三十六條 牴觸ノ審査ハ牴觸ニ係ル發明ヲ特許スヘキモノト審査シタル後之ニ著手スヘシ
牴觸ノ審査終了已前審査官ニ於テ牴觸事項ノ發明ニアラサルコトヲ發見シタルトキハ牴觸ノ審査ヲ中止ス

第三十七條 特許出願ニ係ル發明ノ請求區域ニシテ單ニ第十九條ニ依リ分載セサル爲メ他ノ特許出願ニ係ル發明ノ請求區域ト牴觸セサル場合ニ於テハ特許局長ハ出願人ニ其旨ヲ照會シテ明細書ヲ訂正スルト否トヲ回答セシムヘシ

第三十八條 牴觸ノ告知書ハ牴觸ノ部分ヲ明示シタル理由書ト共ニ之ヲ關係人ニ送付スヘシ
關係人前項ノ告知書及ヒ理由書ヲ受取りタルトキハ六十日以内ニ其發明ニ關スル始末書ヲ差出スヘシ此期間内ニ差出ササルトキハ其發明ヲ特許願書ノ日附ヨリ已前ニ完成シタル旨ヲ以テ發明ノ先後ヲ爭フコトヲ得ス

第三十九條 關係人、始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ他ノ關係人ニ送付シ三十日以内ニ答辯書ヲ差出サシムヘシ

關係人、答辯書ヲ差出シタル後審査上關係人ノ一方又ハ雙方ヲシテ尙ホ答辯ヲナサシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ亦前項ノ手續ヲナスヘシ

第四十條 發明ノ特許ヲ解除セントスル者ハ特許ノ審査終了已前ニ其牴觸ニ係ル特許又ハ願書ノ取消若クハ發明ノ牴觸部分ノ削除ヲ請求スヘシ
前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其牴觸ヲ解除シ其旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

第四十一條 始末書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

- 一 牴觸ノ番號
- 二 牴觸發明ノ名稱
- 三 關係人及ヒ其代人ノ氏名、身分職業及ヒ住所
- 四 事業上ノ陳述
發明ヲ考案完成シタル事實、年月日及ヒ其發明ヲ圖面、雛形又ハ見本ニ作リタル事實年月日ヲ明確ニ記載スルヲ要ス
- 五 事實上主張ノ證明
- 六 差出人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
- 七 年月日

第四十二條 牴觸ニ關スル答辯書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

- 一 牴觸ノ番號
- 二 牴觸發明ノ名稱
- 三 關係人及其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 四 答辯ノ要旨
- 五 事實上ノ辯論
- 六 事實上主張ノ證明又ハ對手人ノ申出テタル證據方法ニ對スル陳述
- 七 差出人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
- 八 年月日

第四十三條 牴觸ノ査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

- 一 牴觸ノ番號
- 二 牴觸發明ノ名稱
- 三 關係人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 四 關係人ノ陳述ノ要領
- 五 査定ノ理由
正確ナル證據ニ基キ適切ニ且明確ニ記載スルヲ要ス
- 六 査定主文
- 七 年月日(明治二十六年農商務省令第二號ヲ以テ第七號ヲ削リ第八號ヲ繰上ク)

第六章 審判

第四十四條 審判ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ請求書ヲ作り特許條例第三十條

第五號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ再査定書又ハ牴觸査定書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ但特許局審査官ハ被請求人トシテ記載スルノ限ニアラス(同上法令ヲ以テ但書追加)

- 一 請求人被請求人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 二 係争事件ノ表示
- 三 請求ノ要旨
- 四 事實上若クハ法律上ノ辯論
- 五 事實上主張ノ證明

六 請求人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
七 年月日

第四十五條 審判請求書ヲ差出シタル者アルトキハ審判長ハ其請求書ヲ對手人ニ送付シ三十日以内ニ答辯書ヲ差出サシムヘシ

對手人答辯書ヲ差出シタル後尙ホ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ答辯ナサシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ審判長ハ亦前項ノ手續ヲナスヘシ

第四十六條 答辯書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ但特許局審査官ハ被請求人トシテ記載スルノ限ニアラス(同上)

- 一 審判ノ番號
- 二 請求人被請求人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 三 係争事件ノ表示
- 四 答辯ノ要旨
- 五 事實上若クハ法律上ノ辯論
- 六 事實上主張ノ證明又ハ對手人ノ申出テタル證據方法ニ對スル陳述
- 七 請求人若クハ被請求人又ハ其代人ノ署名及捺印
- 八 年月日

第四十七條 審判ヲ請求シタル者其請求ヲ取消サントスルトキハ審判終結前ニ其旨ヲ申出ツヘシ前項ノ申出アリタルトキハ審判長ハ其旨ヲ對手人ニ通知スヘシ

第四十八條 對手人答辯書ヲ差出シタル後審判ノ請求ヲ取消シタル者ハ審判入費ヲ負擔スヘシ但

對手人ノ承諾ヲ經テ取消シタル者ハ此限ニアラス

第四十九條 審判ハ書類及ヒ口頭ノ二種トス

第五十條 口頭審判ハ請求人及ヒ被請求人雙方ニ於テ請求シ若クハ審判長ニ於テ必要ト認メタルトキ公開シテ之ヲナス

第五十一條 口頭審判ヲナスキハ審判長ハ其期日ヲ定メ之ヲ請求人被請求人ニ通知スヘシ

第五十二條 請求人若クハ被請求人成規又ハ指定ノ期限内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ辯論終結ト視做シ第五十一條ノ通知ヲ受ケ其期日ニ出頭セサルトキハ開席ノ儘審判ヲ終結スルコトヲ得

第五十三條 實判ヲ終結シタルトキハ審判長ハ其審決書ノ謄本ヲ作り之ニ局印ヲ捺シ請求人及ヒ被請求人ニ送付スヘシ口頭審判ノ場合ニ於テハ尙ホ之ヲ言渡スヘキモノトス

第五十四條 審決書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ但特許局審査官ハ被請求人トシテ記載スルノ限ニアラス(同上)

- 一 審判ノ番號
- 二 請求人被請求人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 三 請求人及ヒ被請求人ノ陳述ノ要領
- 四 審決ノ理由
- 五 明細書ニ對照シ査定書アルトキハ其査定書ニ對照シテ適切ニ且ツ明確ニ記載スルヲ要ス
- 六 審決主文
- 七 審判ヲナシタル審判官ノ官氏名
- 七 年月日

第七章 特許

第五十五條 特許條例第四條ニ依リ特許ヲ與フヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經其旨ヲ記載シタル通知書ニ「特許料」納付用紙ヲ添ヘ出願人ニ送付スヘシ
出願人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ「特許料」納付用紙ニ「特許條例第三十一條ノ特許料金額ニ相當スル」登記印紙ヲ貼用シ明細書及ヒ圖面各二通ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ

第五十六條 出願人「特許料」ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ納付ノ日ヲ以テ其發明ヲ特許原簿ニ登錄シ同時ニ其旨ヲ出願人ニ通知シテ三十日以内ニ特許證ヲ送付スヘシ
前項「特許料」ノ納付、執務時間ノ最後一時間若クハ其以後又ハ休日ニ係ルトキハ次ノ執務日ニ納付シタルモノト見做スヘシ

第五十七條 特許條例第八條第二項ノ場合ニ於テ特許證主ノ承諾ヲ經ル能ハスシテ出願シタル者ニ特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許證主ニ通知シ報酬ニ付キ協議ヲナサシムヘシ
前項ノ協議整ハサルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ相當ト認メタル報酬ノ種類、數額、方法等ヲ特許通知ト同時ニ出願人ニ通知シ又特許原簿ノ登錄ト同時ニ之ヲ特許證主ニ通知スヘシ

第五十八條 特許證ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製シ特許原簿登錄ノ日ヲ以テ其日附トナス
第五十九條 特許證主ハ特許條例第二十九條ニ依リ特許品又ハ其上包等ニ特許ノ二字特許證ノ日附及ヒ特許ノ年限ヲ標記スヘシ

第六十條 特許證主第十九條ニ依リ記載シタル部分ニ屬スルモノヲ分離シテ販賣シタルトキハ其部分ニ對スル權利ヲ放棄シタルモノト見做スヘシ

第六十一條 特許ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ特許證主氏名住所ヲ變更シタルトキ及ヒ改印シタルトキハ本人ヨリ速ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第八章 賣與、讓與、共有及ヒ書入

第六十二條 特許條例第二十二條ニ依リ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ受ケントスル者ハ第五號若クハ第六號書式ニ從ヒ請求書ヲ作り「特許條例第三十條第二號ノ手数料金額ニ相當スル」登記印紙ヲ貼用シ契約書正副二通及ヒ特許證ヲ添ヘテ差出スヘシ
前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ登錄シ契約書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シ特許證ニ裏書ノ上契約書ト共ニ請求人ニ返付スヘシ

第六十三條 賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ受ケタル者ニシテ後日其契約ヲ解除シタルトキハ關係人ノ連署ヲ以テ其旨ヲ記載シタル届書ニ特許證ヲ添ヘテ差出スヘシ
前項ノ届出アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ附記シ特許證ニ裏書ノ上之ヲ特許證主ニ返付スヘシ

第六十四條 共有ニ屬スル特許ヲ賣與、讓與、共有又ハ書入トナサントスルトキハ他ノ共有ノ承諾ヲ經ルニアラザレハ其登錄ヲナササルヘシ

第九章 再下附願

第六十五條 特許條例第二十五條ニ依ル再下付願書ハ第七條書式ニ從ヒ之ヲ作り同條例第三十條第三號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第六十六條 第六十五條ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ其事由及ヒ下付ノ年月日ヲ裏書シタル特許證ヲ下付スヘシ

第十章 改訂及削除願

- 第六十七條 特許條例第二十六條ニ依ル特許證書ノ改訂願ハ左ノ場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルモノトス
 - 一 特許權利ニ關係ナキ說明又ハ圖面ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキ
 - 二 請求區域ノ意義ヲ變更スルコトナクシテ之ヲ明確ナラシムヘキ必要アルコトヲ發見シタルトキ
 - 三 過テ自己ノ發明ニ係レル範圍ヲ超過シテ特許權利ノ範圍トナシタルコトヲ發見シタルトキ
 - 四 特許權利ノ範圍ヲ擴張スルコトナク一箇ノ特許證書ヲ分離シテ數箇ノ特許證書トナスコトヲ必要トスルトキ
- 第六十八條 改訂願書ハ第八號書式ニ從ヒ之ヲ作り特許條例第三十條第四號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ改訂明細書若クハ改訂圖面ヲ添ヘ現特許證及ヒ附屬ノ明細書、圖面ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ第五十五條及ヒ第五十六條ノ手續ニ來リ其旨ヲ特許原簿ニ附記シ改訂特許證書ヲ送付スヘシ
- 第六十九條 改訂特許證書ハ第九號書式ニ依リ之ヲ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附トナス
- 第七十條 特許條例第二十七條ニ依ル明細書ノ削除願ハ第十九條ニ從ヒ分載シタル請求區域ノ項目ヲ刪滅シ特許權利ノ範圍ヲ一部放棄セントスル場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルモノトス
- 第七十一條 削除願書ハ第十號書式ニ從ヒ之ヲ作り特許條例第三十條第四號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ特許證書ヲ添ヘ差出ヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許原簿ニ附記シ特許證書ニ裏書ノ上之ヲ出願人ニ返付スヘシ
(書式略之)

◎意匠條例 (明治二十一年十二月勅令第八十五號)

朕意匠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

意匠條例

- 第一條 工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀模樣若クハ色彩ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者ハ此條例ニ依リ其意匠ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得
- 第二條 左ニ掲クル意匠ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス
 - 一 風俗ヲ害スヘキモノ
 - 二 登録出願以前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノ
- 第三條 意匠ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一意匠毎ニ明細書及圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ
- 第四條 意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其意匠ヲ審査セシメ登録ヲ許スヘシト査定シタル者ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ意匠原簿ニ登録シ登録證下付ノ手續ヲ爲ヘシ
- 第五條 登録證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 意匠専用ノ年限ハ三年五年七年及十年ノ四種ト爲シ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

第七條 意匠専用ハ農商務大臣ノ定ムル物品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル物品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登録ス其日附同シキモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス但出願人協議ノ上連名ニテ其登録ヲ出願スルトキ又ハ其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條 意匠ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ノ登録出願ノ權利ハ其委託者若クハ雇主ニ屬ス但別ニ契約アル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第十一條 登録ヲ受ケタル意匠ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條第十條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十二條 意匠ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十三條 意匠専用權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受ケヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其效ナキモノトス

第十四條 特許局ノ官吏ハ在職中意匠ノ登録ヲ出願シ又ハ意匠専用權ヲ新ニ有スルコトヲ得ズ但相續ニ由リ意匠専用權ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第十五條 登録意匠主其登録證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下附ヲ出願スルコトヲ得

第十六條 登録意匠主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ效力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其意匠ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條 登録意匠主ハ其意匠ヲ應用シタル物品ニ農商務大臣ノ定メタル登録標記ヲ爲スヘシ

第十八條 意匠ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ
一 意匠ノ登録ヲ出願スルトキ 金五十錢

二 (明治二十九年法律第二十七號ノ爲メ消滅ニ歸セリ)
三 登録證ノ再下付ヲ出願スルトキ 金一圓

四 登録證ノ改訂ヲ出願スルトキ 金二圓

五 審判ヲ請求スルトキ 金七圓

一事件毎ニ

第十九條 (同上)

第二十條 登録意匠ニ關スル書類ノ謄本若クハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十一條 登録意匠ノ専用權ヲ侵シタル者ハ其意匠主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條 他人ノ登録意匠ナルコトヲ知り之ヲ同一物品ニ應用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

登録意匠主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

詐欺ノ所爲ヲ以テ登録證ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ニ登録標記若クハ類似ノ標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰第一項ニ同シ

第二十四條 前條第一項第二項ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ登録意匠主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第二十五條 第二十三條第一項第二項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條 登録意匠主第十七條ノ登録標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要價ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十九條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

◎ 意匠條例施行細則 (明治二十五年十一月農商務省令第十八號)

明治二十二年農商務省令第二號意匠條例施行細則左ノ通改正シ明治二十五年十二月一日ヨリ施行ス

意匠條例施行細則

第一章 總則

第一條 特許條例施行細則第一條乃至第十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス

第二條 意匠專用年限ノ變更ハ意匠原簿ニ登録ノ後ニ於テ之ヲ許サス

第三條 意匠ノ登録、改訂、取消及ヒ無效其他意匠ニ關スル必要ノ事項ハ特許局長ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經之ヲ官報及ヒ特許公報ニ公告スヘシ

第二章 登録出願

第四條 登録願書ハ第一號乃至第三號書式ニ依リ第三十六條ノ物品類別ニ從ヒ一類毎ニ之ヲ作り意匠條例第十八條第一號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第五條 出願人他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ登録ヲ受ケントスルトキハ登録願書ニ其旨ヲ附記スヘシ

第六條 登録願書及ヒ明細書圖面見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ願書ニ順號ヲ附シ其順號ヲ出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ差出ス書類ニハ願書ノ順號ヲ記載スヘシ

第七條 登録願書ヲ差出シタル後他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ登録ヲ受ケントスル者ハ意匠原

簿登錄以前ニ其旨ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ若シ其出願原簿登錄ノ後ニ係ルトキハ受理セ
ス

第三章 明細書、圖面、雛形及ヒ見本

第八條 明細書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作り圖面ニ通テ添フヘシ
一 意匠ノ名稱

意匠ノ性質及ヒ其意匠ヲ應用スル物品ノ種類ニ從ヒ普通ノ名稱ヲ附スルヲ要ス
二 意匠ヲ應用スル物品ノ類別及ヒ名稱

第三十六條ノ物品類別ニ從ヒ其物品ノ名稱ヲ要ス
三 意匠ノ詳細ナル説明

形狀ノ意匠ニ付テハ全部及ヒ各部ノ形狀模樣ノ意匠ニ付テハ全部及ヒ各部ノ圖樣位置、
色彩ノ意匠ニ付テハ色彩ヲ施スヘキ圖樣色名及ヒ其配色ノ位置各圖面ニ對照シテ說明
シ其意匠故實ニ基クルトキハ故實ノ概要ヲ記述シ併セテ請求區域ニ用ユヘキ文字ノ意義
ヲ明確ニスルヲ要ス

四 專用權請求ノ區域

第九條 意匠ヲ構成スルニ關クヘカラサル事項ノミヲ明確ニ記載スルヲ要ス

第九條 明細書中請求區域ヲ數項ニ分載スルハ意匠專用權ノ範圍ヲ明示スル爲メ意匠ヲ構成スル
新規ナル部分ヲ各別ニ記載スル場合ニ限ルヘシ

第十條 圖面ニハ意匠ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル部分ヲ示スヘシ
寫真ニ依テ其意匠ヲ示スコトヲ得ルトキハ塗紙ヲ附セサルモノニ限リ圖面ニ代用スルコトヲ得

第十一條 雛形及ヒ見本ハ意匠ニ必要ナル部分ノミニ付キ之ヲ造リ其長サ幅及ヒ高サハ曲尺一尺
以內トシ破損若クハ變化ヲ來スヘキモノハ差出人ニ於テ相當ノ手當ヲナスヘシ
但特許局長ノ認可ヲ經又ハ特ニ徵收シタル場合ハ此限ニアラス

第十二條 登錄意匠主ハ特許局長ノ指圖ニ從ヒ陳列用ノ爲其意匠ノ雛形又ハ見本ヲ差出スヘシ

第十三條 雛形又ハ見本ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ
差出人通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲササルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ
雛形又ハ見本ヲ亡失毀損スルモ特許局長ハ辨償ノ責ニ任セス

第四章 審査

第十四條 審査ハ意匠條例第十六條ノ改訂願書ノ外願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經過シタル後願書日
附ノ順序ニ從ヒ日附相同シキモノハ願書ノ順號ニ從ヒ之ニ著手スヘシ

第十五條 左ニ記載スルモノハ新規ノ意匠トナスコトヲ得ス

- 一 意匠條例第二條第二號ニ該當スルモノ又ハ之ニ類似スルモノ
- 二 公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレスト雖モ己ニ他人ニ於テ登錄ヲ出願シ其權利ヲ拋棄シタル意
匠下同一若クハ之ニ類似スルモノ

第十六條 左ニ記載スル意匠新規ナルモ登錄ヲ許スヘカラサルモノトス

- 一 皇室ノ御紋章ト同一又ハ之ニ類似スルモノト認ムヘキ圖形ヲ使用シタル意匠
- 二 意匠條例第二條第一號ニ該當スル意匠
- 三 意匠條例第八ニ該當スル登錄出願ノ意匠ニシテ願書日附ノ後ナルモノ又ハ其日附ノ相同
シキモノ

- 四 工業上ノ物品ニ應用セサル意匠
- 五 形狀模倣若クハ色彩ヲ主トセサル意匠
- 六 商品ノ目印タルニ止マル意匠

第十七條 登錄ヲ拒絕スル査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

- 一 願書ノ順號
- 二 意匠ノ名稱
- 三 意匠ヲ應用スル物品ノ類別及ヒ名稱
- 四 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 五 登錄請求ノ要領再査定ニ係ルトキハ不服理由ノ要領
- 六 拒絕ノ理由

明細書及ヒ雛形見本ニ對照シ適切ニ且明確ニ記載シ若シ第九條ニ依リ請求區域ヲ二項以上ニ分載シタルトキハ各項ニ付キニ別別ニ記載スルヲ要ス

再査定ニ係ルトキハ不服ノ理由ヲ反駁シ初査定ノ理由ヲ敷衍辯明スルヲ要ス

七 査定主文

八 年月日(明治二十六年農商務省令第三號ヲ以テ第八號ヲ削リ第九號ヲ繰上ク)

第十八條 再審査ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ不服理由書ヲ作り査定書ノ日附ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

- 一 願書ノ順號
- 二 意匠ノ名稱

- 三 意匠ヲ應用スル物品ノ類別及名稱
- 四 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及住所
- 五 不服ノ要旨
- 六 事實上ノ辨論
- 七 事實上主張ノ證明
- 八 出願人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
- 九 年月日

第十九條 特許條例施行細則第三十八條第三十二條乃至第三十四條ハ意匠ノ審査ニ關シテモ之ヲ適用ス(明治二十九年十一月農商務省令第八號ヲ以テ第十九條ヲ削リテ以下順次ニ之ヲ繰上ク)

第五章 審判

第二十條 特許條例施行細則第四十四條乃至第五十四條ハ意匠ノ審判ニ關シテモ之ヲ適用ス但審判請求書ニハ意匠條例第十八條第五號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第六章 登錄

第二十一條 意匠條例第四條ニ依リ登錄ヲ許スヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經其旨ヲ記載シタル通知書ニ登錄料納付用紙ヲ添へ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ登錄料納付用紙ニ「意匠條例第十九條ノ登錄料金額ニ相當スル」登記印紙ヲ貼用シ明細書及ヒ圖面各二通ヲ添へ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出ス

ヘシ

第二十二條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ納付ノ日ヲ以テ意匠原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シテ十五日以内ニ意匠登録證ヲ送付スヘシ
前項登録料ノ納付執務時間ノ最後一時間若クハ其以後又ハ休日ニ係ルトキハ次ノ執務ニ納付シタルモノト見做スヘシ

第二十三條 意匠登録證ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製シ意匠原簿ノ日ヲ以テ其日附トナス

第二十四條 登録意匠主ハ意匠條例第十七條ニ依リ其意匠ヲ應用シタル物品又ハ其上包等ニ登録意匠ノ四字意匠登録證ノ日附及ヒ專用ノ年限ヲ標記スヘシ

第二十五條 登録意匠主第九條ニ依リ記載シタル部分ニ屬スルモノヲ分離シテ應用シタル物品ヲ販賣シタルトキハ其部分ニ對スル權利ヲ放棄シタルモノト見做スヘシ

第二十六條 意匠ノ專用權ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ登録意匠主氏名住所ヲ變換シタルトキ及ヒ改印シタルトキハ本人ヨリ速ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第七章 賣與、讓與、共有及ヒ書入

第二十七條 意匠條例第十三條ニ依リ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登録ヲ受ケントスル者ハ第五號若クハ第六號書式ニ從ヒ請求書ヲ作り「同條例第十八條第二號ノ手数料金額ニ相當スル」登記印紙ヲ貼用シ契約書正副二通及ヒ意匠登録證ヲ添ヘテ差出スヘシ
前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ登録シ契約書ニ登録濟ノ證明ヲ捺シ

意匠登録證ニ裏書ノ上契約書ト共ニ請求人ニ返付スヘシ

第二十八條 賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登録ヲ受ケタル者ニシテ後日其契約ヲ解除シタルトキ

ハ關係人ノ連署ヲ以テ其旨ヲ記載シタル届書ニ意匠登録證ヲ添ヘ差出スヘシ
前項ノ届出アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ附記シ意匠登録證ニ裏書ノ上之ヲ登録意匠主ニ返付スヘシ

第二十九條 共有ニ屬スル意匠ノ專用權ヲ賣與、讓與、共有又ハ書入トナサントスルトキハ他ノ共有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ其登録ヲナササルヘシ

第八章 再下付願

第三十條 意匠條例第十五條ニ依リ再下付願書ハ第七號書式ニ從ヒ之ヲ作り同條例第十八條第三號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第三十一條 第三十一條ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ其事由及ヒ下付ノ年月日ヲ裏書シタル意匠登録證ヲ下付スヘシ

第九章 改訂願

第三十二條 意匠條例第十六條ニ依リ意匠登録證ノ改訂願ハ左ノ場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルモノトス

- 一 明細書ノ説明ト圖面ト符合セサルコトヲ發見シタルトキ
- 二 請求區域ノ意義ヲ變更スルコトヲクシテ之ヲ明確ナラシムヘキ必要アルコトヲ發見シタルトキ
- 三 適テ自己ノ案出ニ係レル範圍ヲ超過シテ意匠專用權ノ範圍トナシタルコトヲ發見シタルトキ

第三十三條 改訂願書ハ第八號書式ニ從ヒ之ヲ作り意匠條例第十八條第四號ノ手数料金額ニ相當

スル登記印紙ヲ貼用シ改訂明細書一通若クハ改訂圖面二通ヲ添へ現意匠登録證及ヒ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ第二十二條及ヒ第二十三條ノ手續ニ依リ其旨ヲ意匠原簿ニ附記シ改訂意匠登録證ヲ送付スヘシ

第三十四條 改訂意匠登録證ハ第九號書式ニ依リ之ヲ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附トナス

第十章 物品類別

第三十五條 意匠條例第七條ノ物品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類 衣服

衣、裳、外套、襖衣、帶、領、領飾、領卷、肩掛等

第二類 頭飾、服飾、帽子

櫛、簪、根掛、胸飾、腕環、指環、釦鈕、帽子等

第三類 時計及ヒ其附屬品

袂時計、置時計、掛時計、鎖、下ケ物等

第四類 傘、杖及ヒ履物類

傘、杖、下駄、草履、靴等

第五類 携帶品

烟具、扇、懷中物、手提等

第六類 家具

棚、箆筥、机、椅子、卓子、寢臺等

第七類 數物

段通、油圓、花筵其他各種ノ數物

第八類 煖爐及ヒ其附屬品

火鉢、煖爐、烟草盆、炭取、石炭入、火箸等

第九類 點燈器

行燈、燭臺、手燭、燈籠、「ランプ」、瓦斯燈、電氣燈等

第十類 建築附屬品

障、戸、扉、柵、欄間、欄干等

第十一類 織物及ヒ他類ニ屬セサル織物製品

絹、綿、麻、毛織物、服紗、手巾、襪掛、卓被等

第十二類 他類ニ屬セサル編物、組物

「レース」、打紐、飾縁等

第十三類 他類ニ屬セサル漆器(假漆塗、油漆塗モ之ニ屬ス)

飲食器、手箱、香合等

第十四類 他類ニ屬セサル陶器(煉火石、瓦等モ之ニ屬ス)

飲食器、花瓶、香爐等

第十五類 他類ニ屬セサル玻璃

飲食器、紋様玻璃等

第十六類 他類ニ屬セサル七寶

花瓶、香爐、手箱、香合等

第十七類 他類ニ屬セサル金屬製品

貴金屬、賤金屬及ヒ合金ノ製品

第十八類 他類ニ屬セサル石材製品

寶石其他石類ノ製品

第十九類 他類ニ屬セサル木、竹、牙、角類製品

盆、箱、花臺、籃、籠、簾、柱聯、茶托、箸、硯、屏、墨臺、筆筒等

第二十類 紙及ヒ他類ニ屬セサル紙製品

紋紙、擬草紙、襖紙、表紙、壁紙、色紙、短冊、紙箋、書簡、筒、文匣、一閑張

第二十一類 皮革及ヒ他類ニ屬セサル皮革製品

紋革、文匣、馬具等

第二十二類 他類ニ屬セサル物品

(書式略之)

商標條例 (明治二十一年十二月勅令第八十六號)

朕商標條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商標條例

第一條 自己ノ商品ヲ表彰スル爲メ商標ヲ使用セント欲スル者ハ此條例ニ依リ其商標ノ登錄ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

商標ハ特別著明ナル圖形字體又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシ

第二條 左ニ掲ケル商標ハ登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一 風俗ヲ害スヘキモノ

二 商品普通ノ名稱若クハ内外國旗章ノミヲ以テ要部トナスモノ

三 他人ノ登錄商標又ハ登錄出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト同一若クハ類似ニシテ同一商品ニ使用セントスルモノ

第三條 商標ノ登錄ヲ受ケント欲スル者ハ一商標毎ニ明書細及見本ヲ添へ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書及明細書及見本ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 商標ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其商標ヲ審査セシメ登錄ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ商標原簿ニ登錄シ其登錄證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 登錄證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書見本ヲ添へ之ヲ下付スルモノトス

第六條 商標專用ノ年限ハ二十年ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條 商標ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル商品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル商品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用セントシテ登錄ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登錄ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登錄セサルモノトス但其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條 商標ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十一條 商標ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十二條 登録商標主其營業ヲ賣與譲與シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場合ニ限り其商標專用權ヲ賣與譲與シ若クハ共有トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受ケヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其效ナキモノトス

第十三條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ左ノ場合ニ於テハ登録ノ效ヲ失フモノトス

一 登録商標主相當ノ事故ナクシテ商標登録ノ日附ヨリ六箇月ヲ經テ其商標ヲ使用セザルトキ

二 登録商標主相當ノ事故ナクシテ其商標ノ使用ヲ一箇年間に止シタルトキ

三 登録商標主其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ

四 登録商標主其商標ヲ使用スル商品ノ數量產地品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ

五 登録商標主磨滅若クハ關損シタル商標ヲ使用シタルトキ

第十四條 登録商標主其專用年限満期ノ後其商標ヲ續用セント欲スル者ハ更ニ其登録ヲ出願スルコトヲ得

第十五條 登録商標主其登録證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下附ヲ出願スルコトヲ得

第十六條 登録商標主其明細書若クハ見本ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ效力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ見本ヲ添へ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其商標ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條 商標ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

一 商標ノ登録ヲ出願スルトキ

金二圓

二 (明治二十九年法律第二十七號ニ依リ消滅)

三 登録證ノ再下付ヲ出願スルトキ

金二圓

四 登録證ノ改訂ヲ出願スルトキ

金二圓

五 審判ヲ請求スルトキ

金七圓

第十八條 (同上)

第十九條 特許局ハ時時商標公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第二十條 登録商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十一條 登録商標ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條 他人ノ登録商標ナルコトヲ知り之ト同一又ハ類似ノ商標同一商品ニ使用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐欺ノ所爲ヲ以テ登録證ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケタル商標ニ登録ノ文字ヲ記シタル者又ハ情ヲ知り其商品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十五條 第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十八條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

商標條例施行細則 (明治二十五年十一月農商務省令第十九號)

明治二十二年(一月)農商務省令第三號商標條例施行細則左ノ通改正シ明治二十五年十二月一日ヨリ施行ス

商標條例施行

第一章 總則

第一條 特許條例施行細則第一條乃至第十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス

第二條 商標ノ登録、改訂、取消及ヒ無效其他商標ニ關スル必要ノ事項ハ特許局長ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ官報及ヒ商標公報ニ公告スヘシ

第二章 登録出願

第三條 登録願書ハ第一號書式ニ依リ第三十四條ノ商品類別ニ從ヒ一類毎ニ之ヲ作り商標條例第十七條第一號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 二人以上ノ出願人連名ニテ登録ヲ受ケントスルトキハ登録願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ證スル事由書ヲ添フヘシ

第五條 登録願書及ヒ明細書見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ願書ニ順號ヲ附シ其順號ヲ出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ差出ス書類ニハ願書ノ順號ヲ記載スヘシ

第六條 登録願書ヲ差出シタル後他人ト連名ニテ登録ヲ受ケントスル者ハ其旨ヲ記載シタル願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ證スル事由書ヲ添ヘ商標原簿登録已前ニ之ヲ差出スヘシ若シ其出願原簿登録ノ後ニ係ルトキハ受理セス

第三章 明細書見本及ヒ印版

第七條 明細ハ左ニ記載スルノ項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ但明細書ニハ商標ノ見本二箇ヲ添ヘ一箇ハ明細書ノ首部ニ貼付シテ其貼目ニ捺スヘシ

一 商標全部ノ構造ノ説明

商標ノ見本ニ付圖樣文字ノ形狀、位置、書體、方向、裝飾、附記等ヲ説明スルヲ要ス

二 商標ノ要部

商標ノ見本ニ付キ特別著明ノ外觀アル部分ノミヲ記載スルヲ要ス

三 商標ヲ使用スル商品ノ類別及ヒ名稱

第三十四條ノ商品類別ニ從ヒ其商品ノ名稱ヲ記載スルヲ要ス

四 商標使用ノ方法

商標ヲ實地商品ニ使用スルノ方法ヲ説明スルヲ要ス

第八條 商標ノ見本ハ實際使用スヘキ商標ヲ用ユヘシ

前項ニ依リ難キトキハ模寫者クハ縮寫シタルモノヲ以テ見本トナスコトヲ得

第九條 商標ノ印版ハ版面ノ廣サ曲尺方一寸八分以内厚サ曲尺七分六厘トシ木版又ハ鉛版ヲ以テ之ヲ造ルヘシ

前條ノ制限ニ依リ難キ時ハ版面ノ廣サニ限り長サ曲尺七寸以内幅五寸以内ニ於テ造ルコトヲ得

第十條 商標ノ印版ハ見本全部ノ構造ヲ悉ク一箇ノ版面ニ彫刻シ彩色等ノ爲メ之ヲ分割セサルヲ要ス時日ヲ經テ版面ニ反リテ來スヘキモノハ差出人ニ於テ相當ノ手續ヲナスヘシ

第十一條 商標印版ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差出人通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲ爲ササルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ

印版ヲ亡失毀損スルモ特許局ハ辨償ノ責ニ任セス

第四章 審査

第十二條 審査ハ商標條例第十六條ノ改訂願書ノ外願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經過シタル願書日附ノ順序ニ從ヒ日附相同シキモノハ願書ノ順號ニ從ヒ之ニ著手スヘシ

第十三條 左ニ記載スル圖形、字體又ハ其結合ハ商標ノ要部トナスヘキ特別著明ノ外觀ナキモノトス

一 商品ノ品位、品質若クハ效能ヲ指示スルニ止マル記號、圖形ノミヲ以テ成ルモノ

二 商品ノ名稱、形狀又ハ其原料ヲ指示スルニ止マル記號、圖形ノミヲ以テ成ルモノ

三 普通ニ使用セララル地名、姓氏、人名、家號、會社名ノミヲ普通ノ書體ニ依リ記セルモノ

四 地紋樣ノ圖形ノミヲ以テ成ルモノ

五 現ニ同業者間ニ普通ニ用ヒラレ又ハ商業上慣用セララル目印記號ノミヲ以テ成ルモノ

第十四條 左ニ記載スル商標ハ特別著明ノ要部ヲ具フルモ登錄ヲ許スヘカラサルモノトス

一 皇室ノ御紋章ト同一又ハ之ニ類似スルモノト認ムル商標

二 商標條例第二條第一號、第二號又ハ第三號ニ該當スル商標

三 商標條例第八條ニ該當スル登錄出願ノ商標ニシテ願書日附ノ後ナルモノ又ハ其日附ノ相同シキモノ

第十五條 同一商品ニ使用セントスル二箇以上ノ商標ニシテ左ニ記載スル場合ノ一ニ該當スルトキハ互ニ類似シタルモノトス

一 離隔上ノ觀察ニ於テ差異ナキトキ

二 商標上ヨリ生スヘキ自然ノ稱呼同一ナルカ又ハ相紛ハシキトキ

第十六條 登錄ヲ拒絕スル査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一 願書ノ順號

- 二 商標ヲ使用スル商品ノ類別及ヒ名稱
 - 三 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
 - 四 商標全體ノ關係、再査定ニ係ルトキハ不服理由ノ要領
 - 五 拒絕ノ理由
 - 六 明細書及ヒ見本ニ對照シ適切ニ且明確ニ記載シ再査定ニ係ルトキハ不服ノ理由ヲ反駁シ初査定ノ理由ヲ敷衍辯明スルヲ要ス
 - 七 年月日(明治二十六年農商務省令第四號ヲ以テ第七號ヲ削リ第八號ヲ繰リ上ク)
- 第十七條 再審査ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ不服理由書ヲ作り査定書ノ日附ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ
- 一 願書ノ順號
 - 二 商標ヲ使用スル商品ノ類別及ヒ名稱
 - 三 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
 - 四 不服ノ要旨
 - 五 事實上ノ辯論
 - 六 明細書及ヒ見本ニ對照シ拒絕ノ理由ヲ反駁スルニ止ムルヲ要ス
 - 七 事實上主張ノ證明
 - 八 出願人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
 - 九 年月日

- 第十八條 特許條例施行細則第三十二條乃至第三十四條ハ商標ノ審査ニ關シテモ之ヲ適用ス(明治二十九年十一月農商務省令第三十八號ヲ以テ本條ヲ削リ以下順次繰上ク)
- 第十九條 特許條例施行細則第四十四條乃至第五十四條ハ商標ノ審判ニ關シテモ之ヲ適用ス但審判請求書ニハ商標條例第十七條第五號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ
- 第六章 登録
- 第二十條 商標條例第四條ニ依リ登録ヲ許スヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經其旨ヲ記載シタル通知書ニ登録料納付用紙ヲ添ヘ出願人ニ送付スヘシ
- 出願人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ商標條例第十八條ノ登録料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書二通及ヒ商標ノ印版一箇ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ
- 第二十一條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ納付ノ日ヲ以テ商標原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シテ十五日以内ニ商標登録證ヲ送付スヘシ
- 前項登録料ノ納付執務時間ノ最後一時間若クハ其已後又ハ休日ニ係ルトキハ次ノ執務日ニ納付シタルモノト見做ス
- 第二十二條 商標登録證ハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製シ商標原簿登録ノ日ヲ以テ其日附トナス
- 第二十三條 商標ノ專用權ヲ相續シタルトキハ其相續人ヨリ登録商標主其商標ノ使用ヲ廢止シタルトキ氏名住所ヲ變換シタルトキ及ヒ改印シタルトキハ本人ヨリ速カニ其旨ヲ届出ツヘシ
- 第七章 賣與、讓與及ヒ共有

第二十四條

商標條例第十二條ニ依リ覽與、讓與又ハ共有ノ登録ヲ受ケントスル者ハ第三號書式ニ從ヒ請求書ヲ作り同條例第十七條第二號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ契約書正副二通及ヒ商標登録證ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ登録シ契約書ニ登録濟ノ證印ヲ捺シ商標登録證ニ裏書ノ上契約書ト共ニ請求人ニ返付スヘシ

第二十五條 共有ノ登録ヲ受ケタル者ニシテ後日其契約ヲ解除シタルトキハ關係人ノ連署ヲ以テ其旨ヲ記載シタル届書ニ商標登録證ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ附記シ商標登録證ニ裏書ノ上之ヲ登録商標主ニ返付スヘシ

第二十六條 共有者中ノ一人若クハ數人其商標ノ請求權ヲ他ノ共有者ニ賣與又讓與セントスルトキハ第二十五條第一項ノ手續ニ從ヒ之ヲ請求スヘシ
前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ第二十五條第二項ノ手續ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第八章 續用登録願及ヒ再下付願

第二十七條

商標條例第十四條ニ依ル續用登録願書ハ第四號書式ニ從ヒ之ヲ作り同條例第十七條第一號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ登録有效期限内ニ差出スヘシ

第二十八條 商標條例第十五條ニ依ル再下付願書ハ第五號書式ニ從ヒ之ヲ作り同條例第十七條第三號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二十九條 第二十九條ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ其事由及ヒ下付ノ年月日ヲ裏書シタル商標登録證ヲ下付スヘシ

第九章 改訂願

第三十條 商標條例第十六條ニ依ル商標登録證ノ改訂願ハ左ノ場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルモノトス

一 明細書ノ説明ト商標見本ト符合セサルコトヲ發見シタルトキ

二 明細書ニ掲ケタル商標見本ノ構造ヲ變更セズシテ商標要部ノ範圍ヲ擴メ若クハ削減シ又ハ他ノ部分ト交換スルノ必要アルコトヲ發見シタルトキ

三 商品ノ指定第三十四條ノ商品類別ニ違ヒタルコトヲ發見シタルトキ

第三十一條 改訂願書ハ第六號書式ニ從ヒ之ヲ作り商標條例第十七條第四項ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ改訂明細書一通若クハ改訂見本二箇ヲ添ヘ現商標登録證及ヒ附屬ノ明細書ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ第二十一條及ヒ第二十二條ノ手續ニ依リ其旨ヲ商標原簿ニ附記シ改訂商標登録證ヲ送付スヘシ

第三十二條 改訂商標登録證ハ第七號書式ニ依リ之ヲ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附トナス

第十章 商品類別

第三十三條 商標條例第七條ノ商品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

(商品類別及ヒ書式略之)

● 版權法

(明治二十六年四月法律第十六號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル版權法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

版權法

- 第一條 凡ソ文書圖畫ヲ出版シテ其ノ利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ文書圖畫ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ
- 第二條 出版法ニ依リ文書圖畫ヲ出版スル者及出版法又ハ新聞紙法ニ依リ雜誌ヲ發行スル者ハ總テ此ノ法律ニ依リ其ノ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得
- 第三條 版權ノ保護ヲ受クムト欲スル者ハ發行前「登錄料トシテ製本六部ノ定價ヲ添ヘ」版權登錄ノハ十圓トス」(登錄稅法ノ爲メ變更セラル)
- 第四條 官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ムト欲スルトキハ其ノ由ヲ內務省ニ通知ス
- 第五條 版權登錄ノ文書圖畫ニハ其ノ定價ヲ記載スヘシ「版權登錄後定價ヲ增加スルモノハ其ノ未納額モノハ登錄ノ效ヲ失フモノトス
- 第六條 內務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備置キ登錄ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ
- 第七條 登錄ヲ經タル文書圖畫ハ內務省ニ於テ時時之ヲ官報ニ揭示スヘシ
- 第八條 版權ハ著作者ニ屬シ著作者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス
- 第九條 著作者ニ屬シ著作者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス但シ其ノ相續者ニ屬スルモノトス講義若ハ演說ヲ筆記シタルモノノ版權亦同シ但公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ筆記シテ出版スルモノハ版權侵

- 害ト認ムルノ限ニアラス
- 翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス
- 官廳、學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ノ版權ハ其ノ官廳、學校、會社、協會等ニ屬スルモノトス
- 二種以上ノ著作若ハ講義演說ノ筆記ヲ編纂シタル文書圖畫ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス但シ其ノ原著作及原筆記ニ版權所有者アルトキハ其ノ所有者ノ承諾ヲ經タル後ニ非サレハ其ノ部分ニ付本項ヲ適用セス
- 書畫ノ版權ハ其ノ原本ノ所有者ニ屬スルモノトス
- 第八條 版權ハ制限ヲ附シ若ハ附セスシテ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得
- 第九條 版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記載シ其ノ再度下付ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得但手數料トシテ五十錢ヲ納ムヘシ
- 版權登錄證書ニ誤謬アリタルトキハ其ノ理由ヲ記シ其ノ更正ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得但其ノ誤謬官ニ在ル場合ノ外ハ手數料トシテ五十錢ヲ納ムヘシ
- 第十條 版權保護ノ年限ハ著作者ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテヲ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍三十五年ニ足ラサル時ハ版權登錄ノ日ヨリ三十五年トス
- 數人ノ合著ニ係ルモノノ版權年限最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス
- 官廳又ハ學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫並ニ著作者ノ死亡後ニ出版スル文書圖畫ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス
- 第十一條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖畫ノ版權年限ハ每號其ノ出版ノ月ヨリ起算ス但其部

度第三條ノ手續ヲナスヘシ

雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十二條 版權ノ保護ハ其ノ文書圖畫ヲ改正増減シ又ハ註解、附録、繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲變更スルコトナカルヘシ

版權登錄ヲ得タル文書圖畫ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ文書圖畫ノ爲ニ寫シタルモノハ其ノ文書圖畫ト共ニ版權ノ保護ヲ受クルモノトス

第十三條 版權年限ヲ經過スルモ版權所有者ノ願出ニ依リ内務大臣ニ於テ必要ト見做ストキハ仍十年間版權保護ノ期限ヲ延スコトアルヘシ

第十四條 文書圖畫ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其ノ版權相續者ナキコトヲ確言シ之ヲ出版セムト欲スルトキハ其由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並ニ其ノ所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月内ニ版權相續者ノ出テサルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作者又ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニ依リ出版シ版權保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條 新聞紙ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說記事又ハ小説及二號以上ニ涉ラスト雖特ニ一欄ヲ設ケ冒頭ニ禁轉載ト記シタルモノハ其ノ編輯者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ刊行ノ月ヨリ二年内ニ之ヲ他ノ新聞紙若ハ雜誌ニ轉載シ又ハ之ヲ編纂シテ出版スルコトヲ得ス其ノ二年ヲ經ルト雖ヨリ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條 版權所有者ノ文書圖畫ヲ僞版シタル者ハ其ノ版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

其ノ寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條 僞版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其ノ發賣頒布ヲ差止ムルコトヲ得但審理ノ未僞版ニ非スト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其ノ差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條 僞版ニ關ル損害賠償ノ責ハ僞版者ノ相續者ニ及フモノトス

第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有者ノ文書圖畫ヲ翻譯シ増減シ註解、附録、繪圖等ヲ加ヘ若ハ其ノ未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及第十五條ニ違フ者ハ僞版ヲ以テ論ス

他人ノ講義又ハ公開ナラサル席ニ於テ爲シタル他人ノ演說ヲ筆記シ其ノ承諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條 翻譯者ノ版權ハ其ノ翻譯者ニ屬スト雖其ノ原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ僞版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但其ノ既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此ノ限ニアラス

第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲故ラニ版權所有者ノ文書圖畫ノ題號ヲ冒シ或ハ摸擬シ又ハ氏名、社號、屋號等ノ類似シタルモノヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十二條 著作者又ハ其ノ相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文書圖畫ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖畫ヲ翻刻スルモノ亦僞版ヲ以テ論ス所有者ノ承諾ヲ經スシテ書畫ヲ出版スルモノ亦同シ

第二十三條 文書圖畫ヲ寫眞ト爲シ因テ其ノ版權ヲ犯スモノハ僞版ヲ以テ論ス

第二十四條 内國ニテ版權所有者ノ文書圖畫ヲ外國ニ於テ僞版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ僞版

ヲ以テ論ス

第二十五條 偽版ノ訴アリテ其ノ偽版タルヤ否ヲ決シ難キトキハ其ノ訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ撰ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

就ス

第二十六條 偽版ニ關ル損害賠償ノ時効ハ其ノ原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ經過スルニ因テ成

第二十七條 偽版者及情ヲ知ルノ印刷者、販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若クハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

偽版ニ係ル刻版及印本ハ其ノ何人ノ手ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收シ其ノ既ニ販賣シタルモノハ其ノ賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條 版權ヲ所有セサル文書圖畫ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但著作者又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十九條 第三條ノ手續ヲ爲サスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖畫ヲ出版スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減刑、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第三十一條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十二條 從前ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル者ノ版權年限ハ從前ノ條例ニ依リ計算スルモ入トス

文部省版權所有ノ圖書ノ翻刻出版ノ取締

ニ關スル件

(明治二十七年八月文部省令第二十二號)

文部省版權所有ノ圖書ノ翻刻出版ニ關シ規定スルコト左ノ如シ

第一條 文部省版權所有ノ圖書ハ其ノ種類ニ依リ明治二十七年十二月十一日以後此ノ省令ノ規定ニ依リ廣ク翻刻出版ヲ許可スヘシ但翻刻出版ヲ許可スヘキ圖書ノ名目ハ官報ヲ以テ公告スヘシ

第二條 翻刻出版ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ其圖書ノ名目及翻刻出版シテ發賣スヘキ定價ヲ具シ文部大臣ニ願出ヘシ

前項及其ノ他此ノ省令ノ條項ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

第三條 翻刻出版ノ圖書ハ紙質脆弱又ハ粗惡ナルヘカラス印刷鮮明ニシテ製本鞏固ナルヲ要ス

第四條 翻刻出版ノ圖書ハ文字ノ大小字體圖畫冊數枚數及每行字數ハ原本ト異ナルヘカラス但圖書ノ種類又ハ部分ニ依リ本文ノ制限ニ依ラサラントスルトキハ見本ヲ添ヘテ豫メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 翻刻出版ノ圖書ハ每冊ニ翻刻出版許可ノ年月日ヲ明記スヘシ

第六條 翻刻出版ノ許可ヲ得タル後定價ヲ變更セントスルトキハ豫メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 翻刻出版ノ圖書ハ見本三部ヲ文部省ニ差出シ検査ヲ受クヘシ其ノ検査ヲ經タル後ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス改版シタルトキモ亦同シ

第八條 翻刻出版ノ許可ヲ得タル後三箇月ヲ經テ出版セサルトキハ翻刻出版許可ノ效ヲ失フ

第九條 翻刻出版者ニ於テ定價ヲ超エタル價格ヲ以テ其ノ圖書ヲ發賣シ又ハ文部省ノ検査ヲ經タル見本ト異ナルモノヲ發行シ其ノ他規定ニ背クトキハ文部大臣ハ何時ニテモ翻刻出版ノ許可ヲ取消スヘシ

第十條 前諸條ニ依ルノ外文部大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ翻刻出版者ヲシテ特ニ契約書ヲ差出サシメ相當ノ保證金ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第十一條 地方長官ハ其ノ管内ニ行ハルル翻刻出版ノ圖書ヲ監視シ若シ此ノ省令ノ規定ニ背クモノアルトキハ文部大臣ニ報告スヘシ

● 我有版權ノ圖書ニシテ外國人ノ翻刻ニ係ル者ハ販賣ヲ禁ス

(明治十一年十二月内務省達乙號第九十號)

我カ有版權ノ圖書ニテシ外國人ノ翻刻ニ係ルモノハ内國人民ニ於テ販賣不相成ハ勿論ノ事ニ候得共尙心得違ノ者無之様兼テ其旨相諭置可申此旨相違候事

● 神社寺院ノ守札及神佛號ヲ記セル畫像等ハ其神社寺院ノ外出版ヲ禁ス

(明治十五年十月内務省達乙第五十五號)

神社寺院ノ守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出版不相成儀ト可心得此旨相違候事但從前屆濟ノ分ト雖トモ本文ニ牴觸シ不都合ト認ムル場合ニ於テハ更ニ申出ツヘシ

● 脚本樂譜條例

(明治二十年十二月勅令第七十八號)

朕脚本樂譜條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

脚本樂譜條例

- 第一條 演劇脚本及樂譜ハ「出版條例」及「版權條例」ニ據リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得
- 第二條 演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權(即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權)ヲ併セ有スルコトヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ
- 第三條 演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スコトヲ得
- 第四條 演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ著作者又其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スル者亦同シ
- 第五條 興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ日ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

● 寫眞版權條例

(明治二十年十二月勅令第七十九號)

朕寫眞版權條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

寫眞版權條例

- 第一條 凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其他物象ノ眞形ヲ寫シタルモノヲ寫眞ト云ヒ寫眞ヲ發行シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ寫眞版權ト云フ

第二條 寫真版權ハ寫真師ニ屬シ寫真師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但他人ノ囑托ニ係ルモノノ寫真版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス
ルモノトス

第三條 寫真版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前寫真一版ニ付見本二葉及六葉ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ内務省ニ願出ヘシ但人物ノ寫真ハ登錄ヲ待タスシテ其保護ヲ受クルモノトス
第四條 版權登錄ノ寫真ニハ其保護年限間ハ版權所有者ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ其記載セザル者ハ登錄ノ效ヲ失フモノトス

第五條 内務省ニ於テハ寫真版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アリタルトキハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

第六條 寫真版權登錄證書ノ取扱ハ總テ文書圖書ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス
第七條 寫真版權ハ制限ヲ付シ若クハ付セズシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第八條 版權ノ保護ヲ受ル寫真ハ之ヲ覆寫シ若クハ機械又ハ舍密ノ作用ニヨリ多數ヲ増製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫真術ト類似ノ模寫ヲ爲シ及寫真師ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受スシテ囑托ニ係ル寫真ヲ増製スルコトヲ得ス

第九條 第三條ノ手續ヲナサスシテ版權登錄ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第十條 第八條ニ違フ者ハ「版權條例」ニ據リ偽版ヲ以テ論シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ及損害賠償ノ責ニ任セシム

損害賠償ノ責ハ其原寫真ノ版權年限終ルノ後一年ヲ以テ期滿得免ノ期トス

第十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メラレタル寫真又ハ模寫物作爲ノ時ヨリ起算シ其ノ發賣セサルモノハ最後ニ發賣シタル時ヨリ起算ス
第十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用弁ス

出版及版權ニ關スル願届手續

(明治二十六年四月内務省令第七號)

出版及版權ニ關スル願届手續等左ノ通之ヲ定ム

第一條 凡願届書ニ署名スル者ハ各住所ヲ詳記シ實印ヲ捺シ内務大臣宛ニテ差出ス可シ

第二條 出版法第七條第八條ニ依リ文書圖書ノ末尾ニ記載スル文字ハ總テ楷書タルヘシ

第三條 他人ノ書畫ヲ臨寫シ若クハ摹寫シ又ハ他人ノ詩文歌ヲ書寫シテ出版スル者ハ其紙面中ニ臨寫者クニ摹寫者誰又ハ書者誰ト記載スヘシ

第四條 出版法第十條第一項但書ニ依リ許可ヲ得タル雜誌ハ製本中見易キ場所ニ於テ(年月日内務省許可)ト記載スヘシ但明治二十年(十二月)勅令第七十六號出版條例第九條但書ニ依リ許可ヲ得タルモノ亦同シ

第五條 出版法第十一條第二項ニ依リ版權登錄願ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ豫メ大約一箇年以内出版ノ分隨意取束子版權登錄ヲ願出ルコトヲ得

第六條 外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ原書ノ題名著者ノ氏名出版ノ地名及年號原字ヲ以テ認メ届書ニ添付ス可シ

第七條 出版届ハ第一書式再(三)版届ハ第二書式版權登錄願ハ第三書式雜誌版權登錄願ハ第四書式寫真版權登錄願ハ第五書式版權登錄再度下付願ハ第六書式ニ依ル可シ

第八條 出版法及版權法ニ於テ他人ノ許諾ヲ得ヘキモノニシテ其許諾ヲ得テ出版届出又ハ版權登錄願出ルトキハ其ノ旨ヲ届書又ハ願書ニ記スヘシ

非賣ノ文書圖書ヲ出版スル者ハ其届書並製本中ニ非賣品ト記スヘシ

第九條 專ラ學術技藝統計廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ニシテ出版法第二條但書ニ從ヒ同法ニ依ラント欲スル者ハ第七書式同法第十條第一項ノ但書ニ依リ届出ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第八書式ニ依ル可シ

第十條 版權登錄願ヲ許可スルトキハ第九書式寫真版權登錄願ヲ許可スルトキハ第十書式ノ證書ヲ下付ス可シ但毀損紛失等ニ依リ再度下付スル證書ハ第十一書式ニ係ル

第十一條 此省令ハ出版法版權法施行ノ日ヨリ之ヲ施行シ明治二十一年(二月)内務省令第一號明治二十三年(三月)同省令第一號明治二十五年(三月)同省令第三號ハ同日ヨリ之ヲ廢ス(書式略之)

專賣特許意匠保護商標專用及版權終

第十八類 民事及刑事

華族ヨリ平民ニ至ル迄婚姻ヲ許ス

(明治四年八月布告)

華族ヨリ平民ニ至ル迄互ニ婚姻被差許候條雙方願ニ不及其時時戶長ニ可届出事但送籍方ノ儀ハ戶籍法第八則ヨリ第十一則迄ニ照準可致事

外國人民ト爲ス婚姻ニ就テノ條規

(明治六年三月布告第百三號)

自今外國人民ト婚姻差許左ノ通條規相定候條此旨可相心得事

- 一 日本人外國人婚姻セントスル者ハ日本政府ノ允許ヲ受ケヘシ
- 一 外國人ニ嫁シタル日本ノ女ハ日本人タルノ分限ヲ失フヘシ若故有ツテ再ヒ日本人タルノ分限ニ復センコトヲ願フ者ハ免許ヲ得能フ可シ
- 一 日本人ニ嫁シタル外國ノ女ハ日本ノ國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ
- 一 外國人ニ嫁スル日本ノ女ハ其身ニ屬シタル者ト雖トモ日本ノ不動産ヲ所有スルコトヲ許サス但日本ノ國法並ニ日本政府ニテ定タル規則ニ違背スルコトナクハ金銀動産ヲ持携スルモ妨ケナシトス
- 一 日本ノ女外國人ヲ婚養子ト爲ス者モ亦日本政府ノ免許ヲ受ケヘシ

- 一 外國人日本人ノ婿養子トナリタル者ハ日本國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ
- 一 外國ニ於テ日本人外國人ト婚姻セントスル者ハ其國或ハ其近國ニ在留ノ日本公使又ハ領事官ニ願出許可ヲ乞フヘシ公使及ヒ領事官ハ裁下ノ上本國政府ヘ届出ヘシ

婦ハ離婚ノ訴ヲ起スヲ得

(明治六年五月第百六十二號布告)
 夫婦ノ際已ムヲ得サルノ事故アリテ其婦離縁ヲ請フト雖トモ夫之ヲ肯ンセス之レカタメ數年ノ久ヲ經テ終ニ嫁期ヲ失ヒ人民自由ノ權理ヲ妨害スルモノ不少候自今右ノ事件有之ハ婦ノ父兄弟或ハ親戚ノ内附添直ニ裁判所ヘ訴出不苦候事

華士族平民交互養子取組ノ件

(明治六年一月布告第二十七號)
 自今華士族平民互ニ養子取組不苦候事但華族ハ管轄廳ヨリ正院ヘ伺出土族ハ管轄廳ニテ聞届平民ハ戶長ヘ可届出事

華族ノ輩隱居及養子出願方

(明治三年閏十月布告)
 一 華族ノ輩五十歳ヨリ隱居願之儀可爲勝手事但癱疾及事故ニ罹リ候輩ハ此限ニ非ス
 一 實子無之輩ハ年齡ニ不拘養子願之儀可爲勝手事
 右之通更ニ被仰出候條此旨相達候事

士族ノ輩隱居及養子出願方

(明治三年閏十月布告)
 一 士族ノ輩年五十歳ヨリ隱居願之儀可爲勝手事但癱疾及事故ニ罹リ候輩ハ此限ニ非ス
 一 實子無之候ハハ年齡ニ不拘養子願之儀可爲勝手事
 右之通更ニ被仰出候條此旨相達候事

私生ノ子

(明治六年一月布告第二十一號)
 妻妾ニ非サル婦女ニシテ分娩スル兒子ハ一切私生ヲ以テ論シ其婦女ノ引受タルヘキ事但男子ヨリ己レノ子ト見留メ候上ハ婦女住所ノ戶長ニ請テ免許ヲ得候者ハ其子其男子ヲ父トスルヲ可得事

穢多非人等ヲ廢シ平民同様タルヘキ事

(明治四年八月布告)
 穢多非人ノ稱被廢候條自今身分職業共平民同様タルヘキ事

諸證書ノ姓名ハ必ス自書實印ヲ用ユ

(明治十年七月第五十號布告)
 諸證書ノ姓名ハ必ス本人自ラ書シテ實印ヲ押スヘシ若シ自書スルコト能ハサル者ハ他人ヲシテ代書セシムルヲ得ルト雖モ必ス其實印ヲ押スヘシ其代書セシ者ハ本人姓名ノ傍ニ其代書セシ事由ト己レノ姓名トヲ記シテ實印ヲ押スヘシ但本文諸證書トハ契約ノ證書(金穀地所建物賃借買賣讓與並預リ證書等凡テ民事上相互ノ契約ニ係ルモノヲ云フ)ニ限ルモノトス(明治十年第六十四號布告)

告ヲ以テ但書ヲ追加ス
右布告候事

社寺學校病院等へ寄附物處分

(明治九年四月第五十四號布告)

社寺學校病院等へ寄附候土地建物其他物品等別段之契約無之分へ寄附主ニ於テ其所有ヲ離シタル
モノトシ一般ノ讓渡ヲ以テ處分候條此旨布告候事

社寺ノ負債氏子檀家ノ連署ヲ要ス

(明治十年五月第四十三號布告)

神社並寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ買入ルルトキ若クハ金穀ヲ借入ルル爲メ社寺附地所(除稅
地ヲ除クノ外)建物什器(寶物古文書類ヲ除クノ外)等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議
シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令
右ノ抵當アルモ其效ナキ者ト爲スヘシ此旨布告候事

外國人へ家屋地所等貸與方

(明治七年八月第八十五號布告)

外國人へ家屋地所等貸渡ノ節約束上輕忽疎漏ヨリ竟ニ内外人ノ不都合ヲ生シ候テハ自然交際ニモ
差響條條自今學校其他ノタメ備入ノ居留地外へ住居スヘキ外國人及公使館附屬書記官等へ貸家借

金穀貸借證書面金員穀數等ヲ改作塗抹及
數字記載方

(明治八年五月太政官達第七十七號)

地ノ節ハ先ツ約定草案相添其管轄廳へ伺出許可ノ上結約可致此旨布告候事但建物取毀賣拂ノ分ハ
幾日以内取拂ノ約定取結可賣渡尤賣渡ノ上ハ其旨管轄廳へ可届出事

金穀貸借證書面金員穀數等ヲ改作塗抹シ又ハ一二十等ノ數字ヨリ往往紛雜ヲ醸シ不都合ノ儀不勘
候間凡ソ他日ノ證據ヲ要スル書類ハ自今一二十ノ數字ハ壹貳拾ノ字體ヲ用ヒ無餘儀改作塗抹スル
時ハ其處ニ押印シ且物品員數等一紙ニ書盡シ難ク又ハ帳簿ヲ爲スモノハ其總目及ヒ綴目ニ押印シ
總テ他日紛雜ノ基ヲ生セサル様深ク注意可致旨各管下へ可曉諭此旨相達候事

預金穀證書中使消ヲ許ササル明文ナキ分
處分方

(明治七年三月布告第二十七號)

預金穀ハ其證書中ニ封印ノ儘預リ置候歟或ハ預リ中融通使用ヲ爲ササルノ明文ナキ分ハ出訴候ト
モ本年五月一日ヨリ以後ハ貸金同様ニ裁判可致候條此旨布告候事

華士族及上一般ノ貸借並再立藩藩再立

(明治五年十月布告第三百號)

以前ノ貸借裁判期限

一 華士族等ハ掛リ候金穀貸借ハ明治二年己六月郡縣ノ制被仰出候以前ノ裁判分ハニ不及候事

- 一 靜岡及七仙臺會津其外再立ノ藩藩再立以前ノ金穀貸借ハ裁判ニ不及候事
- 一 自今貴賤上下一般ノ人民互ニ期ヲ約シテ金銀貸借シ如シ期ニ及テ不返時内證屢催チナスト雖モ期月後滿五年ニ至ル迄一度モ訴出サル者ハ裁判ニ不及候事但當七月以前ノ貸借ノ分ハ此ノ限ニアラス
- 一 從前今後共家祿ヲ引當ニ致シ候金銀貸借ノ儀ハ一切裁判ニ不及候事

◎華士族卒へ掛ル貸借裁判取捨ニ付心得方

(明治五年十一月司法省布達第四十一號)

- 太政官第三百號ノ御布告ニ基キ左之通可心得此旨及布達候事
- 第一條 華士族卒へ掛金穀貸借ハ明治二年己巳六月二十五日以前ノ分ハ不取上翌二十六日以後ノ分ハ取上裁判スヘキ事但華士族卒ヨリ平民へ係ルモ本條之通タルヘシ
 - 第二條 預リ金穀ハ證文面預ケ金穀ノ名目ニテ利足有之亦ハ預リ人へ融通セシムル廉チ以禮金等ヲ請ケル分ハ第一條ノ通心得ヘク尤全ク預ケ金ニテ利足禮金ヲ請サケル分ハ及裁判若シ其金穀ヲ費用シ滯方不埒明時ハ斷獄課へ可引渡事
 - 第三條 元士族卒當時歸農商ノ分及ヒ己巳六月ノ改草ニ付三代以下ニテ平民トナル者己巳六月二十五日以前ノ證文ニテ其節士族卒ナレハ取上ヘカラサル事
 - 第四條 神職僧侶等ニ關スル分ハ貸借ノ節准士族卒ナレハ士族チ以テ可取扱事
 - 第五條 明治二年己巳六月二十五日以前ノ金穀貸借ヲ新規證文ニ書改タル分ハ不取上事
 - 第六條 己巳六月二十五日以前ノ貸借ニテ華士族卒へ掛ル分ハ御布告前審判亦ハ對談日延中ト雖

モ濟方不及裁判旨可申渡事

- 第七條 御布告前身代限申渡濟之分ハ申渡ノ通可及處分事
 - 第八條 從前出訴吟味中和解シ家祿ヲ引當トナシ新規證文ニ改メ濟口聞届タルハ御布告ニ依リ不及裁判事
 - 第九條 從前華士族ノ名目ヲ用ヒタル貸附金ハ第三百號ノ御布令ニ依リ取上ヘカラス候事
 - 第十條 動産不動産ヲ債主ニ質入シタル者ハ取上裁判可致事
- 附リ沽券狀ヲ債主ニ渡シ金穀夫借用セシ者モ本條ニ準シ質入ト看做スヘキ事

◎壬申七月以前上下一般ノ貸借裁判期限ニ付心得方

(明治六年三月司法省布達第五十號)

- 壬申第三百號御布告第三條但書ノ儀ハ左之通可心得事
- 一 壬申七月以前ノ金穀貸借ニテ既ニ同七月以前返濟期限過去タルハ同七月ヨリ五箇年ノ内訴出サル者ハ不及裁判事
 - 一 壬申七月以前ノ貸借ニテ返濟期限同七月後ニ係リタルハ期限後滿五年ニ至ル迄一度モ訴出サル者ハ不及裁判事

◎慶應三年十二月晦日以前平民相互ノ貸借裁判ニ及ハス

(明治五年十月布告第三百十七號)

平民相互ノ金穀貸借慶應三年丁卯十二月晦日以前ニ係ル者ハ一般裁判ニ不及明治元年戊辰正月元日以後ノ分ハ裁判ニ及候事

●慶應三年以前ニ動産不動産ヲ質物ニ取タル分ハ裁判ス (明治六年一月布告第九號)

昨壬申歲第三百十七號平民相互金穀貸借慶應三年丁卯十二月晦日以後ニ係ル者一切不及裁判旨及布告候處動産(金銀衣服家什等)運搬スヘキ者ヲ云フ)不動産(土地家屋等)運搬スヘカラサル物ヲ云フ)ヲ質物ニ取候分ハ右期日以前ニ係ルト雖モ取上及裁判候條此旨相違候事

●無年期ノ貸附金穀裁判期限

(明治六年一月布告第十號)

金穀貸附證文ノ内返濟期限無之歟又ハ出來次第返却可致等ノ證書取置後日訴出ツルニ於テハ裁判申渡ヨリ十二箇月ノ内濟方可申付事但從前今後共無年期貸附中内證屢返濟ヲ促スト雖モ滿五年ニ至ル迄一度モ不訴出者ハ裁判ニ不及候尤土地家屋等ノ貸貸ハ不動産ニ屬スル儀ニ付滿五年ヲ過ルト雖モ可及裁判事

●二十年以前ニ係ル預ケ金穀ノ訴訟ハ裁判ニ及ハス (明治十年一月布告第十二號)

預ケ金穀ノ訴訟ハ其證書中ニ封印ノ儘預リ置候歟或ハ預リ申融通使用ヲ爲ササル明文アルモノハ年數ニ拘ハラス受理スヘキ成規ニ候處自今二十年以前ニ係ルモノハ一切裁判不及候條此旨布告候事

義務ノ證書ニ某代理某ト代人ノ名ヲ以テ捺印結約シタル者ハ權利者ニ於テ此證書ヲ提供シ出訴スルニハ其本人ヲ相手取ル固ヨリ當然ナリト雖モ便宜ニ隨ヒ記名捺印シタル代人ヲ相手取ルコトアルモ必ス棄却スルヲ要セス他ノ本人又ハ代人ヲ引合人トシテ召喚シ俱ニ之カ答辭ヲ爲サシメ被告者ノ義務ニ歸スルトキハ被告者ヲシテ負擔セシメ引合人ノ義務ニ歸スルニ於テハ引合人ヲシテ負擔セシムル様相當ノ裁判ヲ爲シ與フヘキニ有之候條豫テ心得モ可有之候得共爲念相違候事

●金穀貸借請人證人辨償規則 (明治八年六月第百二號布告)

明治六年(六月)第百九十五號布告金穀貸借請人證人辨償規則本年十月一日ヨリ左ノ通改正候條同日以後借用證書ヘ加印候者ハ改正ノ通可相心得此旨布告候事(明治八年第百二十一號布告ヲ以テ「施行」ノ二字ヲ削リ「候條」以下ニ「二字ヲ加フ」)

金穀貸借請人證人辨償規則

第一條 金銀借用返濟相滞リ本人身代限濟方申付候上不足相立候節ハ其不足ノ分(請人證人)ハ濟方申渡シ猶不相濟ニ於テハ其(請人證人)ヲモ身代限申付其上不足相立候ハハ借主並ニ(請人證人)ハ勿論其相續人ニ至ル迄身代持直シ次第皆濟可致事

第二條 借主逃亡又ハ死去跡相續人無之時ハ其(請人證人)ハ濟方申渡シ候上不相濟ニ於テハ身代限申付猶不足相立候ハハ(請人證人)ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代持直シ次第皆濟可致事

第三條 身代限申付候上不足相立身代持直シ次第皆済可致旨左ノ雜形之通裁判所ニ於テ其原證文ノ裏ヘ記シ押印ノ上貸主ヘ可相渡置事
(裏書雜形ハ之ヲ畧ス)

●連借證書ノ分擔及償却方 (明治八年四月第六十三號布告)

金銀其他借用證書中借主數名連印ニテ各自分借ノ員數ヲ記載セサル分ハ右連印中失踪又ハ死亡シテ相續人ナキ者有之トモ其借用シタル金銀其他ノ總額ヲ其連印中現在ノ者ヘ償却可申付候條此旨布告候事但右證書中分借ノ員數無之トモ別ニ分借ノ明書アルハ此限ニアラス

●金穀借用證書貸主ヨリ他人ヘ讓渡手續

金穀等借用證書ヲ其貸主ヨリ他人ニ讓渡ス時ハ其借主ニ證書ヲ書換ヘシムヘシ若シ之ヲ書換ヘシメサルニ於テハ貸主ノ讓渡證書有之トモ仍ホ讓渡ノ效ナキモノトス此旨布告候事但相續人ヘ讓渡候ハ此限ニアラス (明治九年七月第九十九號布告)

●利息制限法 (明治十年九月第六十六號布告)

利息制限法左ノ通相定候條此旨布告候事
 第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス
 第二條 契約上ノ利息トシテ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一箇

年ニ付百分ノ二十(二割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(一割五分)千圓以上百分ノ十二(一割二分)以下トス若シ此限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニマテ引直サシムヘシ
 第三條 法律上ノ利息トシテ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高ヲ定メサル裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ拘ラス百分ノ六(六分)トス

第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金棒利等ノ名目ヲ用ル者アルトモ總テ裁判上無効ノ者トス

第五條 返還期限ヲ違フルトキハ貸主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金科料等ヲ差出スヘキコトヲ約定スルコトアルトモ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受クタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルトキハ之ニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

●無利息貨金預ケ金地代手附金等利息請求方

(明治六年三月司法省第四十三號布達)

- 預ケ金穀
- 諸職人手間代
- 店賃
- 敷金
- 受賃金
- 小作金穀
- 雇人給金
- 賣掛代金
- 地代
- 立替金穀
- 證據金
- 手附金
- 村入用ノ割合金穀
- 飯料

諸品ノ損料

無利息貸金設

右ノ類ニテ金設等可相渡期限ニ臨ミ渡方延滞致候節ハ其期限ノ日且期限ナクシテ金設入用次第可相渡旨ノ約定ヲ爲シタル分ハ渡方ノ掛合ヲ受ケ候日ヨリ何レモ利足ヲ生シ可申筋ニ付其節ハ雙方示談ヲ以テ利息ノ歩合ヲ定メ證書ヲ受取渡シ致スヘシ若シ其儀ナクシテ追テ訴訟ニ及フ時ハ雙方六年第九十二號布告ニヨリ處分致シ候條此旨可相心得候事(明治六年第九十二號布告ハ利息制限法ニ依リテ消滅セリ)但債主利息ヲ請求シテ負債承諾セサル時ニ限り本文ノ處分ニ及フ可シ若シ雙方示談整フカ又ハ債主ニ於テ請求ヲ爲ササル分ハ此例ニアラス(明治七年司法省第二十二號布達ヲ以テ但書追加)

代人規則

(明治六年六月第二十五號布告)

人民一般商業及ヒ其他ノ事ニ因リ代人ヲ以テ契約取引等致シ候規則別紙ノ通被定候條此旨相違候事

(別紙)

代人規則

- 第一條 凡ソ何人ニ限ラス已レノ名義ヲ以テ他人ヲシテ其事ヲ代理セシムルノ權アルヘシ但本人幼年等ニシテ其事理ヲ辨シ難キ時ハ其後見人及ヒ親族ノ協議ノ上代人ヲ任スルヲ得ヘシ
- 第二條 凡ソ他人ノ委任ヲ受ケ其事件ヲ取扱フ者ハ代人ニシテ其事件ヲ委任スル者ハ本人ナリ故ニ代人委任上ノ所行ハ本人ノ關係タル可シ
- 第三條 凡ソ代人ハ心術正實ニシテ滿二十歳以上ノ者ヲ選ムヘシ(明治九年第四十四號布告ヲ以テ改正)

テ改正)

第四條 代人ハ總理代人部理代人ノ別アリ總理代人ハ其本人身上諸般ノ事務ヲ代理スル者ニシテ部理代人ハ特ニ其委任スル内部ノ事務ヲ代理スルヲ得ル者トス

第五條 凡ソ本人ヨリ代人ヲ任シ他人ト契約取引等ヲ爲サント欲スル時ハ必ス實印ヲ押シタル委任狀ヲ與フヘシ但其家業取扱フ場所ニ於テ通常ノ事務ヲ取扱ハシムルノ類ハ別段委任狀ヲ與フルニ及ハス

第六條 委任狀ハ總理代人又ハ部理代人タル事及ヒ其委任シタル權限ヲ明白ニ記載ス可シ

第七條 委任狀書式左ノ通

拙者(拙者共)儀某ノ事件ニ付何誰ヲ以テ(總理代人、部理代人)ト定メ拙者ノ名義ニテ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事

一何何ノ事(但權限ノ次第ヲ分條記載ス可シ)

右代理ノ委任狀仍如件

年號何年何月何日

住所身分姓名印

(後見人等ハ住所身分何誰ノ後見人何誰ト記ス可シ)

第八條 代人ヲ任スルノ期限ハ豫メ規定シ難キモノト雖モ其本人幼弱疾病事故等ニテ長ク委任セントスル時ハ其地方ニ新聞紙アラハ之ニ記入セシメ世上ニ公布ス可シ

屯田兵ニ給與セル建物ノ質入書入其他

相續ニ關スル件

(明治三十年六月法律第四十二號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治二十八年法律第二十六號改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 屯田兵ニ給與ノ建物、馬匹ハ之ヲ讓渡シ又ハ質入書入ト爲シ又ハ債務ノ抵償トシテ之ヲ差押フルコトヲ得ス但讓渡ノ許可ヲ得タルモノ及給與ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キタル建物ハ此ノ限ニアラス

第二條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレタルトキハ給與ノ建物、馬匹ハ其ノ兵役相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

第三條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレ兵役相續人ヲ缺クトキハ其ノ給與ノ建物、馬匹ハ家督相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

前項ノ所有權ハ後日兵役ヲ相續スル者アルトキ之ヲ其ノ服役者ニ移スモノトス

第四條 前條ノ場合ニ於テ家督相續人定マラサルトキハ其間家族ヲシテ其ノ建物、馬匹ヲ保管セシム

第五條 第一條ハ第三條第一項及第四條ニ依リ給與ノ建物馬匹ヲ所有者クハ保管スル者ニモ之ヲ適用ス

華族世襲財產法

(明治十九年四月勅令第三十四號)

華族世襲財產法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

華族世襲財產法

第一條 華族戸主滿二十年以上ノ者ハ此法ニ依リ世襲財產ヲ創設スルコトヲ得但滿二十年以下ノ者ト雖モ前代戸主ノ遺言アルトキハ世襲財產ヲ創設スルコトヲ得

第二條 世襲財產ハ總テ家督相續者ヲシテ之ヲ相續セシムルモノトス

第三條 世襲財產ハ左ニ掲クル所ノ二類ニ限ル但第十五國立銀行株券ハ第二類ニ準シ世襲財產ト爲スコトヲ得

第一類 田畑山林宅地鹽田牧場池沼等

第二類 政府發行ノ公債證書又ハ政府ノ保證若クハ特別ノ監督ニ屬スル銀行若クハ會社ノ株券

第四條 世襲財產ハ前條二類中ノ一種又ハ數種ニシテ其總額毎年金五百圓ニ下ラサル純收益ヲ生スル財產タルヘシ但其財產中收益ナキ地所ヲ加フルモ妨ケナシ

第五條 世襲財產ノ所有者ハ特ニ世襲スヘキ建物庭園圖書寶器等ヲ以テ世襲財產附屬物ト爲スコトヲ得

第六條 負債償却ノ義務アル世襲財產及ヒ附屬物ト爲スコトヲ得ス

第七條 世襲財產ノ所有者ハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ其財產ヲ増加スルコトヲ得

第八條 世襲財產ノ所有者ハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ第二類ノ財產ヲ更換シテ第一類ノ財產ト爲スコトヲ得但第一類ヲ第二類ト爲スコトヲ得ス

第九條 第一類ノ財產若シ災害又ハ其他ノ事故ニ依リ第四條ノ制限額ヨリ減シタルトキハ五箇年以内ニ其缺額ヲ補充スヘシ

第十條 第二條ノ財產其元金ノ仕拂ヲ受ケタルトキハ一箇年以内ニ第一類又ハ第二類ノ財產ヲ以テ其缺額ヲ補充スヘシ

第十一條 世襲財產ノ所有者ハ其財產ノ純收益ヲ抵當トシテ負債ヲ爲スコトヲ得但毎年其純收益ノ三分一以上ノ償却ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スルコトヲ得ス

第十二條 世襲財産ノ純収益ハ如何ナル場合ト雖モ債主ヨリ毎年其三分一以上ヲ差押フルコトヲ得ス

第十三條 世襲財産及ヒ附屬物ハ之ヲ賣却讓與シ又ハ質入書入ト爲スコトヲ得ス

第十四條 世襲財産及ヒ附屬物ハ負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十五條 世襲財産ハ左ノ場合ニ於テハ其效力ヲ失フモノトス

一 戸主死亡ノ後家督相續スヘキ男子ナキトキ

一 爵ヲ奪ハレ又ハ族ヲ除カレ家督相續者ナキトキ

一 第九條第十條ニ掲ケタル缺額ヲ其期限内ニ補充セサルトキ

第十六條 世襲財産及ヒ附屬物ハ其所有者ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十七條 世襲財産ハ宮内大臣之ヲ管理シ「華族局」ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

第十八條 「華族局」ハ世襲財産臺帳ヲ備ヘ置キ世襲財産及ヒ之ニ關スル事項ヲ記入スヘシ

第十九條 世襲財産ヲ創設増加更換又ハ補充セントスル者ハ其願書ニ財産目錄ヲ添ヘ宮内大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ世襲財産附屬物ヲ設ケントスル者亦同シ

第二十條 宮内大臣ハ前條ノ願書目錄ヲ審查シ第一類ノ財産及ヒ第二類ノ公債證書ハ所轄ノ地方廳ニ命シ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ世襲財産ト爲スヘキ旨ヲ官報及ヒ其地方一定ノ新聞紙ニ掲ケ一週日間之ヲ公告セシムヘシ

世襲財産附屬物ハ「華族局」ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第二十一條 前條公告ヲ了リタル後三十日ヲ經テ該財産ニ關シ故障ヲ申出ル者ナキトキハ宮内大臣ハ世襲財産臺帳ニ記入セシメ認可證ヲ下付シ第一類ノ財産ハ所轄ノ地方廳ニ命シ「地券臺帳」

ニ記入セシメ地方廳ハ戶長ニ命シ公證簿ニ記入セシムヘシ第二類ノ公債證書ハ所轄ノ地方廳ニ

株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ帳簿ニ記入セシムヘシ

「華族局」ニ於テハ該「地券」又ハ公債證書若ハ株券ノ券面ニ世襲財産ト爲リタル旨ヲ記入スヘシ

第二十二條 世襲財産其效力ヲ失ヒタルトキハ宮内大臣ヨリ地方廳又ハ銀行若クハ會社ニ命シ之ヲ公告セシムヘシ

世襲財産附屬物ハ「華族局」ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第二十三條 第二十條及ヒ第二十二條ニ關スル公告費用ハ其財産所有者ヨリ之ヲ「華族局」ニ納ム

ヘシ

第二十四條 世襲財産ニ關スル事件ヲ協議スルカ爲メ戶主及ヒ滿二十年以上ノ相續者若クハ後見

人ト親屬三名以上トヲ以テ親屬會議ヲ組織シ豫メ宮内大臣ニ届出ヘシ但親屬ナキトキハ宮内大

臣ノ認可ヲ得テ一族又ハ他ノ華族ヲ親屬會議員ニ充ルコトヲ得

第二十五條 世襲財産ニ關スル願書屆書ハ親屬會議各員ノ連署ヲ要ス

第二十六條 此法施行ノ手續ハ宮内大臣之ヲ定ム

第二十七條 此法ハ明治十九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

華族世襲財産法施行手續

(明治十九年五月宮内省達第七號)

華令第三十四號第二十六條ニ據リ華族世襲財産法施行手續左ノ通り定ム

族世襲財産法施行手續

第一條 世襲財産ニ關スル願書及ヒ届書ハ宮内大臣ニ宛テ「華族局」ニ差出スヘシ

第二條 世襲財産ノ創設ヲ願出ルトキハ「地券」公債證書又ハ株券ハ「華族局」ニ差出シテ點檢ヲ受クヘシ其附屬物ハ「華族局」ノ指揮ニ依リ之ヲ差出シテ點檢ヲ受ケ又ハ「華族局」員ノ臨檢ヲ受ケ

世襲財産ノ増加、更換又ハ補充ヲ願出ルトキ亦同シ

第三條 前條差出シタル物件ハ「華族局」ニ留置キ其願ヲ許否スルノ日ニ至リ下戻スヘシ但時宜ニ依リ點檢ノ上直ニ下戻スコトアルヘシ

第四條 前代戸主ノ遺言ニ據リ世襲財産ノ創設ヲ願出ルトキハ其後見人連署ノ上創設ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 法第五條ニ據リ世襲財産附屬物ト爲スヲ得ヘキモノハ左ノ各項ニ相當スルモノトス
一 其家ニ由緒アルモノ
一 觀古ノ參考トナルヘキ貴重ノモノ

第六條 法第二十一條ニ掲グル日限ヲ經過シタルトキハ地方廳又ハ銀行若クハ會社ハ直ニ該財産ニ關スル故障申立ノ有無ヲ宮内大臣ニ上申スヘシ

第七條 宮内大臣ハ地方廳又ハ銀行若クハ會社ノ上申ニ據リ不都合ナシト認ムルトキハ法第二十條ノ手續ヲ爲シ尙ホ「華族局」ヲシテ其旨ヲ官報ニ掲ケ公告セシムヘシ

第八條 「華族局」ハ世襲財産トナリタル「地券」公債證書又ハ株券ノ各券面ニ「爲華族世襲財産」ノ印章ヲ押捺シ番號及ヒ年月日ヲ記入スヘシ

第九條 世襲財産ヲ創設セントスルモノハ豫メ相當ノ親屬會議員ヲ選定シテ届出ヘシ若親族ナキトキハ一族又ハ華族中ヨリ選定シテ届出ヘシ其補缺又ハ改選ヲ要スルトキ亦同シ

第十條 家督相續者世襲財産ヲ相續シタルトキハ地方廳又ハ銀行若クハ會社ニ於テ「地券」公債證書又ハ株券ノ書換若クハ裏書ヲ受ケ速ニ其旨ヲ届出ヘシ

第十一條 第一類ノ地目ヲ變換セントシ又ハ免租地ヲ有租地ト爲サントシ或ハ有租地ヲ免租地ト爲サントシ若クハ開墾セントスルモノハ先ツ宮内大臣ノ認可ヲ經テ一般ノ手續ニ遵フヘシ

第十二條 第一類ノ財産災害又ハ其他ノ事故ニ因リ其收入ヲ減シタルトキハ事由ヲ具シテ届出ヘシ其第二類ノ財産ニ於ケル亦同シ

第十三條 第一類ノ財産公用ニ因リ買上ラレ又ハ第二類ノ財産元金ノ支拂ヲ受ケタルトキハ直ニ其金額ヲ驛遞局貯金預所、日本銀行又ハ第十五國立銀行ヘ預ケ入レ其預金證書ヲ「華族局」ヲ經テ内藏寮ヘ預ケ置キ其補充財産購求ノ時ニ至リ下渡ヲ願出ヘシ

第十四條 世襲財産ニ關シ必要ト認ムルトキハ「華族局」員ヲ派遣シテ臨檢セシムヘシ但時宜ニ依リ地方廳ニ命シ該廳官吏ヲシテ臨檢セシムルトアルヘシ

第十五條 「地券」公債證書又ハ株券毀損亡失等ノ故ヲ以テ再渡又ハ書換ヲ受ケタルトキハ之ヲ華族局ニ差出シテ第八條ニ掲グル券面ノ記入ヲ受ケヘシ

第十六條 世襲財産附屬物ヲ毀損亡失シ又ハ亡失シタルモノヲ發見シタルトキハ其事由ヲ届出ヘシ

第十七條 世襲財産其效力ヲ失ヒタルトキハ法第二十二條ノ公告ヲ爲サシムルト同時ニ其旨ヲ所

有者及ヒ親屬會議員ニ達スヘシ

第十八條 前條ノ違ヲ受ケタルモノハ直ニ「地券」公債證書又ハ株券ヲ「華族局」ニ差出シ其券面記
入ノ取消ヲ受ケヘシ

第十九條 法第二十條第二十二條ニ據リ公告ヲ爲シタルトキ地方廳又ハ銀行若クハ會社ハ其費用
計算書ヲ以テ「華族局」ニ請求スヘシ「華族局」ハ計算書ヲ取纏メ其納金方ヲ所有者又ハ親族會
議員等ニ送スヘシ

第二十條 前條納金方ノ違ヲ受取リタルモノハ三日以内ニ納金證書ニ現金又ハ爲替手形ヲ添ヘ
「華族局」ニ上納スヘシ「華族局」ハ直ニ之ヲ地方廳又ハ銀行若クハ會社ニ送付スヘシ

第二十一條 遠隔ノ地方ニ在ル地方廳又ハ銀行若クハ會社ニ於テ公告ヲ爲シ所有者其地方ニ在ル
トキハ地方廳又ハ銀行若クハ會社ハ其費用計算書ヲ以テ直ニ所有者ニ請求スルコトヲ得此場合
ニ於テハ所有者ハ三日以内ニ之ヲ納付シ其受取書ヲ納金證書ニ添ヘ速ニ「華族局」ニ届出ヘシ
第二十二條 世襲財産ニ關スル請願届ハ左ノ書式ニ準據スヘシ
(書式ハ之ヲ略ス)

新舊法比照例 (明治十四年十二月第八十一號布告)

刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ノ例ニ從フヘシ
第一條 新舊法比照左ノ如シ

- 一 新法 死刑 舊法 斬絞
- 二 無期徒刑 懲役終身

三 有期徒刑 禁獄終身

四 無期流刑

禁獄終身

五 有期流刑

懲役十年

六 重懲役

懲役七年

七 輕懲役

禁獄十年

八 重禁獄

禁獄七年

九 輕禁獄

(懲役十一日以上五年以下)

十 重禁錮

(禁獄鎖錮十一日以上五年以下)

十一 輕禁錮

(贖罪收贖罰金料二圓以上)

十二 罰金

(懲役禁獄鎖錮拘留十日以下)

十三 拘留

(贖罪收贖罰金料二圓未滿)

十四 科料

(贖罪收贖罰金料二圓未滿)

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期内ニ在ルトキハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過クルコトヲ得ス
(舊法ニ於テ懲役百日ニ該ル者新法ニ照シ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ二
月以上百日以下ノ重禁錮ニ處スルノ類)

若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ
(舊法ニ於テ禁獄三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ
禁獄三十日ニ處スルノ類)

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者ニ過ルコト

ヲ得ス(舊法ニ於テ一年以上三年以下ノ懲役ニ該ル者新法ニ照ラシ三月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類)
 若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ(舊法ニ於テ二月以上三年以下ノ禁獄ニ該ル者新法ニ照ラシ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處スルノ類)

第四條 舊法ノ贖罪收贖者クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ在ルトキハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過クルコトヲ得ス

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數算數アル者ハ其算數ノ算キ者ニ從フ但其多數ノ算キ者ニ過クルコトヲ得ス

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加スヘキ時ハ其罰金ヲ附加セス

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ

第八條 舊法ニ於テ贖罪收贖者クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ舊法ニ從フ

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セス

第十一條 華土族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除セス

第十二條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス

諸罰例處斷方 (明治十四年十二月第七十二號布告)

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及ヒ科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未滿ヲ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ咎可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ「輕罪裁判所」ニ於テ之ヲ裁判ス但「始審裁判所」所在ノ地ヲ除クノ外ハ「治安裁判所」ニ於テ之ヲ裁判スルコトヲ得

爆發物取締罰則 (明治十七年十二月第三十二號布告)

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

(別冊)

爆發物取締罰則